

第二百八十一條 經畫ノ變更ヨリ代價ノ増減ヲ生ス可キモ書面ヲ以テ之ヲ定メサルトキハ其變更ヲ口實トシテ請負人ハ原代價ノ増加ヲ請求シ注文者ハ其減少ヲ請求スルコトヲ得ス

請負中ニ包含シタル建築ト全ク別ナル建築ヲ爲シ又ハ請負中ノ區分アル建築ヲ廢セシトキハ此規定ヲ適用セズ此場合ニ於テ當事者ノ間ニ一致ヲ得サルキハ裁判所原代價ノ増減ヲ定ム

請負人ハ經畫又ハ變更カ注文者ノ指圖ニ出テタルコトヲ口實トシテ第二百七十九條ニ定メタル責任ヲ免カルコトヲ得ス但請負人カ書面ヲ以テ此責任ヲ免カルコトヲ得タルトキハ此限ニ在ラズ

第二百八十二條 請負人カ仕事ノミヲ供スルト材料ヲ併セ供スルトヲ問ハズ注文者ハ常ニ自己ノ意思ノミヲ以テ契約ヲ解除スルコトヲ得然レトモ注文者ハ請負人ノ既成ノ仕事ノ賃銀及ヒ準備ノ材料ニ受ケタル損失其他ノ損害ヲ賠償シ且其契約ニ因リテ得ヘキ正當ナル利益ノ全部ヲ辨濟スル義務ヲ負擔ス

第二百八十三條 他人ノ材料ヲ以テ仕事ノ全部ニ供シタルト一分ニ供シタルト又其仕事ヲ實行シタルト契約ヲ解除シタルトヲ問ハズ請負人ハ仕事ノ爲メ又ハ解除ノ賠償ノ爲メ自己ノ受ク可キ金額ノ

留置ニ至ルマテ其材料ヲ留置スルコトヲ得但此留置權ハ動産物ノミニ之ヲ適用ス

第二百八十四條 注文者カ請負人其者ノ仕事ヲ主眼トシテ契約ヲ取結ヒタルトキハ其契約ハ請負人ノ死亡又ハ其仕事ノ不能ニ因リテ之ヲ解除スルコトヲ得

右二箇ノ場合ニ於テ注文者ハ自己ノ期望セシ用途ニ付キ利シタル仕事又ハ材料ノ價額ノミヲ請負人又ハ其相續人ニ辨濟スル責ニ任ス

第二百八十五條 仕事ノ一分ニ任シタル下請負人ト請負人トノ關係ニ付テハ上ノ規定ニ從フ

請負人カ下請負人ニ對シ負擔スル金額ヲ辨濟セサルトキハ下請負人ハ自己ノ名ヲ以テ直接ニ注文者ニ對シ其注文者ノ猶ホ請負人ニ辨濟ス可キ債務ノ限度ニ於テ訴ヲ起スコトヲ得

職工モ亦己レヲ雇ヒタル者カ賃銀ヲ辨濟セサルトキハ注文者ニ對シテ右ト同一ノ權利ヲ有ス

第十三章 相續 總則

第二百八十六條 相續ニ二種アリ家督相續及ヒ遺產相續是ナリ 二百八十四

第一節 家督相續

第二百八十七條 家督相續トハ戶主ノ死亡又ハ隱居ニ因ル相續ヲ謂フ

第一款 家督相續ノ通則

第二百八十八條 家督相續ヲ爲スハ一家一人ニ限ル

何人ト雖モ二家以上ノ家督相續ヲ爲スコトヲ得ス

第二百八十九條 婚姻又ハ養子縁組ニ因リ他家ニ入りテ其家ニ在ル

者ハ實家其他ノ家ノ家督相續ヲ爲スコトヲ得ス

第二百九十條 一人ニシテ數家ノ家督相續人ニ指定セラレ又ハ選定

セラレタル者ハ其中ノ一ヲ選擇スルコトヲ得

第二百九十一條 推定家督相續人ハ他家ノ家督相續人ニ指定セラレ

又ハ選定セラレタルモ其指定又ハ選定ハ無効トス

第二百九十二條 被相續人ヲ死ニ致シ又ハ死ニ致サントシタル爲メ

刑ニ處セラレタル者ハ相續ヨリ除斥セラレ但過失ニ因ルモノハ此

限ニ在ラス

第二百九十三條 相續除斥ノ訴權ハ被相續人ノ明示ノ宥免ニ因リテ

消滅ス

第二百九十四條 家督相續人ハ姓氏、系統、貴號及ヒ一切ノ財産ヲ相

續シテ戶主ト爲ル

系譜、世襲財産、祭具、墓地、商號及ヒ商標ハ家督相續ノ特權ヲ組成ス

第二款 家督相續人ノ順位

第二百九十五條 法律ニ於テ家督相續人ト爲ル可キ者ノ順位ヲ定ム

ルコト左ノ如シ

第一 被相續人ノ家族タル身屬親中親等ノ最モ近キ者

第二 身屬親中同親等ノ男子ト女子ト有ルトキハ男子

第三 男子數人アルトキハ其先ニ生マレタル者但嫡出子ト庶子

又ハ私生子ト有ルトキハ嫡出子

第四 女子ノニ數人アルトキハ其先ニ生マレタル者但嫡出子ト

庶子又ハ私生子ト有ルトキハ嫡出子

然レトモ右ノ規定ニ從ヒテ家督相續人タル可キ者カ被相續人ニ先

ダチテ死亡シ又ハ第二百九十七條ニ掲ケタル原因ニ由リテ廢除セ

ラレタル場合ニ於テ其者ニ身屬親アルトキハ其身屬親ハ法定ノ順

○民法○財産取得編

位ニ依リテ家督相續人ト爲ル

第二百九十六條 被相續人ハ正當ノ原因アルニ非サレハ法定ノ推定家督相續人ヲ廢除スルコトヲ得ス

第二百九十七條 法定ノ推定家督相續人ヲ廢除スルコトヲ得ヘキ正當ノ原因ハ左ノ如シ

第一 失踪ノ宣言

第二 民事上禁治産及ヒ准禁治産

第三 重禁錮一年以上ノ處刑

第四 家政ヲ執ルニ堪ヘサル不治ノ疾病

第五 祖父母、父母ニ對スル罪ノ處刑

第六 重罪ニ因レル處刑

第二百九十八條 推定家督相續人ノ廢除ハ遺言書ヲ以テ之ヲ爲シ又ハ身分取扱吏ニ申述シテ之ヲ爲スコトヲ得

申述ニ基シ家督相續人ノ廢除ハ被相續人之ヲ取消スコトヲ得廢除ノ取消ハ身分取扱吏ニ申述シテ之ヲ爲ス

第二百九十九條 法定ノ家督相續人アルトキハ被相續人ハ家督相續人ヲ指定スルコトヲ得ス但此規定ニ違ヒタル指定ト雖モ被相續人

一ノ死亡ノ日ニ法定ノ家督相續人アラサルトキハ有効トス

第三百條 家督相續人ノ指定ハ遺言書ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第三百一條 法定又ハ指定ノ家督相續人アラサル場合ニ於テ其家ニ

死亡者ノ父アルトキハ父、父アラサルトキハ母ハ左ノ順序ニ從ヒ家族中ヨリ家督相續人ヲ選定ス

第一 兄弟

第二 姊妹

第三 兄弟姊妹ノ身屬親中親等ノ最モ近キ男子若シ男子アラズ又ハ拋棄シタルトキハ女子

第三百二條 前條ノ場合ニ於テ父母アラサルトキハ家督相續人選定ノ權利ハ親族會ニ屬ス但親族會ハ前條ニ定メタル選定ノ順序ヲ變更スルコトヲ得ス

第三百三條 第三百一條ノ規定ニ從ヒ選定ス可キ家督相續人アラサルトキ又ハ皆拋棄シタルトキハ其家ニ在ル身屬親中親等ノ最モ近キ者任意ニ家督相續人ヲ爲スコトヲ得

第三百四條 前條ノ家督相續人アラサルトキハ配偶者家督相續人ヲ爲スコトヲ得

第三百五條 親族會ハ前數條ニ記載シタル相續人アラサルトキ又ハ皆拋棄シタルトキニ非サレハ他人ヲ選定スルコトヲ得ス

第三款 隱居家督相續ノ特別規則

第三百六條 隱居ヲ爲スコハ左ノ條件ノ具備スルコトヲ要ス

第一 滿六十年以上ナルコト

第二 任意ニ出タルコト

第三 成年ニシテ且實際家政ヲ執ルノ能力アル家督相續人カ單純ノ受諾ヲ爲シタルコト

第四 配偶者ノ承諾シタルコト

第三百七條 隱居者カ重病其他ノ原因ノ爲メニ實際家政ヲ執ル能ハサルトキ又ハ分家ノ戶主カ本家ヲ承繼スルノ必要アルトキハ本人ノ中立ニ因リ區裁判所ハ年齡ノ條件ヲ宥恕スルコトヲ得

第三百八條 隱居者ノ配偶者、親族及ヒ檢事ハ左ノ原因ノ一ニ基キ隱居届出ノ日ヨリ六十日內ニ故障ヲ申立ツルコトヲ得

第一 第三百六條第一號乃至第三號ノ條件ニ違ヒタル事實

第二 家督相續ヲ爲ス者カ推定家督相續人ニ非サル事實

又隱居カ任意ニ出テサリシ場合ニ於テハ隱居者モ亦故障ヲ申立ツ

ルコトヲ得

ルコトヲ得

第三百九條 隱居カ第三百六條第四號ノ條件ニ違ヒタル事實アルトキハ隱居者ノ配偶者ニ限リ故障ヲ申立ツルコトヲ得

又隱居者カ債權者ヲ詐害スルノ意思ヲ以テ隱居ヲ爲サントスルトキハ債權者ハ故障ヲ申立ツルコトヲ得

前條ノ期間ハ本條ニモ亦之ヲ適用ス

第三百十條 隱居ヲ爲ストキハ當事者ヨリ其旨ヲ身分取扱吏ニ届出ツ可シ

第三百十一條 隱居家督相續ハ届出前ノ利害關係人ニ對シテハ第三百八條ニ定メタル期間滿限ノ日ヨリ又故障アリタルトキハ其故障ノ棄却確定シタル日ヨリ死亡ニ因ル相續ト同一ノ効力ヲ生ス但隱居者ノ終身ヲ限度トスル權利及ヒ義務ヲ消滅セシメス

第二節 遺產相續

第三百十二條 遺產相續トハ家族ノ死亡ニ因ル相續ヲ謂フ

第三百十三條 家族ノ遺產ハ其家族ト家ヲ同フスル身屬親之ヲ相續シ身屬親ナキトキハ配偶者之ヲ相續シ配偶者ナキトキハ戶主之ヲ相續ス

○民法○財產取得編

○民法○財產取得編

○民法○財產取得編

○民法○財產取得編

○民法○財產取得編

○民法○財產取得編

○民法○財產取得編

第三百十四條 昇鷹親カ遺產ヲ相續スル場合ニ於テハ第二百九十五條ノ規定ヲ適用ス

二百九十

第三節 國ニ屬スル相續

第三百十五條 相續人アラサル財産ハ當然國ニ屬ス

國ニ限定ノ受諾ヲ以テ相續ス

第三百十六條 國ニ屬ス可キ相續財産ハ其價收ヲ爲スコ至ルマテ相續人曠缺ノ財産ヲ管理スル如ク之ヲ管理ス

第四節 相續ノ受諾及ヒ拋棄

第三百十七條 相續人ハ相續ニ付キ單純若クハ限定ノ受諾ヲ爲シ又ハ拋棄ヲ爲スコトヲ得但法定家督相續人ハ拋棄ヲ爲スコトヲ得ス

又隱居家督相續人ハ限定ノ受諾ヲ爲スコトヲ得ス

第三百十八條 隱居家督相續ヲ除ク外相續人ハ相續財産ヲ調査スル爲メ相續ノ日ヨリ三個月ノ期間ヲ有ス但裁判所ハ情況ニ因リ更ニ三個月内ノ延期ヲ許スコトヲ得

受諾又ハ拋棄ヲ決定スル爲メ一個月ノ期間ヲ有ス此期間ハ調査期間滿限ノ日又ハ其前ニ實際ノ調査ヲ終了シタル日ヨリ之ヲ算ス

第三百十九條 相續人ハ調査又ハ決定ノ期間内相續財産ニ關スル一

切ノ訴訟手續ヲ止停セシムルコトヲ得

第三百二十條 相續財産ニ關スル訴訟ニ要セシ費用ハ法律上ノ期間内ニ係ルモノト裁判所ノ許シタル延期内ニ係ルモノトサ問ハス總テ相續財産ノ負擔トス但相續人ノ所爲又ハ過失ニ因リテ要セシ費用ハ此限ニ在ラス

第三百二十一條 相續財産中ニ損敗シ易ク又ハ保存スルニ要セシ費用ヲ要スル物品アルトキハ調査又ハ決定ノ期間内ト雖モ區裁判所ノ認可ヲ得テ其物品ヲ競賣ニ付スルコトヲ得但日用品ハ裁判所ノ認可ヲ經スシテ之ヲ處分スルコトヲ得

第一款 單純ノ受諾

第三百二十二條 相續人カ被相續人ノ財産ニ關シ明示又ハ默示コテ其代表者ト爲ルノ意思ヲ顯ハストキハ單純ノ受諾トス

第三百二十三條 左ノ如キ場合ニ於テハ默示ノ受諾アリトス

第一 相續財産ノ一箇又ハ數箇ニ付キ他人ノ爲メニ所有權ヲ讓渡シ又ハ其他ノ物權ヲ設定シタルトキ但財産編第百十九條以下ノ制限ニ從ヒタル賃借權ノ設定ハ此限ニ在ラス

第二 相續人カ第三百十八條ノ期間内ニ限定受諾又ハ拋棄ヲ爲

○民法○財産取得編

二百九十一

右ノ外尙ホ第三百二十七條第二號ノ場合ハ單純ノ受諾ヲ成ス

第三百二十四條 受諾ハ左ノ原因ノ一アルニ非サレハ之ヲ銷除スル
コトヲ得ス

第一 身體又ハ財産ニ強暴ヲ加ヘラレタルニ因リテ受諾シタル
トキ

第二 詐欺ノ爲メニ受諾シタルトキ

第三 無能力者又ハ後見人カ方式ニ違ヒテ受諾シタルトキ

第四 受諾ノ時成立セルコトヲ知ラサル債務ノ爲メ破産又ハ無
資力ト爲ルニ至ル可キトキ

此銷除訴權ハ財産編第五百四十四條以下ニ規定シタル銷除訴權ノ
期間及ヒ條件ニ從フ

第二款 限定ノ受諾

第三百二十五條 相續人カ相續財産ノ限度マテニ非サレハ債務ノ詳
償ノ責ニ任セサルトキハ限定ノ受諾トス

第三百二十六條 相續人ニシテ限定ノ受諾ヲ爲スノ意思ヲ有スル者
ハ第三百十八條ノ期間内ニ調査シタル財産ノ目録ヲ相續地ノ區裁

判所ヨリ差出タシ其申述ヲ爲シ裁判所ハ別段ニ備ヘタル帳簿ニ之ヲ
記載ス可シ

第三百二十七條 左ノ場合ニ於テハ相續人ハ限定受諾ヲ爲スノ權利
ヲ失フ

第一 單純ノ受諾ヲ爲シタルトキ

第二 相續財産ヲ私取シ若クハ隱匿シ又ハ惡意ヲ以テ財産調査
目録中ニ相續財産ノ幾分ヲ記載セカリシトキ

第三百二十八條 限定受諾者ハ其特有財産ニ於ケルト同一ノ注意ヲ
以テ相續財産ヲ管理シ債權者及ヒ受遺者ニ其計算ヲ爲ス可シ但此
計算ハ債務及ヒ遺贈ノ辨濟ノ爲メ相續財産ヲ拂盡シタル後一個月
内ニ之ヲ完了スルコトヲ要ス

第三百二十九條 限定受諾者ハ動産ト不動産トヲ問ハズ總テ相續財
産ノ賣却ヲ要スルトキハ區裁判所ノ許可ヲ得テ之ヲ競賣ニ付ス可
シ

第三百三十條 限定受諾者ハ適法ニ賣却シタル財産ノ各箇ニ付テ得
タル代價ヲ混同セズ其各箇ニ付テ優先權ヲ有スル債權者ニ順次ニ
辨濟ス可シ

○民法○財産取得編

第三百三十一條

二百九十四

相續ノ負擔スル債務又ハ遺贈ノ辨濟ヲ差押ヘ又ハ其辨濟ニ付キ異議ヲ述フル債權者又ハ受遺者アルトキハ限定受諾者ハ裁判ヲ以テ定メタル順次及ヒ方法ニ從フニ非レハ其辨濟ヲ爲スコトヲ得ス

第三百三十二條

前條ノ差押又ハ異議アラサルキハ債權者又ハ受遺者ノ要求ニ從ヒテ辨濟ヲ爲ス辨濟ノ爲メニ相續財産ヲ拂盡シタル後ト雖モ第三百二十八條ニ規定シタル計算ヲ完了セサル前ニ要求ヲ爲ス債權者又ハ受遺者ハ左ノ區別ニ從ヒ既ニ辨濟ヲ得タル債權者及ヒ受遺者ニ對シテ求償權ヲ行フコトヲ得

第一 債權者ハ先ツ受遺者ニ對シテ求償權ヲ行フコトヲ得

第二 受遺者ハ單ニ受遺者ニ對スルコト

第三百三十三條

相續人カ計算ノ完了ヲ遲延シタル場合ニ於テハ債權者中未ダ辨濟ヲ得サル者ヨリ既ニ辨濟ヲ得タル受遺者及ヒ債權者ニ求償スルコトヲ得ヘキ額ヲ直テニ相續人ノ特有財産ニ付キ求償スルコトヲ得

第三百三十四條

相續財産ヲ拂盡シ計算ヲ完了シタル後ニ要求ヲ爲ス債權者ハ單ニ辨濟ヲ得タル受遺者ニ對スルニ非サレハ求償權ヲ行フコトヲ得ス

第三百三十五條

前三條ノ求償權ハ三ヶ年之間之ヲ行フコトヲ得但此期間ハ計算ノ完了前ニ係ルトキハ初メ相續人ニ要求シタル日又完了後ニ係ルトキハ其完了ノ日ヨリ之ヲ算ス

第三款 拋棄

第三百三十六條

相續ヲ拋棄セントスル相續人ハ相續地ノ區裁判所ニ其旨ヲ申述シ裁判所ハ別段ニ備ヘタル帳簿ニ之ヲ記載ス可シ

第三百三十七條

拋棄シタル相續ハ他ニ受諾シタル相續人アラサル間ハ拋棄者更ニ之ヲ受諾スルコトヲ得然レトモ此受諾ハ第三百十八條ノ期間内ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但相續財産ニ付キ第三三者ノ有効ニ得タル權利ヲ害スルコト無シ

第三百三十八條

相續ヲ拋棄シタル者ハ他ニ受諾シタル相續人アリト雖モ左ノ場合ニ於テハ其拋棄ヲ銷除スルコトヲ得

第一 身體又ハ財産ニ強暴ヲ加ヘラレタルニ因リテ拋棄シタルトキ

第二 詐欺ノ爲メニ拋棄シタルトキ

第三 無能力者又ハ後見人カ方式ニ違ヒテ拋棄シタルトキ

○民法○財産取得編

此銷除訴權ハ財産編第五百四十四條以下ニ規定シタル期間及ヒ條件ニ從フ

二百九十六

第三百三十九條 債權者ヲ詐害スル意思ニ出テタル拋棄ハ財産編第三百四十一條以下ニ定メタル區別及ヒ期間ニ從ヒ債權者自己ノ利益ノ爲メ之ヲ廢罷スルコトヲ得

第三百四十條 遺法ニ受諾シ又ハ受諾者ト推定セラレタル者ハ拋棄ヲ爲スコトヲ得ス

第三百四十一條 相續ニ包含スル物ヲ私取シ又ハ隱匿シタル相續人ハ其相續ヲ拋棄スル權利ヲ失フ

第四款 相續人ノ曠飲セル相續財産ノ處分

第三百四十二條 相續人現出セス相續人ノ有無分明ナラス又ハ相續人相續ヲ拋棄シタルトキハ相續人ノ曠飲セルモノト看做ス

第三百四十三條 相續地ノ區裁判所ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リテ相續財産ノ管理人ヲ命ス可シ

第三百四十四條 管理人ハ利害關係人ヲ召喚シテ相續財産ヲ調査シ其目錄ヲ作り財産ノ形狀ヲ檢證セシム可シ
管理人ハ此手續ヲ終了シタル後相續ニ屬スル權利ヲ行使シ之ヲ訟

求シ又其相續ニ對スル訟求ニ答辯ス可シ

金錢ハ相續財産中ニ存スルモノト其賣却ヨリ得タルモノトヲ問ハス供託所ニ之ヲ供託ス可シ

相續ノ負擔スル債務ハ區裁判所ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ辨濟スルコトヲ得ス

第三百四十五條 限定受諾者ノ義務及ヒ責任ニ關シ第三百二十八條以下ニ定メタル規則ハ管理人ニ之ヲ適用ス

第三百四十六條 管理人ハ計算ヲ完了シテ尙ホ相續財産ノ存スルコト於テハ區裁判所ノ許可ヲ得テ之ヲ競賣ニ付シ其得タル金額ヲ供託所ニ供託ス可シ

管理人ハ其領收證ヲ區裁判所ニ差出タシ區裁判所ハ之ヲ保存ス可シ

第三百四十七條 相續人現出スルトキハ其相續人ハ區裁判所ヨリ供託所ノ領收證及ヒ相續人タル身分ノ證明書ヲ得テ之ヲ供託所ニ提出シ供託金額ヲ領收ス可シ

第三百四十八條 相續人アラサルコト確實ニ至リタルトキハ國ハ特別法ニ從ヒ供託金額ヲ領收ス可シ

○民法○財産取得編

二百九十七

第十四章 贈與及遺贈

總則

第三百四十九條

贈與トハ當事者ノ一方カ無償ニテ他ノ一方ニ自己ノ財産ヲ移轉スル要式ノ合意ヲ謂フ

第三百五十條

贈與ハ單純、有期又ハ條件附ナルコト有リ
贈與ハ法律ノ認メタル原因アルニ非サレハ之ヲ廢罷スルコトヲ得ス

第三百五十一條

贈與者ハ贈與物ノ妨碍及ヒ追奪ヲ擔保セズ但其贈與以後ニ係ル贈與者ノ所爲ヨリ生シタル妨碍及ヒ追奪ハ此限ニ在ラズ

第三百五十二條

遺贈トハ當事者ノ一方カ他ノ一方ニ無償ニテ自己ノ財産ヲ遺言ニ因リテ死亡ノ時ニ移轉スル行爲ヲ謂フ
遺贈ハ遺言者隨意ニ之ヲ廢罷スルコトヲ得

第三百五十三條

遺言書中ニ存スル不能又ハ不法ノ條件ハ之ヲ記セサルモノト看做ス
贈與書中ニ不能又ハ不法ノ條件アルトキハ其贈與ヲ無効ト爲ス

第一節 贈與又ハ遺贈ヲ爲シ又ハ收受スル能力

第三百五十四條

法律上特ニ無能力者ト定メタル者ヲ除ク外何人ニ限ラズ贈與及ヒ遺贈ヲ爲シ又ハ收受スル能力ヲ有ス

第三百五十五條

左ニ掲グル者ハ贈與ヲ爲ス能力ヲ有セス
第一 贈與ヲ爲ス時ニ於テ喪心シタル者

第二 禁治產者

第三 瘋癲ノ爲メ病院又ハ監置ニ在ル者

第四 未成年者但夫婦財產契約ノ爲メ法律ノ特ニ許ス場合ハ例外トス

第三百五十六條

准禁治產者ハ財産讓渡ノ爲メ法律ノ要スル方式ニ從フニ非サレハ贈與ヲ爲スコトヲ得ス

第三百五十七條

左ニ掲グル者ハ遺贈ヲ爲ス能力ヲ有セス
第一 遺贈ヲ爲ス時ニ於テ喪心シタル者

第二 民事上ノ禁治產者

第三 瘋癲ノ爲メ病院又ハ監置ニ在ル者

第四 未成年者但自治產者ハ此限ニ在ラズ

第二節 贈與

第一款 贈與ノ方式

○民法○財産取得編

第三百五十八條

贈與ハ分家ノ爲メニスルモノト其他ノ原因ノ爲メニスルモノトヲ問ハス普通ノ合意ノ成立ニ必要ナル條件ヲ具備スル外尙ホ公正證書ヲ以テスルニ非サレハ成立セズ然レトモ慣習ノ贈物及ヒ單一ノ手渡ニ成ル贈與ニ付テハ此方式ヲ要セズ

第三百五十九條

贈與ハ贈與者ノ現有ノ財産ノミチ包含ス若シ將來ノ財産ヲ包含シタルトキハ其財産ニ付テハ贈與ハ無効トス然レトモ數額ノ定マリタル金銭又ハ定量物ノ贈與ハ贈與者ノ現有ナルト否トヲ問ハス有効トス

第三百六十條

贈與ノ性質又ハ諾約ニ因リテ受贈者カ贈與者ノ債務ヲ辨濟スル義務ヲ負ヒタルトキハ其義務ハ贈與ノ時既ニ存在シタ受贈者カ贈與者ノ將來ノ債務ヲ辨濟ス可キノ諾約ヲ爲シタルトキハ其諾約ハ無効トス

第三百六十一條

贈與者ハ自己ノ利益ニ於テスルニ非サレハ自己ニ先タナテ受贈者ノ死亡スルトキ其贈與ヲ解除ス可キ條件ヲ要約スルコトヲ得ス

若シ贈與者カ其相續人又ハ第三者ノ利益ニ於テ此解除條件ヲ要約シタルトキハ其條件ハ無効トス

第三百六十二條

前條第一項ノ規定ニ從ヒテ有効ニ要約シタル解除條件ノ成就ハ受贈者ノ相續人ニ對スルト第三者ニ對スルトヲ問ハス普通ノ合意ニ於テ要約シタル解除條件ト同一ノ効力ヲ生ス然レトモ受贈者ノ婦ハ解除ニ拘ハラス左ノ二箇ノ條件具備スルトキハ贈與財産ニ付キ法律上ノ抵當權ヲ保有ス

第一 贈與カ夫婦財産契約ヲ以テ夫ノ爲メ爲サレタルモノナルトキ

第二 贈與財産ノ外ナル夫ノ財産ヲ以テ婦ノ特有財産ノ返還ヲ擔保スルコト足ラサルトキ

第二款 贈與ノ廢罷

第三百六十三條

贈與ハ合意ヲ無効ト爲ス普通ノ原因ノ外尙ホ贈與者ノ要約シタル條件ノ不履行ノ爲メ之ヲ廢罷スルコトヲ得

第三百六十四條

條件ノ不履行ニ基ク贈與ノ廢罷ハ贈與者又ハ其承繼人ヨリ之ヲ請求スルコトヲ得

第三百六十五條

條件ノ不履行ニ基キ贈與ヲ廢罷シタル場合ニ於テ

○民法○財産取得編

ハ受贈者ニ對スルト第三者ニ對スルトヲ問ハス未必條件ノ成就ニ
因リテ合意ヲ解除シタルトキト同一ノ効力ヲ生ス

第三節 夫婦間ノ贈與ノ特例

第三百六十六條 未成年ノ夫又ハ婦ハ婚姻ノ許諾ヲ與フ可キ人ノ許
諾及ヒ立會ヲ得且夫婦財產契約ヲ以テスルニ非サレハ贈與ヲ爲ス
コトヲ得ス

第三百六十七條 夫婦間ノ贈與ハ何等ノ約款アルコト拘ハラズ婚姻中
贈與者隨意ニ之ヲ廢罷スルコトヲ得

贈與ノ廢罷ハ第三者ニ對シテ効力ヲ有セズ但贈與ノ登記ニ廢罷ノ
新狀ヲ附記シタル後ニ受贈者ノ遺產所持者ヨリ贈與財產ニ付キ物
權ヲ取得シタル第三者ニ對シテハ此限ニ在ラス

第四節 遺贈

第一款 遺言ノ方式

第三百六十八條 遺言ハ遺言者ノ自筆ノ證書、公正證書又ハ秘密ノ
方式ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得

然レトモ二人以上ノ人ハ一箇ノ證書ヲ以テ遺言ヲ爲スコトヲ得ス
第三百六十九條 自筆ノ遺言書ハ遺言者カ其全文、日附及ヒ氏名ヲ

自書シテ捺印シタルニ非サレハ其効ヲ有セズ

第三百七十條 公正證書ニ依ル遺言ハ公證人一人及ヒ證人二人ノ前
ニ於テ遺言者カ遺言ノ旨趣ヲ口授シ公證人之ヲ筆記シ朗讀シタル
後遺言者及ヒ證人各其氏名ヲ自書シテ捺印シタルニ非サレハ其効
ヲ有セズ

然レトモ氏名ヲ自書スル能ハサル者アルトキハ其事由ヲ證書ニ記
載スルヲ以テ足ル

第三百七十一條 秘密ノ方式ニ依ル遺言書ハ遺言者ノ自書シタルト

他人ノ之ヲ書シタルトキ問ハス左ノ諸件ヲ具備スルニ非サレハ其
効ヲ有セズ

第一 遺言者カ氏名ヲ自書シテ捺印シタルコト

第二 遺言書ヲ封シテ遺言者カ之ニ封印シタルコト

第三 遺言者カ公證人一人及ヒ證人二人ノ前ニ封書ヲ提出シテ
自己ノ遺言書タル旨ヲ陳述シタルコト

第四 公證人カ遺言者ノ陳述ト之ヲ聽キタル日附トヲ封紙ニ記
シテ遺言者及ヒ證人ト共ニ各其氏名ヲ自書シテ捺印シタルコ
ト但此場合ニ於テ氏名ヲ自書スル能ハサル證人アルトキハ公
○民法○財產取得編

證人其事由ヲ封紙ニ記スルヲ以テ足ル

公證人ハ遺言者ノ死亡ノ後其相續人ノ立會ノ上ニ非サレハ開封セサル旨ヲ記シタル領收書ヲ遺言者又ハ其指定シタル證人中ノ一人ニ授付ス可シ

第三百七十二條 祕密ノ方式ニ依ル遺言ハシテ有効ナル爲メ前條ニ定メタル條件ニ缺クルモノ有リト雖モ其全文、日附及ヒ氏名共ニ遺言者ノ自書ニ係ルトキハ自筆ノ遺言書トシテ有効トス

第三百七十三條 受遺者、遺言ニ立會フ公證人ノ筆生其他普通ノ無能力者ハ證人ト爲ルコトヲ得ス

第二款 遺言ノ特別方式

第三百七十四條 軍人及ヒ軍屬ニシテ遠征中ニ在ル者又ハ内地ト雖モ交戰中若シハ合圍中ニ在ル者ハ將校一人證人二人ノ補助ヲ以テ遺言書ヲ作ルコトヲ得

第三百七十五條 遠征中、交戰中又ハ合圍中ニ在ル軍人及ヒ軍屬ニシテ疾病又ハ傷痍ノ爲メ病院ニ在ル者ハ其院ノ醫官及ヒ事務官ノ補助ヲ以テ遺言書ヲ作ルコトヲ得

第三百七十六條 傳染病ノ爲メ行政處分ヲ以テ交通ヲ遮斷シタル地

方ニ在ル者ハ其疾病中ナルト否トヲ問ハス警察官一人及ヒ證人一人ノ補助ヲ以テ遺言書ヲ作ルコトヲ得

第三百七十七條 航海中ニ在ル者ハ軍艦ニ在テハ將校一人其他ノ船舶ニ在テハ事務員一人及ヒ證人二人ノ補助ヲ以テ遺言書ヲ作ルコトヲ得

第三百七十八條 海上ニテ遺言書ヲ作リタルトキハ其旨ヲ航海日誌ニ記載ス可シ

第三百七十九條 本款ノ規定ニ從ヒテ作リタル遺言書ニハ遺言者、代書者及ヒ立會人各其氏名ヲ自書シテ捺印ス可シ
氏名ヲ自書シ又ハ捺印スル能ハサル者アルトキハ其事由ヲ遺言書ニ記載スルヲ以テ足ル

第三百八十條 外國ニ在ル日本人ハ第三百六十九條ニ定メタル自筆ノ方式ニ依リ又ハ其他ニ用ユル公正ノ方式ニ從ヒテ遺言ヲ爲スコトヲ得

第三百八十一條 外國ニ於テ作リタル遺言書ハ遺言者ノ日本國內ニ有スル住所ノ區裁判所ノ簿冊ニ之ヲ登錄シ若シ住所ノ知レサルトヤハ最終居所ノ區裁判所ノ簿冊ニ之ヲ登錄シタル後ニ非サレハ日

○民法○財産取得編

本國內ニ在ル財産ニ付キ其遺言ヲ執行スルコトヲ得ス
又其遺言書ニ日本國內ニ在ル不動産ノ處分ヲ包含スルトキハ其不
動産所在地ノ區裁判所ニ登記ヲ求メタル後ニ非サレハ第三者ニ對
抗スルコトヲ得ス

第三百八十二條 日本ニ在ル外國人ハ日本ノ法律ニ從ヒ又ハ其本國
ノ法律ニ從ヒテ遺言ヲ爲スコトヲ得

第三款 遺贈ヲ爲スコトヲ得ル財産ノ部分

第三百八十三條 遺贈ヲ爲スコトヲ得ル財産ト相續人ニ貯存ス可キ
財産トノ部分ヲ定ムルニハ家督相續ノ特權ヲ組成スルモノヲ控除
ス

第三百八十四條 法定家督相續人アルトキハ被相續人ハ相續財産ノ
半額マテニ非サレハ他人ノ爲メ遺贈ヲ爲スコトヲ得ス
家族ノ遺産ヲ相續スル身屬親アルトキモ亦同シ

第三百八十五條 用益權ノ如キ其存立時間ノ不確實ナル權利ハ相續
ノ時ニ於ケル價額ヲ査定シテ遺贈ヲ爲スコトヲ得ル部分ヲ定ム
其權利ノ價額ハ遺贈ヲ爲スコトヲ得ル部分ヲ超過スルトキハ相續
人ハ或ハ被相續人ノ遺贈ヲ履行シ或ハ遺贈ヲ爲スコトヲ得ル部分

ノ完全ナル所有權ヲ與ヘテ其權利ヲ受戻スコトヲ得

第三百八十六條 遺贈ヲ爲スコトヲ得ル部分ヲ超過スル遺贈ハ之ヲ
其部分マテニ減殺ス

第三百八十七條 減殺ス可キ分量ハ相續ノ時ニ現存スル總テノ財産
ノ評價額ヨリ被相續人ノ債務額ヲ控除シタル剩餘額ニ付キ之ヲ算
定ス

第三百八十八條 遺贈ノ幾分ヲ減殺シテ貯存ス可キ財産ノ分量ヲ組
成ス可キトキハ包括ノ遺贈ト特定ノ遺贈トヲ問ハス其價額ノ割合
ヲ以テ總テノ遺贈ヲ減殺ス可シ

第三百八十九條 總テノ贈與ニシテ贈與者ノ死亡ノ後執行ス可キモ
ノハ遺贈ト其効力ヲ同フス

第四款 遺言ノ効力及ヒ執行

第三百九十條 單純又ハ有期ノ遺贈ハ遺言者ノ死亡ノ時ヨリ受遺者
ノ知ルト否トヲ問ハス包括ノ遺贈ニ付テハ其包含スル財産及ヒ債
務ヲ受遺者ニ移轉シ特定ノ遺贈ニ付テハ其遺贈物ノ權利ヲ受遺者
ニ移轉ス然レトモ有期ノ遺贈ハ滿期ニ至ルマテ其執行ヲ止ム
停止又ハ解除ノ條件附ニ於ケル遺贈ノ効力ハ合意ノ事項ニ關シテ

○民法○財産取得編

規定シタル如ク其條件ノ成就如何ニ從テ、
遺贈ノ目的物カ代替物ナルトキハ其所有權ハ財產編第三百三十二
條ノ規定ニ從ヒテ移轉ス

如何ナル場合ニ於テモ受遺者ハ遺贈ヲ拋棄スルコトヲ得
第三百九十一條 遺言者カ不分ノ權利ヲ有スル物ヲ遺贈シタルトキ
ハ受遺者ハ遺言者ト同一ナル權利ヲ取得ス

第三百九十二條 受遺者ハ遺贈物ノ引渡ヲ要求シタル時ヨリ後ニ非
サレハ遺贈物ノ果實ヲ收受スル權利ヲ有セズ但期限ノ到來シ又ハ
未必條件ノ成就シタルコトヲ要ス
然レトモ左ノ三箇ノ場合ニ於テハ受遺者ハ遺言者ノ死亡、滿期又
ハ條件成就ノ時ヨリ要求ヲ待タズシテ直チニ果實ヲ收受スル權利
ヲ有ス

第一 遺言者カ果實ヲ收受スル權利ヲ明示シタルトキ
第二 遺贈カ養料ノ性質ヲ有スルトキ

第三百九十三條 遺贈物ハ其遺贈ノ單純ナルトキハ當然ノ附從物ト
供ニ遺言者ノ死亡ノ時ニ於ケル現狀ニテ之ヲ引渡ス可シ其遺贈ノ

有期又ハ未必條件附ナルトキハ引渡ヲ請求スルコトヲ得ヘキ時ニ
於ケル現狀ニテ之ヲ引渡ス可シ

相續人カ遺贈物ニ加ヘタル改良又ハ毀損ハ相續人ト受遺者トノ間
相互ニ賠償ヲ請求スル權利ヲ生ス
解除ノ未必條件ヲ以テ遺贈ヲ爲シタル場合ニ於テ其條件ノ成就シ
タルトキハ受遺者又ハ其相續人ヨリ遺贈物ヲ現狀ニテ返還ス可シ
但人爲ニ因ル改良又ハ毀損ニ付キ雙方ノ間ニ於ケル相互ノ賠償ヲ
妨ケズ

第三百九十四條 遺言者カ遺言ノ後ニ取得シタル土地又ハ建物ハ遺
贈ノ不動産ニ接著シ又ハ其不動産ノ利用ヲ改良スル爲メニ供ヘク
ルモノト雖モ其不動産ノ受遺者ヲ利セズ

第三百九十五條 遺言書ハ公正證書ヲ除ク外相續地ノ區裁判所ノ檢
認ヲ得タル後ニ非サレハ之ヲ執行スルコトヲ得ス
封印アル遺言書ハ區裁判所ニ於テスルニ非サレハ開封スルコトヲ
得ス

前二項ノ規定ニ違フ者ハ百圓以下ノ過料ニ處ス

第三百九十六條 遺言ノ執行及ヒ遺贈物ノ引渡ニ關スル費用ハ相續
○民法○財産取得編
三百九

財產ノ負擔トス但貯存財產ニ負擔セシムルコトヲ得ス
第三百九十七條 不動產物權ノ遺贈ハ遺言者ノ死亡ノ後受遺者カ其遺贈ヲ知リタル時ヨリ三十日内ニ之ヲ登記シタルコト非サレハ言遺者ノ死亡ノ日ニ遡リテ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス
登記ノ費用ハ受遺者ノ負擔トス

第三百九十八條 遺言者ハ合意又ハ遺言ヲ以テ遺贈ノ執行ヲ一人又ハ數人ニ委託スルコトヲ得
遺言執行者ハ代理人ノ普通義務ニ服ス

第五款 遺言ノ廢罷及ヒ失効

第三百九十九條 遺言ハ遺言者隨意ニ之ヲ廢罷スルコトヲ得廢罷ハ明示又ハ默示ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第四百條 遺言者カ遺言ノ方式ニ從ヒ遺言ノ全部又ハ一分ヲ廢罷スル意思ヲ證書ニ記載シタルトキハ其廢罷ハ明示ノモノトス

第四百一條 後ノ遺言ヲ以テ前ノ遺言ニ包含スル特定物ヲ處分シタルトキハ其物コ付テハ前ノ遺言ヲ默示ニテ廢罷シタルモノトス
遺言者カ生存中遺言ニ包含スル特定物ヲ有償又ハ無償ニテ處分シタルトキモ亦同シ

第四百二條 廢罷ニ歸シタル遺言ハ前條ノ處分ノ無効ト爲ルトキト雖モ有効ニ復セス

第四百三條 遺言ハ受遺者ノ條件不履行ノ爲メ又ハ遺言者ヲ死ニ致シタル原因ノ爲メ相續人ヨリ廢罷ヲ請求スルコトヲ得

第四百四條 遺言ハ方式上完全ノモノト雖モ左ノ場合ニ於テハ其効ヲ失フ

第一 受遺者カ遺言者ヨリ先ニ死亡シタルトキ
第二 停止條件附ノ遺言ニ付キ其條件ノ成就前ニ受遺者ノ死亡シタルトキ

第四百五條 廢罷又ハ失効ニ歸シタル遺言ノ部分ニ付テハ曾テ遺言アラサリシモノト看做ス但遺言者カ明示ヲ以テ其部分ヲ利得ス可キ旨ヲ指定シタルトキハ此限ニ在ラス

第五節 包括ノ贈與又ハ遺言ニ基ク不分財產ノ分割
第四百六條 包括ノ贈與又ハ遺贈ヲ爲シタルニ因リ贈與者又ハ相續人ト受贈者又ハ受遺者トノ間ニ不分財產ヲ生シタルトキハ下ノ規定ニ從ヒ之ヲ分割ス受贈者又ハ受遺者數人アルトキモ亦同シ

第一款 分割

○民法○財產取得編

第四百七條

三百十二

不分財產ノ所有者ノ各自ハ其財產ノ分割ヲ要求スルコトヲ得財產編第三十九條ノ規定ニ從ヒテ分割セサルコトヲ約シタルトキハ此限ニ在ラス

第四百八條 分割ハ明示ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス財產ヲ區別シテ收益スル事實ハ分割トセス

第四百九條 不分財產ノ分割ハ所有者各自ノ合意ヲ以テ自由ニ之ヲ爲スコトヲ得

然レトモ左ノ場合ニ於テハ裁判ヲ以テスルニ非サレハ其分割ヲ爲スコトヲ得ス

第一 所有者中ニ未成年者、禁治産者又ハ癡癲者アリテ其後見人又ハ假管理人アラサルトキ

第二 所有者中ニ不在者アリテ有効ニ分割ヲ承諾スル權限ヲ有スル合意上ノ代理人アラサルトキ

第三 所有者中ニ合意上ノ分割ヲ承諾セサル者アルトキ

第四百十條 裁判上ノ分割ヲ要スルトキハ相續地ノ區裁判所ハ相續人、債權者又ハ檢事ノ請求ニ因リ封印ヲ爲シ及ヒ目錄ヲ作ラシム可シ

第四百十一條

裁判上ノ分割ヲ要セサルトキト雖モ債權者ハ區裁判所ノ許可ヲ得テ封印及ヒ目錄調製ヲ請求スルコトヲ得但執行力アル證書ヲ有スルトキハ此許可ヲ要セス

第四百十二條 所有者ノ各自ハ不分財產ノ現物ニテ其部分ノ引渡ヲ要求スルコトヲ得但債權者其引渡ヲ差押ヘタルトキ又ハ所有者ノ多數ヲ以テ其財產ノ負擔スル債務及ヒ費用ヲ豫メ辨濟スル爲メ賣却ヲ必要ト決シタルトキハ此限ニ在ラス

第四百十三條

未成年者、禁治産者、癡癲者又ハ不在者ノ爲メ定メタル規則ニ違ヘル分割ハ其者ノ利益ニ於テノミ假定ノモノトス

第四百十四條 分割ノ際利益ノ相反スル無能力者又ハ不在者ノ數人アルトキハ其各自ノ爲メ臨時保佐人又ハ管理人ヲ指定ス可シ

第四百十五條 分割ノ結了シタルトキ各所有者ハ其領收シタル物ノ證書ヲ保有ス

所有者ノ總體又ハ數人ニ分割シタル一箇ノ物ノ證書ハ其最大ノ部分ヲ領收シタル者之ヲ保有ス最大ノ部分ヲ領收シタル者ナキトキハ各所有者ノ協議ヲ以テ其保有者ヲ定ム若シ協議ハサルトキハ裁判

○民法○財産取得編

判所之ヲ指定ス
何レノ場合ニ於テモ證書ノ保有者ハ他ノ所有者ノ求メニ應シテ之ヲ使用セシム可シ
第四百十六條 所有者ハ各自ニ受クル部分ノ割合ヲ以テ債務ヲ分擔ス

第二款 分割ノ効力及ヒ擔保

第四百十七條 分割ノ効力ニ付テハ第五百五十五條ノ規定ヲ適用ス
第四百十八條 各所有者ハ分割前ノ原因ニ基ク分割物ノ妨碍及ヒ追奪ニ付キ互ニ擔保ノ責ニ任ス
但別段ノ合意ヲ以テ擔保ヲ免除シタルトキハ此限ニ在ラス

第四百十九條 債權ニ付テハ分割ノ當時ニ於ケル債務者ノ資力ノ限度マテニ非サレハ各所有者擔保ノ責ニ任セス
第三款 分割ノ銷除

第四百二十條 分割ハ財産編第三百四條以下ニ定メタル區別ニ從ヒ不成立又ハ無効タル外尙ホ所有者ノ一人カ其領收シタル部分ニ付キ四分一以上ノ飲損ヲ被フリタルトキハ其飲損ノ爲メ之ヲ銷除スルコトヲ得

飲損ノ査定ハ分割ノ時ニ於ケル物ノ價格ニ從ヒテ之ヲ爲ス可シ
第四百二十一條 分割銷除ノ訴權ハ財産編第五百四十四條以下ニ定メタル時効及ヒ認諾ニ因リテ消滅ス

第十五章 夫婦財産契約 第一節 總則

第四百二十二條 夫婦財産契約ハ婚姻ノ儀式前ニ之ヲ爲シ及ヒ公證人ヲシテ其證書ヲ作ラシムルニ非サレハ成立セス
婚姻ノ儀式後ハ契約ヲ變更スルコトヲ得ス

第四百二十三條 婚姻ヲ爲スコトヲ得ル未成年者ハ婚姻ノ許諾ヲ與フ可キ尊屬親又ハ後見人ノ立會ニテ財産契約ヲ爲スコトヲ得

第四百二十四條 財産契約ヲ爲サシテ婚姻ヲ爲シタルトキハ財産ノ關係ハ法定ノ制ニ從フ

第四百二十五條 日本ニ於テ財産契約ヲ爲サシテ婚姻ヲ爲シタル外國人ハ夫タル者ノ本國ニ行ハルル普通ノ制ニ從ヒタルモノト看做ス

第二節 法定ノ制

第四百二十六條 婦又ハ入夫カ婚姻ノ儀式ノ時ニ於テ現ニ所有シ又

○民法○財産取得編

ハ將來ニ所有ス可キ特有財産ヨリ婚姻中ニ生スル果實及ヒ自己ノ
勞力ニ因リテ婚姻中ニ得タル所得ハ婚姻中ノ費用分擔ノ爲メニ之
ヲ配偶者ニ供出シタルモノト看做ス

第四百二十七條 夫又ハ戶主タル婦カ配偶者ノ特有財産ニ付テ有ス
ル權利ハ用益者ノ權利ニ同シ

又配偶者ノ特有財産ニ關シテ收益ヲ爲ス夫又ハ戶主タル婦ハ用益
者ノ負擔スル修繕其他收益ヲ以テ辨濟ス可キ義務ヲ負フ

第四百二十八條 夫ハ婦ノ特有財産入夫ハ戶主タル婦ノ財産ヲ管理
ス

第四百二十九條 夫又ハ入夫ハ婦又ハ戶主タル婦ノ承諾ヲ得ルニ非
カレハ婦ノ特有財産又ハ戶主タル婦ノ財産ヲ讓渡シ又ハ之ヲ擔保

ニ供スルコトヲ得ス但人事編第二百二十九條及ヒ第二百七十五條
ノ場合ハ此限ニ在ラズ

第四百三十條 入夫ハ戶主タル婦ノ承諾ヲ得ルニ非カレハ婚姻中ノ
所得ヲ讓渡シ又ハ之ヲ擔保ニ供スルコトヲ得ス但其特有財産ヨリ
生スル果實及ヒ自己ノ勞力ニ因リテ得タル所得ハ此限ニ在ラズ

第四百三十一條 夫カ婦ノ特有財産ニ付キ入夫カ戶主タル婦ノ財産

ニ付キ其承諾ヲ得スシテ爲ス貸借ニ關シテハ財産編第一百十九條
以下ノ規定ヲ適用ス

第四百三十二條 管理ノ失當ニ因リ夫又ハ入夫カ婦ノ特有財産又ハ
戶主タル婦ノ財産ヲ危險ニ置クトキハ婦又ハ戶主タル婦ハ自ラ其
財産ヲ管理セント請求スルコトヲ得

第四百三十三條 婦又ハ入夫カ婚姻ノ儀式ノ時ニ於テ負ヘル債務及
ヒ婚姻中ニ生スル債務ニ付テハ債權者ハ婦又ハ入夫ノ特有財産ニ
對シテ權利ヲ行フコトヲ得

第四百三十四條 婦ノ名ヲ以テ生シメタル債務ニ付テハ債權者ハ
其債務カ家事管理ノ爲メニ生シタルコトヲ證スルトキニ限り夫ニ
對シテ其辨濟ヲ請求スルコトヲ得

入夫ノ名ヲ以テ生シメタル債務ニ付テハ債權者ハ其債務ノ財産
管理ノ爲メニ生シタルコトヲ證スルトキニ限り戶主タル婦ニ對シ
テ其辨濟ヲ請求スルコトヲ得

第四百三十五條 婦又ハ入夫ノ特有財産タルコトヲ證セサル財産ハ
總テ夫又ハ戶主タル婦ニ屬スルモノト看做ス
財産取得編畢

民法

債權擔保編

總則

第一條 債務者ノ總財產ハ動産ト不動産ト現在ノモノト將來ノモノトヲ問ハス其債權者ノ共同ノ擔保ナリ但法律ノ規定又ハ人ノ處分ニテ差押ヲ禁シタル物ハ此限ニ在ラス

債務者ノ財產カ總テノ義務ヲ辨濟スルニ足ラサル場合ニ於テハ其價額ハ債權ノ目的、原因、體様ノ如何ト日附ノ前後トニ拘ハラズ其債權額ノ割合ニ應シテ之ヲ各債權者ニ分與ス但其債權者ノ間ニ優先ノ正當ナル原因アルトキハ此限ニ在ラス

財産ノ差押、賣却及ヒ其代價ノ順序配當又ハ其分配當ノ方式ハ民事訴訟法ヲ以テ之ヲ規定ス

第二條 義務履行ノ特別ノ擔保ハ對人ノモノ有リ物上ノモノ有リ對人擔保ハ之ヲ左ニ掲ク

第一 保證

第二 債務者間又ハ債權者間ノ連帶

第三 任意ノ不可分

物上擔保ハ之ヲ左ニ掲ク

第一 留置權

第二 動産質權

第三 不動産質權

第四 先取特權

第五 抵當權

第一部 對人擔保

第一章 保證

第三條 保證ハ任意ノモノ有リ法律上ノモノ有リ又裁判上ノモノ有リ

下ノ第一節乃至第三節ノ規定ハ右三種ノ保證ニ共通ナリ

第一節 保證ノ目的及ヒ性質

第四條 保證ハ或人カ債務者ノ其義務ヲ履行セサルニ於テハ之ヲ履行スルコトヲ諾約スル契約ナリ此約務ハ債務者ノ過失ニ歸ス可キ不履行ノ場合ニ於テハ債權者ニ賠償スル約務ヲ暗ニ包含ス

第五條 保證ハ主タル義務ノ目的ト異ナルモノヲ目的ト爲ストキハ保證トシテハ無効ナリ

○民法○債權擔保編

然レトモ保證人ハ主タル債務者ノ諾約シタル物又ハ所爲ノ對價トシテ不履行ヲ豫見シタル過怠金額ヲ有効ニ諾約スルコトヲ得

第六條 保證人ノ義務ハ主タル義務ヨリ一層大ナルコトヲ得ス又一層重キ體様ニ服スルコトヲ得ス若シ保證人ノ義務カ一層大ナルトキ又ハ一層重キトキハ主タル義務ノ限度及ヒ體様ニ之ヲ減ス

第七條 前條ノ禁止ノ規定ハ債務者ヨリ其主タル義務ノ爲メ物上擔保ヲ供セサルトキ保證人ヨリ其從タル義務ノ物上擔保ヲ供スルコトヲ妨ケス又保證人カ主タル債務者ヨリ一層嚴ナル執行方法ニ服スルコトヲ妨ケス

保證人ハ亦第三者ヲ引受人トシテ己レヲ保證セシムルコトヲ得此引受人ニ對シテハ保證人ハ主タル債務者ノ地位ヲ有ス

第八條 金額又ハ定マリタル物ニ制限シタル保證ハ其利息ニモ果實ニモ其他ノ附從物ニモ及フコト無シ

然レトモ主タル義務ノ無限ノ保證ハ填補ノ利息、遲延ノ利息其他此債務ノ天然上、法律上又ハ合意上ノ附從物ニ及ヒ又主タル債務者ニ對シテ爲シタル最初ノ訴ノ費用ト其訴ヲ保證人ニ告知シタル以後ノ費用トニモ及フ

第九條 總テ有効ナル義務ハ之ヲ保證スルコトヲ得無能力者ノ取消スコトヲ得ヘキ義務ト雖モ亦有效ニ之ヲ保證スルコトヲ得其義務カ裁判上ニテ取消サレタル後ト雖モ保證ハ其效力ヲ存ス但保證人カ其保證ノ際債務者ノ無能力ヲ知リタルトキニ限ル

第十條 何人ニテモ將來ノ債務ヲ保證スルコトヲ得又債權者又ハ債務者ノ方ニ於テ隨意ノ條件ニ繋ル債務ヲモ保證スルコトヲ得但保證人ニ於テ其債務ノ性質及ヒ廣狹ヲ査定スルコトヲ得ルトキニ限ル

第十一條 何人ニテモ債務者ノ委任ヲ受ケ又ハ其不知ニテ其意ニ反シテモ其保證人ト爲ルコトヲ得辨濟シタル保證人ノ其債務者ニ對スル求償ハ第二節第二款ニ於テ之ヲ規定ス

第十二條 有效ニ保證人ト爲ルニハ一般ナルト債務者ニ對スルトチ問ハス無償ニテ義務ヲ負擔スル能力ヲ有スルコトヲ要ス然レトモ主タル契約カ有價ナルトキハ保證人ノ債務者ニ對スル無能力ハ債權者カ之ヲ知リタルトキニ非サレハ保證人ヨリ債權者ニ

○民法○債權擔保編

其無能力ヲ以テ對抗スルコトヲ得ス

第十三條

債務ヲ保證スル意思ハ之ヲ明示セサルトキハ明カニ事情

ヨリ生スルコトヲ要ス然レトモ其意思ハ契約者ノ一方ヲ他ノ一方

ニ勘メ又ハ其一方ノ現在若シハ將來ノ有資力ヲ確言シタル事實ノ

ミヨリ之ヲ推測スルコトヲ得ス

若シ證書ノ署名者中ノ一人カ共同債務者ナルカ又ハ保證人ナルカ

ニ付キ疑アルトキハ之ヲ保證人ト看做ス

第十四條

保證人ノ義務ハ其相續人ノ負擔ニ歸シ又債權者ノ相續人

ノ利益ニ歸ス但反對ノ要約アルトキハ此限ニ在ラズ

第十五條

債務者カ保證人ヲ立ツ可キ合意ヲ以テ義務ヲ負ヒタルト

キハ其債務者ハ債務ノ性質及ヒ大小ニ應シ有資力ノ人ニ非サレハ

保證人トシテ之ヲ立ツルヲ得ス

若シ右ノ保證人カ無資力ト爲リタルトキハ債務者ハ前項ト同一ノ

條件ヲ具備スル他ノ者ヲ立ツルコトヲ要ス

此他保證人ハ義務ヲ履行ス可キ控訴院ノ管轄地内ニ於テ住所ヲ有

シ又ハ假住所ヲ定ムルコトヲ要ス

債權者ヨリ人ヲ指定シテ保證人ヲ要約シタルトキハ本條ノ條件ヲ

要セズ

第十六條

債務者カ前條ノ條件ヲ具備スル保證人ヲ立ツルコト能ハ

サルトキハ十分ナル物上擔保ヲ與フルコトヲ得

第十七條

商證券ノ保證及ヒ仲買人カ委託者ニ對シテ諾約シタル擔

保ノ特例ハ商法ニ於テ之ヲ規定ス

第二節 保證ノ效力

第一款 保證人債權者間ノ保證ノ効力

第十八條

債權者ハ債務者ニ義務履行ノ催告ヲ爲シタルモ其効果ア

ラサリシコトノ證據ヲ保證人ニ示サスシテ之ヲ訴追スルコトヲ得

然レトモ債務者カ行方知レズ又ハ破産ノ宣告ヲ受ケ若クハ顯然タ

ル無資力ノ形狀ニ在ルトキハ右ノ催告ヲ必要トセズ

第十九條

保證人ハ右ノ外下ノ制限及ヒ條件ニ從ヒ債權者カ豫メ債

務者ノ財産ヲ檢索シテ之ヲ賣ラシムルコトヲ債權者ニ要求スルコ

トヲ得

第二十條

保證人ハ明示又ハ默示ニテ財産檢索ノ利益ヲ拋棄シ又ハ

注シル債務者ト連帶シテ義務ヲ負擔シタルトキハ檢索ノ利益ヲ享

○對法○債權擔保編

總テノ場合ニ於テ保證人ハ主タル債務ノ基本ヲ爭フ前ニ檢索ノ利益ヲ以テ債權者ニ對抗セザリシトキハ其利益ヲ失フ

第二十一條 檢索ヲ要求スル保證人ハ債務者ノ不動産ニシテ義務ヲ履行ス可キ控訴院ノ管轄地内ニ在ルモノヲ債權者ニ指示スルコトヲ要ス

保證人ハ爭ニ係ル不動産ヲモ他ノ債權者ニ優先ニテ抵當ト爲リタル不動産ヲモ訴追債權者ニ抵當ト爲リタル不動産ニシテ第三所持者ノ手ニ存スルモノヲモ指示スルコトヲ得ス

債權者ニ屬スル不動産ニ付テハ債務者之ヲ物上擔保トシテ既ニ債權者ニ供シタルトキニ非サレハ保證人其檢索ヲ要求スルコトヲ得ス

第二十二條 債權者檢索ノ有效ナル對抗ヲ受ケ其檢索ヲ爲スコトヲ怠リテ債務者其後無資力ト爲リタルトキハ保證人ハ債權者ノ檢索ニ因リ得ヘカリシ金額ニ滿ツルマテ其義務ヲ免カル

第二十三條 一人ノ債務者ノ爲メ數人ノ保證人アルトキハ債務ハ均一ニテ當然其間ニ分タル不均一ニテ分別スルコトヲ定メ又ハ其保證人カ或ハ債務者ト共ニ或ハ各自ノ間ニ連帶シテ義務ヲ負擔シ

若クハ其他ノ方法ニテ分別ヲ拋棄シタルトキハ此限ニ在ラズ
保證ノ義務カ各別ノ證書ヨリ生スルトキト雖モ分別ノ利益ハ存在ス

第二十四條 保證人ハ檢索ノ利益ヲ用サタルト否ト分別ノ利益ヲ享ケルト否トヲ問ハス訴追ヲ受ケタルトキハ第二十九條ニ明示シタル目的ヲ以テ債務者ヲ訴訟ニ參加セシムル爲メ基本ニ付テノ答辯前ニ民事訴訟法ニ定メタル方式及ヒ條件ニ從ヒ延期抗辯ヲ以テ債權者ニ對抗スルコトヲ得

第二十五條 保證人カ基本ニ付テ答辯スルトキハ主タル債務ノ組成又ハ其消滅ヨリ生スル抗辯ヲ以テ債權者ニ對抗スルコトヲ得
保證人ハ債務ヲ保證スルニ當リ債務者ノ無能力又ハ其承諾ノ瑕疵ヲ知ラザリシトキハ此等ノ事項ヨリ生スル無効ノ理由ヲ以テモ對抗スルコトヲ得

第二十六條 右ノ抗辯ニ付キ債權者ト保證人トノ間ニ有リタル判決ハ債務者ヲ害スルコトヲ得ズ然レトモ之ヲ利スルコトヲ得但其判決ノ牽連シタル箇條ハ債務者ニ利ナルモノト不利ナルモノトヲ分ツコトヲ得ス

○民法○債權擔保編

第二十七條 債務者ニ對シテ時効ヲ中斷シ又ハ債務者ヲ滯滞ニ付スル行為ハ保證人ニ對シテ同一ノ効力ヲ生ス

保證人ニ對シタル右同一ノ行為ハ保證人カ債務者ノ委任ヲ受ケ又ハ債務者ト連帶シテ義務ヲ負擔シタルトキニ非サレハ債務者ニ對シテ効力ヲ生セス

第二十八條 主タル債務者ノ爲シタル債務ノ自白ハ保證人ヲ害ス保證人ノ爲メタル自白ハ委任又ハ連帶アル場合ニ非サレハ債務者ヲ害セス

第二款 保證人債務者間ノ保證ノ効力

第二十九條 債權者ヨリ訴追ヲ受ケタル保證人ハ第二十四條及ヒ財産編第二百九十九條ニ掲ケタル如ク主タル請求ニ對シテ債務者ノ答辯ヲ要ス可キ場合ニ於テハ其答辯ヲ爲サシムル爲メ又債務者ノ敗訴ノ言渡ヲ受シ可キ場合ニ於テハ債務者ニ對シテ次條ニ定メタル賠償ノ言渡ヲ得ル爲メ擔保附帶ノ請求ヲ以テ債務者ヲ訴訟ニ召喚スルコトヲ得

右擔保附帶ノ請求ハ債務者ノ委任ヲ受ケタル保證人ノミニ屬ス
第三十條 主タル債務者ヲ辨濟シ其他自己ノ出捐ヲ以テ債務者ニ義務

ヲ免カレシメタル保證人ハ債務者ヨリ賠償ヲ受クル爲メ之ニ對シテ擔保訴訟權ヲ有ス但左ノ區別ニ從フ

第一 保證人カ債務者ノ委任ヲ受ケテ義務ヲ負擔シタルトキハ其債務者ニ義務ヲ免カレシメ又ハ債務者ノ名ニテ辨濟シタル元利、其擔當シタル費用、立替ヲ爲シタル時ヨリ其利息其他損害アルキハ其賠償ノ金額ヲ債務者ヨリ償還セシムルコトヲ得又此委任ノ場合ニ於テ保證人ハ其分限ヲ以テ言渡ヲ受ケタルトキハ債務者ニ對シ直チニ其賠償ヲ受クル爲メ訴ヲ爲スコトヲモ得

第二 保證人カ債務者ノ不知ニテ義務ヲ負擔シタルトキハ債務者ノ義務ヲ免カレシメタル日ニ於テ之ニ得セシメタル有益ノ限度ニ從ヒ右ノ賠償ヲ受シ
若シ保證人カ債務者ノ意ニ反シテ義務ヲ負擔シタルトキハ保證人ノ求償ノ日ニ於テ債務者ノ爲メ存在スル有益ノ限度ニ非カレハ右ノ賠償ヲ受クルコトヲ得ス

第三十一條 連帶又ハ不可分ニテ責任スル人ノ債務者ヨリ保證人ニ委任ヲ爲シタル場合ニ於テハ其債務者ハ財産取得編第二百四十

○民法○債權擔保編

九條ニ從ヒ保証人ニ對シテ連帶ノ擔保人ナリ

第三十二條 債務者ヲ訴訟ニ參加セシムルコトヲ怠リタル保証人ハ其債務者カ債權者ニ對抗ス可キ排訴抗辯ヲ有シタルコトヲ證スルトキハ第三十條ニ定メタル求償權ヲ有セズ

若シ債務者カ債權者ニ對抗ス可キ延期抗辯ノミチ有シタルトキハ右ノ懈怠アル保証人ノ求償ニ對シ之ヲ以テ對抗スルコトヲ得

第三十三條 保証人ハ有効ニ辨濟シタルモ債務者ニ其旨ヲ有益ニ通知スルコトヲ怠リ爲メニ債務者カ善意ニテ再ヒ辨濟シ此他有償ニテ自己ノ免責ヲ得タルトキモ亦其求償權ヲ失フ

右ニ反シテ債務者カ自ラ債務ヲ消滅セシメタルコトヲ保証人ニ通知スルコトヲ怠リタルトキハ債務者ハ場合ニ從ヒ其債務ノ消滅後保証人ノ爲シタル辨濟ニ付キ責任アリトノ宣告ヲ受クルト有リ孰レノ場合ニ於テモ利害ノ關係アル當事者ハ受取ルコトヲ得サルモノヲ受取リタル債權者ニ對シテ求償權ヲ有ス

第三十四條 委任ヲ受ケテ義務ヲ負擔シタル保証人ハ辨濟ヲ爲ス前又訴追ヲ受クル前ニテモ債務者ヨリ豫メ賠償ヲ受クル爲メ又ハ未定ノ損失ヲ擔保セシムル爲メ左ノ三箇ノ場合ニ於テ之ニ對シ訴ヲ

爲スコトヲ得

第一 債務者カ破産シ又ハ無資力ト爲リ且債權者カ清算ノ配當ニ加入セサルトキ

第二 債務ノ満期ノ到リタルトキ

第三 満期ノ不定ナル債務カ其日附ヨリ十年ヲ過キタルトキ

第三十五條 債權者カ完全ノ辨濟ヲ受ケサル間ハ前條及ヒ第二十九條ニ依リ債務者ヨリ豫メ保証人ニ供ス可キ賠償ハ債務者其債權者ニ對スル自己ノ免責ヲ保スル爲メ債權者ノ名ヲ以テ之ヲ供託シ又ハ其他ノ方法ニテ之ヲ留存スルコトヲ得

第三十六條 主タル債務ヲ辨濟シ其他ノ方法ニ因リ義務ヲ消滅セシメタル總テノ保証人ハ己レノ權利ニ基キテ有スル訴權ノ外債務者又ハ第三者ニ對シ債權者ノ有シタル總テノ權利ニ付キ財産編第四百八十二條第一號ニ從ヒテ代位ス但第三十二條及ヒ第三十三條ノ制限ニ從フコトヲ要ス

債權者カ債務者ノ不動産ニ付キ先取特權又ハ抵當權ヲ有シ其登記ヲ爲シタルトキハ保証人ハ代位ヲ目的トシテ自己ノ條件附ノ債權ヲ此登記ニ附記スルコトヲ得又讓渡ノ場合ニ於テハ其不動産ヲ所

○民法○債權擔保編

持スル第三者ハ滌除ノ爲メ債權者ノ外保證人ニ對シテモ亦提供ヲ爲スコトヲ要ス

債權者カ有益ナル時期ニ於テ右ノ登記ヲ爲サ、リシトキハ保證人ハ第四十五條及ヒ財産編第五百十二條ニ從ヒ債權者ニ對シテ自己ノ免責ヲ請求スルコトヲ得

第三十七條 連帶又ハ不可分ナル義務ノ數人ノ債務者アルトキハ保證人ハ其中ノ或ル者ヲ保證シ他ノ者ヲ保證セサルトキト雖モ右ノ代位ニ依リ債務者ノ各自ニ對シテ全部ニ付キ求償スルコトヲ得

第三款 共同保證人間ノ保證ノ効力

第三十八條 一個ノ債務ニ付キ數人ノ保證人アリテ其中ノ一人カ任意ナルト否トヲ問ハズ債務ノ全部ヲ辨濟シタルトキハ其保證人ハ主タル債務者ニ對スル求償ニ關シ上ニ記載シル條件、制限及ヒ區別ニ從ヒ或ハ事務管理ノ訴權ニ因リ或ハ債權者ノ訴權ニ因リ他ノ保證人ノ各自ニ對シテ均一部分ニ付キ求償スルコトヲ得
右ノ保證人カ債務ノ全部ヲ辨濟セスシテ自己ノ部分ヨリ多ク辨濟シタルトキハ其超過額ノ爲メノ求償ハ他ノ共同保證人間ニ均一ニ之ヲ分ツ

第三十九條 共同保證人中ニ無資力ト爲リタル者アルトキハ辨濟シタル者ハ其無資力者ノ引受人ニ對シテ求償權ヲ有ス若シ引受人アラサルトキハ無資力者ノ部分ハ債務ヲ辨濟シタル者ヲ加ヘ他ノ有資力ナル共同保證人間ニ之ヲ分ツ

第四十條 前條ニ依リ訴ヲ受ケタル共同保證人ハ未ダ主タル債務者ノ財産ノ檢索アラサルトキハ第二十條以下ニ定メタル規則及ヒ條件ニ從ヒテ豫メ其檢索ヲ請求スルコトヲ得
右同一ノ權利ハ保證人ノ引受人ニモ屬ス

第四十一條 連帶シテ又ハ不可分ナル債務ノ爲メ義務ヲ負擔シタル數人ノ保證人中全部履行ニ付キ訴ヲ受ケタル者ハ本訴ニ附帶シテ共同保證人ヲ擔保ノ爲メニ召喚シ之ニ對シ同一ノ判決ヲ以テ前數條ニ許サレタル言渡ヲ受ケシムルコトヲ得

第四十二條 保證人ノ一人ニ對スル時效中斷又ハ付遲滯ノ行爲ハ他ノ保證人ニ對シテ其効ナシ但其義務カ連帶ナルトキハ此限ニ在ラズ

債權者ト保證人ノ一人トノ間ニ主タル債務ニ關シ有リタル判決及ヒ自白ハ他ノ保證人ヲ利スルコトヲ得然レトモ之ヲ害スルコトヲ

○民法○債權擔保編

得ス
第四十三條 相互ニ連帶シ又ハ債務者ト連帶シタル保證人中ニ無資カト爲リタル者アルトキハ各保證人ノ間ニ第六十七條乃至第六十九條ヲ適用ス但其各條ニ記載シタル區別ニ從フ

第三節 保證ノ消滅

第四十四條 保證ハ義務消滅ノ通常ノ原因ニ由リ直接ニ消滅ス
保證ノ更改、免除、相殺及ヒ混同ハ財産編第五百二條、第五百十一條、第五百二十一條及ヒ第五百二十八條ニ於テ之ヲ規定ス

第四十五條 債權者カ故意又ハ懈怠ニテ保證人ノ其代位ニ因リテ取得スルコトヲ得ヘキ擔保ヲ滅シ又ハ害シタルトキハ總テノ保證人ハ債權者ニ對シテ自己ノ免責ヲ請求スルコトヲ得
保證人ノ引受人ハ保證人ノ權利ニ基キ右ノ權利ヲ援用スルコトヲ得

第四十六條 保證ハ主タル義務消滅ノ總テノ原因ニ由テ間接ニ消滅ス
債權者ト主タル債務者トノ間ニ爲シタル代物辨濟、更改、免除、相殺及ヒ混同ノ保證人ニ對スル效力ハ財産編第四百六十一條、第五

百一條、第五百六條、第五百二十一條及ヒ第五百二十八條ニ於テ之ヲ規定ス

第四節 法律上及ヒ裁判上ノ保證ニ特別ナル規則

第四十七條 法律ノ規定又ハ判決ニ從ヒテ保證人ヲ立ツル責アル者ハ自ラ保證人ヲ立テント約シタルトキト同シ第十五條及ヒ第十六條ニ定メタル如キ條件ヲ具備スル保證人ヲ立ツルコトヲ要ス
法律上及ヒ裁判上ノ保證人ヲ承諾スル手續ハ民事訴訟法ニ於テ之ヲ規定ス

第四十八條 裁判所ハ法律カ裁判執行ノ爲メ保證人ヲ立テシムル權能ヲ付與シタル場合ニ非サレハ此カ爲メ保證人ヲ立ツ可キコトヲ命スルヲ得ス

第四十九條 裁判上ノ保證人及ヒ其引受人ハ財産檢索ノ利益ヲ有スルコトヲ得ス

第五十條 法律上及ヒ裁判上ノ保證人ハ其債務者ニ對スル擔保ノ求償ニ關シテハ常ニ之ヲ債務者ノ代理人ト看做ス

第二章 債務者間及ヒ債權者間ノ連帶
總則

○民法○債權擔保編

第五十一條 義務ノ目的單數ナルモ主タル當事者トシテ之ニ關係スル人複數ナルトキハ其義務ハ財產編第四百三十八條ニ指示シ且下ノ二節ニ記載スル如ク受方又ハ働方ニテ連帶タルコト有リ

第一節 債務者間ノ連帶

第一款 債務者間ノ連帶ノ性質及ヒ原因

第五十二條 債務者間ノ連帶即チ受方連帶ハ共同債務者ナシテ其共通ノ利益ニ於テモ債權者ノ利益ニ於テモ相互ニ代人タラシム此連帶ハ合意、遺言、又ハ法律ノ規定ヨリ生ス連帶ハ之ヲ推定セズ如何ナル場合ニ於テモ明示ニテ之ヲ定ムルコトヲ要ス但不可分ニ關シ第八十八條ニ記載シタルモノハ此限ニ在ラズ

第五十三條 數人ノ債務者ノ連帶義務ハ同一ノ行爲ヲ以テ又同時、同所ニ於テ之ヲ契約スルコトヲ要セス但其義務ノ目的及ヒ原因ハ同一ナルコトヲ要ス又連帶債務者ハ別異及ヒ不均一ノ體様又ハ負擔ヲ以テ責ニ任スルコトヲ得

第二款 債務者間ノ連帶ノ効力

第五十四條 數人ノ連帶債務者ヲ有スル債權者ハ其訴追セント擇ミタル債務者ニ對シ唯一人ノ債務者ニ於ケル如ク且其債務者ヨリ檢索又ハ分別ノ利益ノ抗辯ヲ受クルコト無ク義務全部ノ履行ヲ要求スルコトヲ得又債權者ハ皆濟ヲ受クルニ至ルマテ同時又ハ順次ニ總債務者ヲ訴追スルコトヲ得

第五十五條 各債務者ハ訴ヲ受ケタルト否トチ問ハズ連帶債務全部ノ辨濟ヲ受クルコトヲ債權者ニ強要スルコトヲ得

第五十六條 連帶債務者ニシテ債務ニ於ケル全部又ハ自己ノ部分ヨリ多額ニ付キ訴ヘラレタル者ハ共同債務者ヲ訴訟ニ召喚シ附帶ノ擔保方法ヲ以テ其債務者ヲシテ答辯又ハ辨濟ヲ擔任セシムル爲メ必要ナル期間ヲ請求スルコトヲ得但債權者ニ對シテハ訴追ヲ受ケタル債務者ノミ其對手人タル可シ共同債務者ハ亦其利益保護ノ爲メ任意ニ自費ヲ以テ訴訟ニ參加スルコトヲ得

第五十七條 連帶債務ノ履行ノ爲メ訴ヲ受ケタル各債務者ハ自己ノ權利ニ基クト共同債務者ノ權利ニ基クトチ問ハズ義務ノ組成又ハ

○民法○附屬擔保編

消滅ヨリ生スル答辯方法ヲ以テ債務ノ全部ニ付キ債權者ニ對抗スルコトヲ得

右ノ外更改、免除、相殺及ヒ混同ニ關シテハ財產編第五百一條、第五百六條、第五百九條、第五百二十一條及ヒ第五百二十五條ノ規定ニ從フ

第五十八條 債務者ノ一人ノ無能力又ハ承諾ノ瑕疵ニ基キタル答辯方法ハ其人自身ニ非サレハ之ヲ援用スルコトヲ得ス然レトモ此答辯方法カ一旦許サレタル上ハ債務ニ於ケル其者ノ部分ニ付キ他ノ債務者ヲ利ス但他ノ債務者カ契約ノ際義務履行ニ付キ其者ノ分擔ヲ豫期スルコト有リタルトキニ限ル

第五十九條 前二條ニ規定シタル種種ノ事項ニ付キ債權者ト債務者トノ一人トノ間ニ有リタル判決及ヒ自白ハ他ノ債務者ノ利害ニ於テ前二條ニ同シキ限度及ヒ區別ヲ以テ其効力ヲ生ス

第六十條 一人ノ債務者ト他ノ債務者トノ間ニ於ケル連帶ノ存在ニ關シテ其一人ト債權者トノ間ニ有リタル判決及ヒ自白ハ他ノ債務者ヲ害セス又之ヲ利セス

第六十一條 連帶債務者ノ一人ニ對シ債權者ノ利益ニ於テ時効ヲ中斷シ又ハ付遲滯ヲ成ス原因ハ他ノ債務者ニ對シ同一ノ効力ヲ有ス

債權者ノ一人ニ對シ債權者ノ利益ニ於テ存スル時効停止ノ原因ハ他ノ債務者ノ利益ニ於テ其部分ノ爲メ時効ノ進行スルヲ妨ケス

第六十二條 義務ノ目的物ノ滅失其他總テ義務履行ノ不能カ連帶債務者ノ一人ノ過失ニ因リ又ハ其付遲滯後ニ生スルトキハ他ノ債務者ハ債權者ニ對シ連帶シテ損害賠償又ハ過怠約款ノ責ニ任ス但過失アリ又ハ遲滯ニ在リシ債務者ニ對スル他ノ債務者ノ求償權ヲ妨ケス

第六十三條 連帶債務者中ニテ債務ヲ辨濟シ其他自己ノ出捐ヲ以テ共同ノ免責ヲ得セシメタル者ハ他ノ債務者ニ對シ辨濟又ハ免責ノ限度ニ於テ其各自ノ負擔部分ニ付キ自己ノ權利ニ基キテ求償權ヲ有ス

右ノ求償中ニハ會社及ヒ代理ノ規則ニ從ヒ辨償金及ヒ必要ナル出捐ノ賠償ノ外辨償以後ノ法律上ノ利息及ヒ避シルコトヲ得サリシ費用ヲ包含ス

第六十四條 債務ヲ辨濟シタル債務者ハ債權者ノ實際受取リタルモノノ限度ニ於テノニ財產編第四百八十二條第一號ニ從ヒ法律上ノ

代位ニ因リテ其債權者ノ權利及ヒ訴權ヲ行フコトヲ得
然レトモ其債務者ハ前條ニ記載シタル如ク其共同債務者ノ各自ノ
間ニ於テ自己ノ訴ヲ分ツコトヲ要ス

第六十五條 不注意ニテ辨濟シタル保證人ニ對シ第三十二條及ヒ第
三十三條ニ規定シタル求償ノ失權ハ訴追又ハ辨濟ヲ共同債務者ニ
告知スルコトヲ怠リタル連帶債務者ニ對シテ之ヲ適用ス

第六十六條 共同債務者ノ一人カ上ニ指示シタル方法ノ一ニ因リ求
償ノ行ハレタル當時ニ於テ無資力ナルトキハ無資力者ノ部分ハ辨
濟シタル者ヲモ加ヘテ他ノ資力アル者ノ間ニ割合ニ應シテ之ヲ分
ツ但求償者ノ責ニ歸ス可キ懈怠アリシトキハ此限ニ在ラス

第六十七條 何等ノ辨濟モ有ラサル前ニ連帶債務者ノ一人ノ無資力
ト爲リタルトキハ債權者ハ其債權ノ全額ニ付キ清算ニ加ハルコト
ヲ得
此場合ニ於テ辨濟ノ殘額ハ他ノ債務者之ヲ負擔ス但其債務者ノ自
己ノ部分外ニ負擔シタルモノニ對スル求償ハ其清算ニ加ハリタル
他ノ債權者ヲ害スルコトヲ得ス

第六十八條 債務者ノ一人ノ無資力ト爲リタル前ニ一分ノ辨濟アリ
タルトキハ債權者ハ辨濟殘額ノ爲メニ非サレハ其清算ニ加ハルコ
トヲ得ス又一分ノ辨濟ヲ爲シタル他ノ債務者ハ第六十三條ニ從ヒ
自己ノ受取ル可キモノヲ辨償セシムル爲メ清算ニ加ハルコトヲ得

第六十九條 何等ノ辨濟モ有ラサル前ニ總テノ連帶債務者又ハ其中
ノ數人ノ無資力ト爲リタル場合ニ於テ債權者ハ其債權ノ全額ニ付
キ各清算ニ加ハルコトヲ得
然レトモ債權者カ清算ノ一ニ於テ配當金ヲ受取リタルトキハ他ノ
清算ニ於テ其債權ノ全額ニ從ヒ債權者ニ充テタル新配當金ハ以前
ノ配當ニ於テ未ダ受取ラサルモノノ割合ニ應スルニ非サレハ債權
者之ヲ受取ルコトヲ得ス

受取ノ殘額ハ各清算ニ之ヲ返還ス但各清算ノ辨濟シタルモノノ割
合ニ從フ

第三款 債務者間ノ連帶ノ終了

第七十條 債權者カ總債務者ニ對シテ連帶ヲ拋棄スルトキハ財産編
第四百三十八條第一項ニ規定シタル如ク其債務者ノ義務ハ單ニ連
合ノモノト爲リテ存シ其他ノ性質ヲ變スルコト無シ

第七十一條 財産編第五百十條ニ從ヒ明示又ハ默示ニテ債務者ノ一
○民法○債權擔保編

人又ハ數人ニ對シテノ連帶ノ拋棄アリタルトキハ他ノ債務者ハ連帶ノ免除ヲ得タル者ノ部分ニ於テノ其義務ヲ免カル

第七十二條

債權者カ連帶債務者ノ一人ヨリ供シタル擔保ニシテ他ノ債務者ノ辨濟シテ代位スルコトヲ得ヘキモノノ全部又ハ一分ヲ毀損シ又ハ滅失セシメタルトキハ他ノ債務者ハ其擔保ヲ供シタル者ノ部分ニ付キ連帶ノ義務ヲ免カレント請求スルコトヲ得

第四款 全部義務

第七十三條

財產編第二百七十八條、第四百九十七條第二項及ヒ其他法律カ數人ノ債務者ノ義務ヲ其各自ニ對シ全部ノモノト定メタル場合ニ於テ相互代理ニ付シタル連帶ノ効力ヲ適用スルコトヲ得

但其總債務者又ハ其中ノ一人カ債務ノ全部ヲ辨濟スル言渡ヲ受ケタルトキモ亦同シ

第二節 債權者間ノ連帶

第一款 債權者間ノ連帶ノ性質及ヒ原因

第七十四條 債權者間ノ連帶即チ働方連帶ハ權利ノ保存及ヒ行使ニ付キ其債權者ヲシテ互ニ代人タラシム

此連帶ハ合意又ハ遺言ヨリ生ス

第二款 債權者間ノ連帶ノ效力

第七十五條 數人ノ連帶債權者ニ對スル債務者ノ約務ハ同一ノ行爲ヲ以テ又同時、同所ニ於テ之ヲ契約スルコトヲ要セス但其義務ノ目的及ヒ原因ハ同一ナルコトヲ要ス

又債務者ハ數人ノ債權者ニ對シ別異及ヒ不均一ノ體様又ハ負擔ヲ以テ責ニ任スルコトヲ得

第七十六條 各連帶債權者ハ唯一人ノ債權者ナル如ク義務全部ノ履行ヲ債務者ニ要求スルコトヲ得

債權者ノ一人カ訴ヲ起シタルトキハ他ノ各債權者ハ共通ノ利益及

自己ノ利益ノ保護ヲ爲メ訴訟ニ参加スルコトヲ得
第七十七條 債務者ハ債權者ノ一人ヨリ訴追又ハ合式ノ要求ヲ受ケ

ルコトヲ得之ニ反スル場合ニ於テハ訴追者又ハ要求者ニ對スルニ
非サレハ辨濟ヲ爲スコトヲ得ス
若シ同時ニ數人ノ訴追者又ハ要求者アルトキハ債務者ハ其總テノ

者ニ對スルニ非サレハ辨濟ヲ爲スコトヲ得ス
第七十八條 義務組成ノ瑕疵ニ基キタル抗辯ニ付キ有リタル判決ハ

債務ノ全部ニ對シ總債權者ノ利害ニ於テ其効力ヲ生ス但訴訟ニ其
名ヲ出ダサカリシ者ニ對シテモ亦同シ
第七十九條 義務消滅ノ原因ニ基キタル抗辯ニ付キ有リタル判決ハ

左ノ區別ニ從フニ非サレハ訴訟ニ與カラサリシ債權者ニ對シテ其
効ナシ
第一 第七十七條ニ定メタル條件ニ從ヒ債權者ノ一人ニ爲シタ

ル辨濟ハ全部ニ付キ總債權者ニ之ヲ以テ對抗スルコトヲ得又
財産編第五百二十一條第三項ニ記載シタル如ク債權者ノ一人
ニ對シ債務者ノ有スル相殺ニ付テモ亦同シ但相殺ノ原因カ第

七十七條ニ從ヒ債務者ヨリ其債權者ニ有効ニ辨濟スルコトヲ
得ヘキ時期ニ於テ生シタルトキニ限ル
第二 債權者ノ一人ノ行爲ヨリ生シ又ハ其權利ニ基キテ生スル

更改、免除及ヒ混同ハ財産編第五百一條第二項、第五百十五條
第一項及ヒ第五百二十五條第二項ニ從ヒ其債權者ノ部分ニ非
サレハ債務ヲ消滅セシメス但此行爲ハ他ノ債權者ノ訴追又ハ
要求ノ前ニ在ルコトヲ要ス
又右同一ノ行爲ニ關シ及ヒ辨濟又ハ相殺ニ關スル和解ニ付テ

モ亦同シ
第八十條 債權者中ノ一人ノ一身ニ限ル債務者ノ抗辯ニ付キ有リタ

ル判決ハ他ノ債權者ヲ害セス又之ヲ利セズ又債權者ノ一人カ其連
帶ニ於ケル權利ニ付キ債務者ト爲シタル和解ニ付テモ亦同シ
第八十一條 債權者ノ一人カ債務者ニ對シテ時効ヲ中斷シ又ハ其債

務者ヲ遲滞ニ付スル行爲ハ全部ニ付キ他ノ債權者ヲ利ス
債權者ノ一人ノ利益ニ於テ法律ノ設定シタル時効ノ停止ハ其部分
ニ限リ其一人ノミヲ利ス
第八十二條 義務ノ全部又ハ一分ノ履行ヲ得タル連帶債權者ハ他ノ

債權者ノ特別ノ關係及ヒ其相互ノ部分ニ從ヒ之ニ其利益ヲ分與スルコトヲ要ス

第三款 債權者間ノ連帶ノ終了

第八十三條 債權者間ノ連帶ハ拋棄ニ因リテ止ム其拋棄ハ明示ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第八十四條 連帶ノ拋棄ハ債權者ノ一人若クハ數人又ハ其總員ヨリ之ヲ爲スコトヲ得

總債權者ノ働方連帶ノ拋棄ハ第七十條ニ規定シタル如ク受方連帶ノ拋棄カ共同債務者ニ對シテ生セシムルト同一ノ効力ヲ其債權者間ニ生セシム

若シ債權者ノ一人又ハ數人カ拋棄ヲ爲シタルトキハ他ノ債權者ハ此拋棄ヲ爲シタル者ノ部分ニ付テノミ訴テ爲シ又ハ辨濟ヲ受ケル權利ヲ失フ

第八十五條 連帶ノ拋棄ハ債務者ノ承諾ナクシテ有効ナリ

然レトモ其拋棄ハ之ヲ債務者ニ告知セシカ又ハ債務者明確ニ之ヲ知リタルトキニ非サレハ上ノ規定ヲ以テ債務者ニ許シタル辨濟其他ノ行爲ニ對シテ債權者ヨリ之ヲ援用スルコトヲ得ス

債務者ハ拋棄ヲ申立ツル利益アルトキハ之ヲ申立ツルコトヲ得又拋棄カ其權利ノ詐害ニ於テ爲サレタルトキハ之ヲ廢棄スルコトヲ得

第三章 任意ノ不可分

第八十六條 財産編第四百四十一條及ヒ第四百四十二條ニ規定シタル不可分ノ外債務ハ尙ホ數人ノ債務者ノ負擔又ハ數人ノ債權者ノ利益ニ於テ債務履行ノ擔保トシテ任意上不可分タルコトヲ得但財産編第四百四十三條ニ指示シタル如ク受方又ハ働方ノ連帶ニ併合シ又ハ併合セサルコト有リ

任意ノ不可分ハ合意又ハ遺言ヲ以テ之ヲ設定スルコトヲ得此不可分ハ明示タルコトヲ要ス

第八十七條 債務者ノ負擔ニ於テ設定シタル不可分ハ同時ニ働方タル可キコトノ明示アルニ非サレハ債權者ノ利益ニ於テ存立セス又債權者ノ利益ニ於テ設定シタル不可分ハ同時ニ受方タル可キコトヲ明示アルニ非サレハ債務者ノ負擔ニ於テ存立セス

第八十八條 受方ナルト働方ナルトヲ問ハズ任意ノ不可分ヲ設定シタルトキハ受方又ハ働方ノ連帶ヲ明示ニテ阻却セサル場合ニ限リ

○民法○債權擔保編

債務者又ハ債權者ノ間ニ此連帶ノ効力ヲ生ゼシム

第八十九條 債務者ノ一人ニ對シテ時効ヲ中斷又ハ停止スル原因ハ總債務ニ付キ他ノ債務者ニ對シテ中斷又ハ停止ヲ生ス又債權者ノ一人ノ權利ヨリ生スル時効ノ中斷又ハ其停止ノ原因ハ他ノ債權者ヲ利ス

第九十條 債權ガ受方又ハ働方ニテ同時ニ連帶及ヒ不可分ナルトキハ第八十三條及ヒ財産編第五百十條ニ記載シタル區別ニ從ヒ明示ナルト默示ナルトヲ問ハズ連帶ノ拋棄ハ亦任意ノ不可分ノ拋棄ヲ惹起ス但不可分ノ拋棄ハ連帶ヲ存立セシム

第九十一條 財産編第四百四十四條乃至第四百四十九條、第五百一條第四項、第五百六條第三項、第五百九條第一項、第五百十三條、第五百十五條第二項、第五百二十一條第四項、第五百三十六條及ヒ第五百三十七條第二項ノ規定ハ任意ノ不可分ニ之ヲ適用ス
債權者カ不可分ニテ義務ヲ負ヒタル債務者ノ代位ニ因リテ得ルコト有ル可キ擔保ヲ滅失セシメ又ハ減少セシメタルトキハ其債務者ハ債權者ニ對シテ第七十二條ノ免責ヲ援用スルコトヲ得ス
第二部 物上擔保

第一章 留置權

第九十二條 留置權ハ財産編及ヒ財産取得編ニ於テ特別ニ之ヲ規定シタル場合ノ外債權者カ既ニ正當ノ原因ニ由リテ其債務者ノ動産又ハ不動産ヲ占有シ且其債權カ其物ノ讓渡ニ因リ或ハ其物ノ保存ノ費用ニ因リ或ハ其物ヨリ生シタル損害賠償ニ因リテ其物ニ關シ又ハ其占有ニ牽連シテ生シタルトキハ其占有シタル物ニ付キ債權者ニ屬ス

委任ナクシテ他人ノ事務ヲ管理シタル者ハ必要ノ費用及ヒ保持ノ費用ノ爲メニ非サレハ其管理シタル物ニ付キ留置權ヲ有セス

第九十三條 債權者カ留置スル權利ヲ有シタル物ノ一分ノミチ留置シタルキ其部分ハ總債務ヲ擔保スルニ足ルニ於テハ之ヲ擔保ス之ニ反シテ債權者ハ債務者ヨリ一分ノ辨濟ヲ受ケタリト雖モ全部ノ辨濟ヲ受クルニ至ルマテ留置權ニ服シタル總テノ物ヲ留置スルコトヲ得

第九十四條 留置權ハ留置物ノ價額ニ付キ債權者ニ先取特權ヲ付與セス

然レトモ留置物ヨリ天然又ハ法定ノ果實又ハ產出物ノ生スルトキ

○民法○債權擔保編

ハ留置權者ハ他ノ債權者ニ先クテ之ヲ收取スルコトヲ得但其果實又ハ產出物ハ其債權ノ利息ニ充當シ尙ホ餘分アルトキハ元本ニ充當スルコトヲ要ス

留置權者ハ其收取スルコトヲ怠リタル果實及ヒ產出物ニ付キ其責ニ任ス

第九十五條 留置權ハ債務者カ留置物ヲ讓渡シ又他ノ債權者カ之ヲ差押へ及ヒ賣却セシムル妨ト爲ラズ

然レトモ孰レノ場合ニ於テモ取得者ハ留置權者ニ全ク辨濟セズシテ其物ヲ占有スルコトヲ得ス

第九十六條 右ノ外動産又ハ不動産ノ留置權者ハ次ノ二章ニ規定シタル如ク動産又ハ不動産ノ質取債權者ト同一ノ責任ニ從フ

此他動産質及ヒ不動産質ニ關スル規定ハ此章ノ規定ニ觸レサル限リハ留置權ニ之ヲ適用ス特ニ債權者カ有意ニテ留置權ヲ行フコトヲ怠リ又ハ實際之ヲ行フコトヲ止メタルトキハ其留置權ヲ失フ

第二章 動産質

第一節 動産質契約ノ性質及ヒ成立

第九十七條 動産質ハ債務者カ一箇又ハ數個ノ動産ヲ特ニ其義務ノ擔保ニ充ツル契約ナリ

第九十八條 動産質契約ハ債務者ノ委任ヲ受ケ又ハ好意ニテ債務者ノ爲メ擔保ヲ供スル第三者ト債權者トノ間ニモ亦之ヲ爲スコトヲ得

孰レノ場合ニ於テモ動産質ヲ供シタル第三者ハ第三十條及ヒ第三十一條ニ從ヒ保證人ノ如ク債務者ニ對シテ求償權ヲ有ス

第九十九條 動産質ハ其物ヲ處分スル能力ヲ有スル者ニ非サレハ有効ニ之ヲ供スルコトヲ得ス

合意上、法律上及ヒ裁判上ノ管理人ニ付テモ亦同シ此等ノ者ハ其權限ヲ踰エサルコトヲ要ス

若シ債務ニ關係ナキ第三者ヨリ動産質ヲ供シタルトキハ其第三者ハ第十二條ニ記載シタル如ク無償ニテ物ヲ處分スル能力ヲ有スルコトヲ要ス

第百條 動産質ハ債權及ヒ質物ヲ明カニ指定セル證書ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ設定スルコトヲ得ス

右質物ハ之ヲ他物ニ易フルコトヲ得サル様詳細ニ記載シ且要用アルトキハ之ヲ評價スルコトヲ要ス

若シ質物カ定量物ナルトキハ其種類、數量、尺度ヲ以テ之ヲ指定ス

ルコトヲ要ス

第一百條 法律ニ從ヒ證人ニ依リテ債權ヲ證スルコトヲ得ル場合ニ於テハ證書ノ調製ヲ要セス此場合ニ於テハ債權ノ額及ヒ質物ノ相違ナキコトヲ其性質、價額ヲ或ハ併合シ或ハ各別ニ人證ヲ以テ證スルコトヲ得

第一百二條 動産質ハ質取債權者カ有體ナル質物ヲ現實ニ且繼續シテ占有スルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニモ他ノ債權者ニモ對抗スルコトヲ得ス

然レトモ質物ハ當事者雙方カ選定シ又ハ債權者カ自己ノ責任ヲ以テ選定シタル第三者ノ手ニ之ヲ寄託スルコトヲ得
此規定ハ債權ノ無記名證券ニモ之ヲ適用ス

第一百三條 質物カ債權ノ記名證券ナルトキハ質取債權者ハ其證券ヲ占有スルコトヲ要ス

此他記名證券ノ質ノ設定ニ付テハ債權ノ讓渡ヲ告知スル通常ノ方式ヲ以テ第三債務者ニ其設定ヲ告知シ又ハ其第三債務者カ任意ニ之ニ參加スルコトヲ要ス
又財産編第三百四十七條ノ規定ハ右ノ場合ニ之ヲ適用ス

右ハ總テ裏書ヲ以テ取引ス可キ商證券又ハ商品ノ質ニ關シ商法ニ記載シタルモノヲ妨ケス

第一百四條 會社ノ記名ノ株券又ハ債券ヲ質ト爲ストキハ證券ノ交付ノ外會社定款又ハ法律ニ於テ株券又ハ債券ノ讓渡ノ爲メニ定メタル方式ヲ以テ之ヲ會社ニ告知シ其帳簿ニ之ヲ記入スルコトヲ要ス

第一百五條 動産質ハ當事者ノ意思ニ從ヒ働方及ヒ受方ニテ不可分クリ但反對ナル明示ノ合意アルトキハ此限ニ在ラス
動産質ハ債務者ヨリ債務ノ一分ヲ辨濟シタルトキト雖モ元利及ヒ費用ノ皆濟ニ至ルマテ質物ノ全部及ヒ各箇ニ於テ存在ス

第二節 動産質契約ノ効力
第一百六條 質取債權者ハ質物ヲ返還スルマテ其看守及ヒ保存ニ付キ善良ナル管理人ノ注意ヲ加フル責アリ

質取債權者ハ債務者ノ許諾ヲ受ケスシテ質物ヲ質貸スルコトヲ得ス又債務者ノ許諾ヲ受ケタルトキ又ハ物ノ使用カ其保存ニ必要ナルトキニ非サレハ自ラ之ヲ使用スルコトヲ得ス
若シ質取債權者カ質物ヲ濫用スルトキハ裁判所ハ其失權ヲ宣告スルコトヲ得

第三百七條 質取債權者ハ自己ノ責任ヲ以テ質物ヲ自己ノ債權者ニ轉
質ト爲スコトヲ得此場合ニ於テハ轉質ヲ爲サ、レハ生セサル可キ
意外又ハ不可抗ノ危険ニ付テモ亦其責ニ任ス

第三百八條 質物カ果實又ハ產出物ヲ生スルトキハ之ニ關シ質取債權
者ハ第九十四條第二項ニ定メタル留置權者ノ權利及ヒ義務ヲ有ス
質ト爲シタル債權ニ關シテハ質取債權者ハ其利息ヲ收取シ之ヲ自
己ノ債權ニ充當ス然レトモ債務者ノ特別ナル委任ヲ受ケスシテ其
元本ヲ受取ルコトヲ得ス但裏書ヲ以テ取引ス可キ證券ニ關スルト
キハ此限ニ在ラズ

第三百九條 質取債權者カ質物保存ノ爲メ必要ノ出費ヲ爲シタルトキ
ハ債權ニ先テ動産質ヲ以テ其出費ノ辨償ヲ擔保ス
質物ノ隠レタル瑕疵ニ因リテ債權者ノ受ケタル損害ノ賠償ニ付テ
モ亦同シ

第三百十條 質取債權者ハ動産質ノ附キタル主從ノ債務及ヒ前條ノ償
金ノ皆濟ニ至ルマテ債務者及ヒ其讓受人ニ對シテ質物ノ占有ヲ留
置スルコトヲ得
債權者ハ其債權ノ満期ニ至ラサル間ハ債務者ノ他ノ債權者ヨリ爲

ス質物ノ差押及ヒ其競賣ヲ拒ムコトヲ得
第三百十一條 動産質ノ附キタル債務カ満期ト爲リタルトキ債務者履
行ヲ爲サ、ルニ於テハ質取債權者又ハ其他ノ債權者ヨリ質物ノ競
賣ヲ求ムルコトヲ得質取債權者ハ他ノ債權者ニ先テ元利、費用
及ヒ第三百九條ニ掲ケタル償金ノ辨償ヲ受シ

第三百十二條 他ノ債權者ヨリ競賣ヲ求メス又ハ之ヲ實行スルコトヲ
得サルトキ質取債權者ハ質物ヲ己レノ有ト爲サントスルコトニ付
キ債務者ト一致セサルニ於テハ鑑定人ノ評價シタル價額ニ達スル
マテ質物ヲ辨償ニ充ツ可キコトヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但其
請求書ヲ債務者ニ豫メ提示スルコトヲ要ス

質物ノ價額カ債務ヲ超ユル場合ニ於テハ質取債權者ハ債務者ニ其
超過額ヲ辨償スルコトヲ要ス
第三百十三條 總テ動産質契約ノ約款又ハ債務満期前ノ合意ニシテ債
權者ニ其債權ノ全部又ハ一分ニ付キ辨償ノ爲メ裁判上ノ評價ナシ
シテ流質ヲ許スモノハ當然無効ナリ

本條ノ禁止ヲ犯ス爲メ債務者カ債權者ニ爲シタル受戻約款附ノ賣
買其他ノ合意ハ之ヲ無効ト宣告スルコトヲ得
○民法の附屬條

本條ニ定メタル無効ハ質取債權者ヨリ之ヲ援用スルコトヲ得スシ
テ債務者又ハ其承繼人ノミ之ヲ援用スルコトヲ得
第百十四條 質物カ質取債權者ノ方ニ存スル間ハ其債務ノ免責時効
ノ成就ヲ停止ス

第百十五條 質物ノ占有ハ常ニ容假ノ占有ニシテ其占有ノ繼續期ノ
如何ニ拘ハラス又債務カ辨濟其他ノ方法ニテ消滅シタル後ト雖モ
質取債權者ハ取得時効ヲ援用スルコトヲ得ス
然レトモ財産編第百八十五條ニ定メタル二者ノ場合ニ於テハ容假
タルコトハ止ム

第三章 不動産質

第一節 不動産質ノ目的、性質及ヒ組成

第百十六條 不動産質契約、不動産質債權者ニ他ノ總債權者ヨリ先
ニ其不動産ノ果實及ヒ入額ヲ收取スル權利ヲ付與ス
債務ノ満期ニ至レハ債權者ハ抵當權アル債權者ノ權利ヲ行フ
此期限ハ三十年ヲ超過スルコトヲ得ス之ヲ超ユルトキハ當然三
十年ニ減縮ス
此期限ハ縱令之ヲ延フルモ前後通算シテ三十年ヲ超過スルコト

ヲ得ス

第百十七條 不動産質ハ債務者ノ爲メ第三者之ヲ設定スルコトヲ得
其不動産質ハ債務者ト設定者トノ間ニ於テハ不動産質ノ爲メ第九十
八條ニ定メタル効力ヲ生ス

第百十八條 不動産質ハ第百九十七條及ヒ第百九十八條ニ從ヒ抵當
ト爲スヲ得ヘキ財産ノ上ニ非サレハ之ヲ設定スルコトヲ得ス
此他設定者ハ質ト爲ス財産ノ收益權ヲ自ラ有スルコトヲ要ス其質
ハ如何ナル場合ニ於テモ其收益權ノ繼續期間ヲ超過スルコトヲ得
ス

不動産質設定ノ爲メニ要スル能力ハ第百九條及ヒ第百十條ニ
定メタル抵當設定ノ能力ト同一ナリ

第百十九條 不動産質カ合意上ノモノナルトキハ其質ハ公正證書又
ハ私署證書ヲ以テスルコト非サレハ當事者ノ間ニ之ヲ設定スルコト
ヲ得ス

又不動産質ハ第百二十二條ニ從ヒ遺言上ノ抵當ノ許サルル場合ニ
於テハ遺言ヲ以テ之ヲ設定スルコトヲ得
不動産質ハ之ヲ設定スル證書又ハ遺言書ニ依リ財産編第百四十

○民法○債權編保釋

八條ニ從ヒテ登記シタル後ニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス
三百五十六
若ノ登記ハ抵當ノ順位ヲ保存スル爲メ抵當ノ登記ニ同シキ效力ヲ有ス

第三百二十條 不動産質ヲ設定スル證書又ハ遺言書ニハ其不動産ノ精確ナル指示ノ外元利ノ債權額ヲ指示スルコトヲ要ス

若ノ指示カ不十分ナル場合ニ於テハ既ニ爲シタル登記ニ補足ノ合意ヲ附記ス然レトモ此附記ハ其日附後ニ非サレハ效力ヲ生ゼス
第三百二十一條 質ト爲シタル物權カ利益權、賃借權又ハ永借權ナルトキハ此權利ノ設定證書ニ依ル登記ニ其質權ヲ附記スルヲ以テ足レリトス

第三百二十二條 質取債權者ハ右ノ外不動産質ニ關シ第三百一條ニ記載シタル如ク其債權ヲ擔保スル不動産ヲ現實ニ占有スルコトヲ要ス

第三百二十三條 不動産質ハ動産質ニ關シ第五百五條ニ記載シタル如ク働方及ヒ受方ニテ不可分タリ
第二節 不動産質ノ效力

第三百二十四條 質取債權者ハ質ニ取リタル不動産ヲ財産編第百十九條乃至第三百二十二條ニ規定シタル制限ニ從ヒ且質契約ノ期間ニ限リ質貸スルコトヲ得但反對ノ合意アルトキハ此限ニ在ラス
又質取債權者ハ自己ノ權利ノ繼續期間ニ限リ動産質ニ付キ第三百七條ニ記載シタル如ク自己ノ責任ヲ以テ其不動産ヲ轉質ト爲スコトヲ得

第三百二十五條 質取債權者ハ租稅其他毎年ノ公課ヲ負擔ス
質取債權者ハ小修繕及ヒ必要且急迫ナル大修繕ヲ爲ス責ニ任ス若シ此ニ違フトキハ損害賠償ヲ負擔ス但此大修繕ノ費用ハ債務者之ヲ償還ス

第三百二十六條 建物、宅地ノ質ニ付テハ債權者ハ自ラ之ヲ領スルト之ヲ質貸スルトヲ問ハス其質貸ヲ自己ノ債權ノ利息ニ充當シ猶ホ超過額アルトキ又ハ債權カ無利息ナルトキハ元本ニ充當ス
田畑山林ノ質ニ付テハ當事者ノ間ニ於テ果實ト利息トハ計算セスシテ相殺シタリト看做ス但反對ノ合意アルハ又他ノ債權者ニ對シ又ハ利息ノ法律上ノ制限ニ付キ顯著ナル詐害アルハ此限ニ在ラス
質貸又ハ果實ノ利息ニ充當スルニハ毎年ノ公課及ヒ保持、管理ノ裁
○民法○債權擔保編
三百五十七

増ノ費用ヲ控除シタル純益價額ニ付キ之ヲ爲ス

第二百二十七條 質取債權者ハ如何ナル反對ノ合意アルニ拘ハラズ常ニ己レノ爲メ負擔重キニ過クルト思慮スル收益權ヲ將來ニ向ヒテ拋棄シ無利息ニテ抵當權ノミチ存スルコトヲ得然レトモ適當ノ時期ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二百二十八條 債權者ハ債務ノ苦濟ニ至ルマテ質ニ取リタル不動産ノ占有ヲ留置スルコトヲ得

然レトモ質取債權者ハ債務ノ満期前又ハ満期後ニ債務者又ハ他ノ債權者ヨリ求メタル賣却ニ故障ヲ申立ツルコトヲ得ス又質取債權者ハ満期後自ラ賣却ヲ申立ツルコトヲ得右ハ下ニ指示シタル別異ノ效力ヲ生ス

第二百二十九條 他ノ債權者ヨリ求メタル賣却ノ場合ニ於テハ質取債權者ハ其順位ニ於テ其抵當權ヲ行ヒ且其債權者カ如何ナル先取特權又ハ抵當權アル他ノ債權者ニモ先シテレサルトキ及ヒ先シテ取得者ハ質取債權者ノ尙ホ受ク可キモノノ爲メ第二百十六條ニ從ヒ質ノ終了ス可キ時期ニ至ルマテ留置權ニ遵フ責アリ

債務者ノ爲シタル賣却ニ先取特權若クハ抵當權アル債權者又ハ質取債權者ノ請求ニ因リテ増價競賣ノ有リタル場合ニ於テモ亦同シ然レトモ質取債權者自ラ賣却ヲ求メタル場合ニ於テハ其收益權及ヒ留置權ハ消滅ス但其賣却ニ付キ明白ニ此權利ヲ留保シ且順位ノ如何ヲ問ハス他ニ先取特權又ハ抵當權アル債權者アラサルトキハ此限ニ在ラス

右二箇ノ條件アルトキハ取得者債務ノ消滅ニ至ルマテ質權ニ遵フ責アリ

第二百三十條 第二百六條、第二百九條、第一百十條及ヒ第二百十三條乃至第十五條ハ不動産質ニモ之ヲ適用ス

第四章 先取特權 總則

第三百一十一條 先取特權ハ合意ナキモ法律カ或ル債權ノ原因ニ附著セシメタル優先權ナリ但不動産質及ヒ不動産質ヨリ生スル先取特權ハ合意上ノモノトス 先取特權ハ法律ノ制限シテ定メタル原因、條件及ヒ目的ニ於ケルニ非サレハ存在セス

○民法○債權擔保編

先取特權カ第三所持者ニ對シテ追及權ヲ付與スル場合及ヒ其權利行使ノ條件モ亦法律ヲ以テ之ヲ定ム

第三百二十二條

先取特權ハ動産質及ヒ不動産質ニ關シ第百五條及ヒ

第三百二十三條

記載シタル如ク働方及ヒ受方ニテ不可分ナリ

第三百三十三條

先取特權ノ負擔アル物カ第三者ノ方ニテ滅失シ又ハ

毀損シ第三者此カ爲メ債務者ニ賠償ヲ負擔シタルトキハ先取特權アル債權者ハ他ノ債權者ニ先クテ此賠償ニ於ケル債務者ノ權利ヲ爲メスコトヲ要ス

先取特權ノ負擔アル物ヲ賣却シ又ハ貸貸シタル場合及ヒ其物ニ關シ權利ノ行使ノ爲メ債務者ニ金額又ハ有價物ヲ辨濟ス可キ總テノ場合ニ於テモ亦同シ

第三百二十四條

先取特權ノ種類ハ之ヲ左ニ掲ク

- 第一 債務者ノ總動産及ヒ附隨ニテ其總不動産ニ係ル一般ノ先取特權
- 第二 或ル動産ニ係ル特別ノ先取特權
- 第三 或ル不動産ニ係ル特別ノ先取特權

第三百二十五條

一般又ハ特別ノ先取特權ヲ有スル債權者ノ相互ノ順位ハ本章ノ各節ニ於テ之ヲ規定ス

不動産ニ付キ先取特權ヲ有スル債權者ハ其同一ノ不動産ニ付キ抵當權ヲ有スル債權者ニ先ツ但法律ニ於テ特別ニ規定シタル場合ハ此限ニ在ラス

同原因又ハ同順位ノ先取特權アル債權者ハ其債權額ノ割合ニ應シテ辨濟ヲ受ク

第三百三十六條

本法ニ定メタル先取特權ハ商法又ハ特別法ヲ以テ規定シ又ハ規定ス可キ先取特權ヲ妨ケス

商法又ハ特別法ノ先取特權ハ別段ノ規定ナキ場合ニ於テハ下ニ定メタル一般ノ規則ニ從フ

第一節 動産及ヒ不動産ニ係ル一般ノ先取特權

第一款 一般ノ先取特權ノ原因

第三百三十七條

動産及ヒ不動産ニ係ル先取特權アル債權者ハ之ヲ左ニ掲ク但下ニ定メタル制限及ヒ條件ニ從フ

- 第一 訟事費用
- 第二 葬式費用

○民法○債權擔保編

第三 最後疾病費用

第四 雇人給料

第五 日用品供給

第一則 訟事費用ノ先取特權

第三百二十八條 訟事費用ノ先取特權ハ或ハ債務者ノ財産ヲ保存スル爲メ或ハ其財産ヲ清算配當スル爲メ各債權者ノ共同利益ニ於テ正當ニ爲セル裁判上若クハ裁判外ノ總テノ行爲ニ付キ金錢ノ立替ヲ爲シタル債權者又ハ給料若クハ謝金ヲ受取ル可キ債權者ニ屬ス
總債權者ニ有益ナラザリシ費用ニ付テハ先取特權ハ特別ノモノニシテ其費用ノ爲メ利益ヲ得タル債權者ニ對スルニ非サレハ之ヲ以テ對抗スルコトヲ得ス

第二則 葬式費用ノ先取特權

第三百二十九條 債務者ノ身分ニ應シ且慣習ニ從ヒテ爲シタル葬式費用ハ先取特權アルモノトス
先取特權ハ債務者ノ擔當ニ係ル同居親族ノ葬式費用ニモ亦之ヲ適用ス
此先取特權ハ葬式ニ連續シタル出費ニ及ハス縱令其出費カ慣習上

クモノタルモ亦同シ

第三則 最後疾病費用ノ先取特權

第四百十條 最後疾病費用ノ先取特權ハ債務者又ハ前條ニ指定シタル親族ノ死亡前ノ疾病ニ關スル醫師、藥商、看病人其他此ニ類スル費用ヲ包含ス但債務者ノ破産前又ハ無資力前ノ疾病及ヒ其親族ノ疾病ニ關スル費用モ亦同シ
長病ノ場合ニ於テハ右ノ費用ノ先取特權ハ最後ノ一年ノ費用ニ之ヲ制限ス

右ノ費用ヲ生セシメタル疾病ノ外ナル原因ノ爲メ死亡アリタルトキト雖モ先取特權ハ猶ホ存ス

第四則 雇人給料ノ先取特權

第四百十一條 雇人ノ先取特權ハ債務者又ハ其擔當ニ係ル同居親族ノ雇人ニ屬ス

右ノ先取特權ハ最後ノ一年ノ給料ノミヲ擔保ス

第五則 日用品供給ノ先取特權

第四百十二條 日用品供給ノ先取特權ハ債務者又ハ其擔當ニ係ル同居ノ親族及ヒ雇人ノ生活ニ必要ナル日用品ノ供給者ニ屬ス

○民法○債權擔保編

右ノ先取特權ハ最後ノ六個月間ノ供給ノミチ包含ス

第二款 一般ノ先取特權ノ効力及ヒ順位

第四百四十三條 一般ノ先取特權ハ先取特權アル各債權者カ動産ニ付キ配當ヲ受ク尙ホ不足アルコト非サレハ不動産ニ付キ之ヲ行フコトヲ得ス

然レトモ動産代價ノ配當ニ先ダチ不動産代價ノ配當アルトキハ債權者ハ假ニ條件附ニテ之ニ加入スルコトヲ得但日後動産代價ノ配當加入ニ於テ辨濟ヲ得サル部分ニ非サレハ之ヲ受クルコトヲ得ス
動産代價ノ配當ニ有益ナル時期ニ加入スルコトヲ怠リタル債權者ハ動産ニ付キ受ク可カリシモノノ限度ニ於テ不動産ニ付キ其優先權ヲ失フ

第四百四十四條 一般ノ先取特權ノ互ニ競合スル場合ニ於テハ第三百十八條乃至第四百四十二條ニ列記シタル相互ノ順序ニ從ヒテ配當加入ヲ定ム

右ノ數條ニ掲ケタル同原因ノ債權ハ同順位ニテ配當ニ加入ス
若シ一般ノ先取特權カ動産ニ係ル特別ノ先取特權ト競合スルトキハ其順位ハ下ノ第二節ニ於テ之ヲ規定ス

不動産ニ係ル特別ノ先取特權ハ一般ノ先取特權ニ先ダチ又特別ノ抵當ハ後ノ設定ニ係ルト雖モ詐害ナキニ於テハ一般ノ先取特權ニ先ダツ

然レトモ一般ノ先取特權ハ其發生前ノ取得ニ係ル一般ノ抵當ニモ先ダツ

一般ノ抵當ノ負擔アル總不動産ヲ同時ニ賣却シタル場合ニ於テハ一般ノ先取特權ハ各不動産ノ賣却代價ノ割合ニ應シテ其總不動産ニ付キ配當ニ加入ス

若シ順次ニ右ノ不動産ヲ賣却スルトキハ一般ノ先取特權ハ初ノ賣却ニ付キ全部之ヲ充當シ尙ホ附隨ニテ次ノ賣却ニ付キ之ヲ充當ス且此先取特權ヲ負擔セシ不動産ニ付キ一般ノ抵當ヲ有スル債權者ハ他ノ不動産ノ賣却代價ニ付キ求償權ヲ有ス

第四百四十五條 一般ノ先取特權ハ不動産カ債務者ニ屬スル間ハ他ノ債權者ニ對抗スル爲メ其不動産ニ付テノ登記ヲ要セス

第二節 動産ニ係ル特別ノ先取特權

第一款 動産ニ係ル特別ノ先取特權ノ原因及ヒ目的

第四百四十六條 上ノ第二章ニ規定シタル先取特權ヲ有スル動産質取

○民法○債權擔保編

債權者ノ外下ニ指定シタル動産物ニ付キ先取特權ヲ有スル債權者ハ之ヲ左ニ掲ク

- 第一 不動産ノ貸貸人
- 第二 種子及ヒ肥料ノ供給者
- 第三 農業ノ稼人及ヒ工業ノ職工
- 第四 動産物ノ保存者
- 第五 動産物ノ賣主
- 第六 旅店主人
- 第七 舟車運送營業人
- 第八 保證金ヲ供スル義務アル公吏ノ職務上ノ所爲ニ對スル債權者
- 第九 右保證金ノ貸主

第一則 不動産貸貸人ノ先取特權

第四百四十七條 居宅、倉庫、其他ノ建物ノ貸貸人ハ賃借人ノ使用又ハ商工業ノ爲メ此建物内ニ備ヘタル動産物ニ付キ先取特權ヲ有ス
右ノ動産物カ賃借人ニ屬セスト雖モ先取特權ハ猶ホ存ス但賃借人カ貸貸場所ニ此動産物ノ持込ヲ知リタル當時其物ノ賃借人ニ屬セ

サル事實ヲ知ラズ且其事實ヲ豫見スルニ足ル可キ理由アラカリシトキニ限ル
賃借人ノ先取特權ハ現金ニ付キ又賃借人及ヒ其家族ノ一身ノ使用ニ供シタル金玉寶石ニ付キ又無記名ナルモ證券ニ付キ之ヲ行フコトヲ得ス

第四百四十八條

賃貸人ハ家賃ノ當期分及ヒ後ノ一期分ノ辨濟ヲ擔保スルニ足ル可キ動産ヲ賃貸シタル場所ニ備フルコトヲ賃借人ニ要求スルコトヲ得賃借人之ヲ爲サズ且此家賃ノ前拂又ハ之ニ相當スル其他ノ擔保ヲ供セサルトキハ賃貸人ハ賃貸借ヲ解除スルコトヲ得尙ホ損害アルトキハ其賠償ヲ求ムルコトヲ得
賃貸場所ニ備ヘタル動産ヲ賃貸人ノ許諾ナクシテ取去リタルモ別ニ詐害ナキニ於テハ賃貸人ハ其擔保力不足ト爲リタルトキ且賃借人ニ屬スル權利ノ限度内ニ非サレハ此動産ヲ其場所ニ復セシムルコトヲ得ス

然レトモ賃貸人ノ權利ヲ詐害シテ爲シタル行爲ニ付テハ賃貸人ハ財産編第三百四十一條以下ニ記載シタル條件及ヒ區別ニ從ヒ第三者ニ對シテ其行爲ヲ廢罷セシムルコトヲ得

○民法○債權擔保編

右ノ總テ第百三十三條ニ依リテ貸貸人ノ有ル權利ヲ妨ケス

第百四十九條 貸借ト永賃借トヲ問ハス田畑山林ノ貸貸人ハ賃借人カ居宅並ニ土地利用ノ建物内ニ備ヘタル動産ニ付キ及ヒ土地ノ利用ニ供シタル動物、農具其他ノ器具ニ付キ上ト同一ノ限度ニ於テ先取特權ヲ有ス

右ノ貸貸人ハ賃借シタル土地ノ收穫物其他ノ產出物カ猶ホ土地ニ附著スルト土地ニ保存シ有ルトヲ問ハス其收穫物及ヒ產出物ニ付キ先取特權ヲ有ス

分果賃借人ハ賃借シタル土地ノ收穫物其他ノ產出物ノ中ニテ自己ノ權利ヲ有スル部分カ猶ホ分果小作人ノ方ニ存スル間ハ直接ニ其收穫物其他ノ產出物ノ上ニ先取特權ヲ行フ

第百五十條 賃借權ノ讓渡又ハ轉賃ノ場合ニ於テ賃借人ハ賃借場所ニ備ヘ有ル動産カ讓受人又ハ轉借人ニ屬スルコトヲ知ルト雖モ其先取特權ハ此等ノ物ニ及フ

此場合ニ於テ先取特權ハ第百三十三條ニ從ヒ讓渡又ハ轉賃ノ代價トシテ主タル賃借人ノ受取ル可キ金額ニ及フ但前拂ヲ以テ賃借人ニ對抗スルコトヲ得ス

第百五十一條 賃借人ノ財産ノ總清算ノ場合ニ於テハ賃借人ハ土地、建物ノ借賃其他ノ負擔ニ付キ前期、當期及ヒ次期ノ分ニ非サレハ前數條ニ定メタル先取特權ヲ有セズ

此他先取特權ハ賃借ヨリ生スル他ノ合意上ノ義務、前期及ヒ當期ニ於テノ賃借人ノ過失又ハ懈怠ノ爲メ賃借人ノ受ク可キ賠償及ヒ賃借人カ請求スルコトヲ得可キ解除ニ添ヒタル損害賠償ヲ擔保ス

第百五十二條 右清算ノ場合ニ於テ他ノ債權者ハ自己ノ利益ノ爲メ賃借ノ解除ヲ防止シ及ヒ初ヨリ轉賃又ハ讓渡ノ禁止アルニ拘ハラズ其賃借權ヲ轉賃シ又ハ讓渡スルコトヲ得但賃借殘期ノ爲メ賃借人ニ土地、建物ノ借賃其他ノ納額ヲ擔保スルコトヲ要ス

第二則 種子及ヒ肥料ノ供給者ノ先取特權
第百五十三條 所有者、用益者、賃借人又ハ占有者ニ種子及ヒ肥料ヲ供給シタル者ハ之ヲ用非タル年ノ果實ニ付キ先取特權ヲ有ス
蠶種及ヒ蠶ノ飼養ニ供スル桑葉ヲ供給シタル者ニ付テモ亦同シ

第三則 農業稼人及ヒ工業職工ノ先取特權
第百五十四條 雇人ノ外其年ノ耕耘收穫ノ爲メ勞動シタル稼人ハ一

○民法○債權擔保編

不年間ノ給料ノ爲メ其收穫物ニ付キ先取特權ヲ有ス
又工業ノ職工ハ工業ヨリ生スル產出物又ハ製造品ニ付キ先取特權
ヲ有ス但其年ノ給料中最後ノ三個月間ノ爲メノミニ限ル

第四則 動產物保存者ノ先取特權

第百五十五條 動產物ノ修繕又ハ保存ノ費用ニ付テノ債權者ハ第九
十二條ニ從ヒ己レニ屬スル留置權ヲ行ハサルトキト雖モ其修繕又
ハ保存シタル物ニ付キ先取特權ヲ有ス
右ノ先取特權ハ金額、有價物其他動產物ニ關スル物權又ハ人權ヲ
債務者ノ爲メニ追認シ保存シ又ハ實行セシメタル裁判上又ハ裁判
外ノ行爲ノ費用ニ之ヲ適用ス

第五則 動產物賣主ノ先取特權

第百五十六條 動產物ノ賣主ハ代價辨濟ノ爲メ期限ヲ許與シタルト
否トキ問ハス其代價及ヒ利息ノ爲メ賣却物ニ付キ先取特權ヲ有ス
若シ補足額ヲ以テスル交換アリテ其補足額カ讓渡シタル物ノ價額
ノ半ヲ超ユルキハ先取特權ハ其補足額ノ爲メ交換物ニ付キ存在ス
第百五十七條 先取特權ハ賣却物カ用方ニ因リ又ハ不動産ニ合體ス
ルニ因リテ不動産ト爲リタルトキト雖モ猶ホ買主ノ占有ニ在リ且

變形セサル間ハ存續ス但合體ノ場合ニ於テハ不動産ヲ毀損セズシ
テ其物ヲ分離スルヲ得ルコトヲ要ス

第百五十八條 賣主ノ先取特權ハ財產取得編第四十七條及ヒ第八十
二條ニ規定シタル留置及ヒ解除ノ權利ヲ妨ケス

第六則 旅店主人ノ先取特權

第百五十九條 旅店ノ主人ハ旅客其從者及ヒ牛馬ノ宿泊料、食料ノ
爲メ其旅客ノ携帶シテ尙ホ旅店ニ存スル手荷物ニ付キ先取特權ヲ
有ス

第七則 舟車運送營業人ノ先取特權

第百六十條 舟車運送營業人ハ旅客又ハ荷物ノ運送賃ノ爲メ及ヒ關
稅其他正常ナル附從ノ費用ノ爲メ自己ノ手ニ存スル運送物ニ付キ
先取特權ヲ有ス

運送營業人カ運送物ノ引渡ヨリ四十八時以内ニ債務者又ハ其名ヲ
以テ其物ヲ受取リタル者ニ對シ其物ヲ返還スルカ又ハ運送賃其他
ノ費用ヲ辨濟スルカノ催告ヲ爲シ且其効果ヲ生セシムル爲メ成ル
可ク短キ時間ニ裁判上ノ請求ヲ爲シタルトキハ其先取特權ハ物ノ
引渡後ト雖モ存續ス

○民法○貨物擔保編

如何ナル場合ニ於テモ第三取得者ニ對シテ物ヲ回復スルコトヲ得
ス但第百四十八條ニ規定シタル如ク詐害アル場合ハ此限ニ在ラス
且第百三十三條ノ適用ヲ妨ケス

第八則 職務上ノ所爲ニ對スル債權者ノ先取特權

第百六十一條 保證ヲ供スル義務アル公吏ノ職務上ノ過失又ハ職權
ノ濫用ヨリ生スル債權ハ其保證金ニ付キ先取特權アリ

第九則 保證金貸主ノ先取特權

第百六十二條 前條ノ保證金ヲ貸付タル第三者ハ職務上ノ所爲ヨリ
害ヲ受ケタル者ニ辨濟アリシ後第二位ニテ此保證金ニ付キ先取特
權ヲ有ス但第三者カ貸付ノ當時又ハ他ノ債權者ヨリ何等ノ故障ヲ
モ述ヘサル前規則ニ從ヒテ其權利ヲ證シタルトキニ限ル

第二款 動産ニ係ル特別ノ先取特權ノ順位

第百六十三條 動産ニ係ル特別ノ先取特權ト一般ノ先取特權ト競合
スルトキハ優先ノ順序ヲ左ノ如ク規定ス

第一 訟事費用ハ其費用ノ有益タリシ總債權者ノ債權ニ先ダツ
但有益ノ限度又ハ割合ニ從フ

第二 此他四個ノ一般ノ先取特權ハ第百二十七條ニ定メタル順

序ヲ以テ總テノ特別ノ先取特權ニ先ダツ但特別ノ先取特權ニ
屬セサル動産ノ不足ナル場合ニ限ル

第百六十四條 一箇ノ動産ニ付キ特別ノ先取特權ヲ有スル諸種ノ債
權競合スルトキハ其相互ノ優先權ハ下ノ順序及ヒ區別ニ從ヒテ之
ヲ定ム

第一ノ順位ハ先取特權ノ目的物ヲ保存シタル者ニ屬ス
若シ數人ノ債權者漸次ニ保存ヲ爲シタルトキハ優先權ハ其間ニテ
最後ノ保存者ニ屬ス

第二ノ順位ハ合意上ノ動産質ニ因リ或ハ不動産ノ賃貸人、旅店主
人又ハ運送營業人ノ如ク默示ノ動産質ニ因リテ物ヲ質ニ取リタル
債權者ニ屬ス

第三ノ順位ハ物ノ賣主ニ屬ス

然レトモ質取債權者ハ動産質設定ノ時其物ノ保存費用ノ未ダ支拂
アラサルコトヲ知ラザリシトキハ第一ノ順位ヲ得

之ニ反シテ質取債權者カ賣却代價ノ未ダ支拂アラサルコトヲ知リ
タルトキハ賣主之ニ先ダツ

收穫物ニ關シテハ第一ノ順位ハ農業者ノ稼人ニ第二ノ順位ハ種子及

○民法○債權擔保編

肥料ノ供給者ニ第三ノ順位ハ土地ノ貸貸人ニ屬ス
工業ノ職工ハ工業ヨリ生ズル産出物又ハ製造品ニ付キ貸貸人ニ先
ツ

公吏ノ保證金ニ關シテハ職務上ノ所爲ニ對スル各債權者ハ相共ニ
債權ノ割合ニ應シ其債權ノ日附ニ關セズ他ノ債權者ニ先ツ又保
證金ヲ貸付タル債權者ニモ先ツ其保證金ヲ貸付タル債權者ハ保
證金ノ殘額ニ付キ第二位ニテ先取特權ヲ有ス

第三節 不動産ニ係ル特別ノ先取特權

第一款 不動産ニ係ル特別ノ先取特權ノ原因及ヒ目的

第六十五條 左ノ債權者ハ下ニ定メタル債權ノ爲メ其條件ニ從ヒ
不動産ニ付キ先取特權ヲ有ス

第一 賣買、交換其他有償ノ行爲ニ因リ又無償ナルモ負擔ヲ帶
フル行爲ニ因リテ不動産ヲ讓渡シタル者ハ其讓渡シタル不動
産ニ付キ先取特權ヲ有ス

第二 共同分割者ハ分割中ニ包含シタル不動産ニ付キ先取特權
ヲ有ス

第三 工匠、技師及ヒ工事請負人ハ工事ニ因リテ不動産ニ生シ

タル増價ニ付キ先取特權ヲ有ス

第四 先取特權ヲ生セシムル行爲ノ當時讓渡人、共同分割者、工事
請負人ニ支拂ヒタル金銭ノ貸主ハ右同一ノ不動産ニ付キ先取特
權ヲ有ス

第一則 讓渡人ノ先取特權

第六十六條 讓渡人ノ先取特權ハ左ノ各人ニ屬ス

第一 賣買ノ代價及ヒ利息其他ノ負擔ニ付テハ賣主

第二 交換補足額、負擔及ヒ交換物ノ追索擔保ニ付テハ交換者

第三 贈與ノ負擔ニ付テハ贈與者又ハ其承繼人

此他ノ不動産讓渡人ハ一般ニ其對價及ヒ負擔ニ付キ先取特權ヲ有
ス

第六十七條 賣買代價、交換補足額ノ外賣買、交換、贈與ノ負擔及

ヒ交換其他有償ノ合意ニ於ケル追索擔保ノ未定ノ賠償ハ讓渡ノ證
書又ハ其後ノ證書ヲ以テ金銭ニテ之ヲ定ムルコトヲ要ス

此他右ノ證書ハ次款ニ記載スル如ク之ヲ公示スルコトヲ要ス

第六十八條 交換其他不動産ノ讓渡ノ對價トシテ受取リタル不動
産ノ追索擔保ノ爲メノ先取特權ハ其追索カ讓渡ノ時ヨリ十年内

○民法○債權擔保編

ニ生シ且廢罷ス可カラサル判決ヨリ一年内ニ擔保ノ請求ヲ爲シ
之ヲ公示シタルトキニ非サレハ存在セズ

對價トシテ受取リタル動産ニ關シテハ擔保ノ爲メノ先取特權ハ追
索カ一年内ニ生シ且廢罷ス可カラサル判決ヨリ一个月内ニ請求
ヲ爲シ之ヲ公示シタルトキニ非サレハ存在セズ

第六十九條 不動産ノ讓渡人ノ先取特權ハ債務者ノ所爲ニ因リ又
ハ其權利ニ基キ且其費用ヲ以テ不動産ニ加ヘタル増價及ヒ改良ニ
及ハス

第二則 共同分割者ノ先取特權

第七十條 社員其他ノ共有者ハ或ハ抽籤ノ方法或ハ合意上ノ指定
或ハ不分物競賣ニ因レル分割ヨリ生スル左ノ債權ノ爲メ其分割ニ
於テ各自ノ得タル不動産ニ付キ互ニ先取特權ヲ有ス

第一 補足額ノ爲メ即チ配當過分ノ返還ノ爲メニハ之ヲ負擔セ
ル分割者ニ歸シタル不動産ニ付キ先取特權アリ

第二 不分物競賣ノ代價ノ爲メニハ其競賣シタル不動産ニ付キ
先取特權アリ

第三 分割者ノ一人カ其配當部分ノ動産又ハ不動産ニ於テ受ケ

タル追索ノ擔保ノ爲メニハ他ノ分割者ニ歸シタル總不動産ニ
付キ先取特權アリ但各分割者ノ債務ノ部分ニ限ル

第七十一條 右ノ擔保ハ左ノ諸件ニ之ヲ適用ス

第一 社員ニシテ他ノ社員ニ對シ補足額又ハ不分物競賣ノ代價
ヲ負擔シタル者ノ無資力

第二 分割者者ノ一人ノ配當部分ニ債權ヲ充テタルトキ其債務
者ノ無資力但其債務者ハ分割者タルト外人タルトテ問ハス分
割ノ當時無資力タリシコトヲ要ス

第七十二條 第六十八條ハ分割者間ノ追索擔保ノ先取特權ニ之
ヲ適用ス

分割者タルト否トテ問ハス債務者ノ無資力ニ關シテハ其擔保ハ元
本ニ於ケル債務ノ満期ヨリ一年内ニ請求ヲ爲シ之ヲ公示シタル
トキニ非サレハ當事者ノ間ニテモ第三者ニ對シテモ之ヲ負擔セシ
ムルコトヲ得ス

債務カ無期又ハ終身ノ年金權タルトキ債務者ノ無資力カ分割ノ日
ヨリ十年後ニ生スルニ於テハ其擔保ノ負擔ハ止ム
債務カ利息ヲ生スル元本ニシテ其満期カ十年以上ヲ及フトキモ

○民法〇債權擔保編

亦同シ

第七十三條 第六十九條ノ規定ハ分割者ノ先取特權ニモ亦之ヲ適用ス

第三則 工匠、技師及ヒ工事請負人ノ先取特權

第七十四條 工匠、技師及ヒ工事請負人ハ建物、土手若クハ堀割ノ築造若クハ修繕又ハ地上ニ爲シタル排泄、灌溉、開墾、置土其他之ニ類似スル工事ヨリ債權ノ爲メ先取特權ヲ有ス

右ノ先取特權ハ鐵坑及ヒ石坑ノ開掘、利用、閉鎖、又ハ廢止ニ關スル地下又ハ外部ノ工事ノ爲メ工匠、技師及ヒ工事請負人ニ屬ス

第七十五條

右ノ工事ヨリ生スル先取特權ハ其工事ニ因リ土地又ハ建物ニ加ヘタル増價ニシテ先取特權行使ノ當時猶ホ存スルモノニ付キ存在ス

右ノ増價ハ裁判所ノ選任シタル鑑定人ノ作レル三箇ノ調書ヲ以テ之ヲ證スルコトヲ要ス

此第一調書ハ工事ヲ始ムル前ニ之ヲ作リテ場所ノ現狀ヲ明定シ且目論見タル工事ノ概略ヲ指示スルコトヲ要ス

此第二調書ハ工事ノ受取ニ付キ爭アルモ工事ノ竣成ヨリ又ハ原因

ノ如何ヲ問ハス其工事ノ絶止ヨリ三個月内ニ之ヲ作リ且其工事ヨリ現ニ生スル増價ヲ證スルコトヲ要ス

第四則 金錢貸主ノ先取特權

第七十六條

前數條ニ掲ケタル先取特權ハ讓渡若クハ分割ノ當時又ハ工匠、技師若クハ工事請負人トノ契約ノ當時ニ於テ賣買若クハ不分物競賣ノ代價、交換若クハ分割ノ補足額又ハ工事ノ代金ノ辨濟ノ爲メ金錢ヲ貸付タル者ニ法律ニ依リテ直接ニ屬ス但其金錢ノ貸付及ヒ使用ヲ此等ノ行爲ノ證書中ニ記載シタルトキニ限ル

若シ讓渡人、分割者又ハ工事ノ爲メノ債權者ノ利益ニ於テ先取特權ノ生セシ後ニ金錢ヲ貸付タルトキハ貸主ハ財産編第四百八十一條及ヒ第四百八十一條ニ定メタル條件及ヒ方式ニ從ヒ債權者又ハ債務者ヨリ合意上ノ代位ヲ得タルトキニ非サレハ先取特權ヲ取得セ

孰レノ場合ニ於テモ金錢ノ貸主カ債務ノ一分ノミヲ拂ヒタルトキハ貸主ハ其拂ヒタルモノノ割合ニ應シ財産編第四百八十六條ニ從

○民法○債權擔保編

ヒ原債權者ト共ニ先取特權ヲ行フ

第二款 債權者間ニ於ケル不動産ノ特別先取特權ノ効力及ヒ順位

第一百七十七條 前款ニ掲ケタル先取特權ハ下ニ定メタル方法、條件及ヒ期間ヲ以テ公示シ且保存シタルトキニ非サレハ之ヲ以テ他ノ債權者ニ對抗スルコトヲ得ス

第一百七十八條 賣買代價ノ爲メノ賣主ノ先取特權及ヒ補足額ノ爲メノ交換者ノ先取特權ハ代價又ハ補足額ノ全部又ハ一分ヲ未ダ辨濟セサル旨ヲ記シタル所有權移轉證書ニ依ル登記ヲ以テ之ヲ保存ス又交換ニ於ケル追索擔保ノ爲メ及ヒ賣買、交換其他所有權移轉契約ノ附從負擔ノ爲メノ先取特權ハ證書ニ依ル登記ヲ以テ之ヲ保存ス但擔保及ヒ負擔ノ評價ヲ證書中ニ記載シタルトキニ限ル

第一百七十九條 分割者ノ先取特權ハ分割證書ニ依ル登記ヲ以テ之ヲ保存ス但其證書ニ不分割物競賣代價又ハ補足額即チ配當過分ノ返還及ヒ追索擔保ノ評價其他各配當部分ノ負擔ノ評價ヲ記載シタルトキニ限ル

第一百八十條 右讓渡又ハ分割ノ證書ニ依ル登記ナキ間ハ取得者又ハ

分割者ノ權利ニ基キ物上擔保ヲ得タル債權者ハ其擔保ヲ登記シタルトキト雖モ其登記ヲ以テ先取特權アル讓渡人又ハ分割者ニ對抗スルコトヲ得ス但工事ヨリ生スル先取特權アル債權ハ此限ニ在ラズ

然レトモ利害關係人ハ原契約者ノ承諾ヲ得スト雖モ常ニ右讓渡又ハ分割ノ登記ヲ爲サシムルコトヲ得

第一百八十一條 讓渡又ハ分割ノ證書ニ其對價物ノ全部若クハ一分ノ未ダ辨濟アラサルコト又ハ負擔ノ付シ有ルコトヲ記載セサルトキハ日後ノ證書ヲ以テ此脫漏ヲ補フコトヲ得且其補脫ハ債權者ノ注意ヲ以テ讓渡又ハ分割ト共ニ之ヲ公示スルコトヲ得

右ノ補脫ヲ讓渡又ハ分割ノ登記ト共ニ公示セサルトキハ債權者ハ何時ニテモ其補脫ヲ公示スルコトヲ得但此場合ニ於テハ先取特權ハ單純ナル法律上ノ抵當ニ變性ス

右ノ抵當ハ二箇ノ公示ノ間ニ於テ債務者ノ權利ニ基キ物上擔保ヲ取得シ且合式ニ之ヲ公示シタル債權者ニ之ヲ以テ對抗スルコトヲ得ス

讓渡若シハ分割ノ證書ニ記シタル負擔又ハ擔保ノ評價ヲ日後ノ證

◎民法の債權擔保編

書ニ記載シタルトキモ亦同シ但其證書ニ依ル抵當ノ登記ハ其登記
ヲ爲シタル日附ニ從ヒテ債權者ノ順位ヲ定ム

第三百八十二條 讓渡人又ハ分割者ハ其先取特權カ法律上ノ抵當ニ變
性シタルトキハ此抵當ノ登記前ニ債務者ノ權利ニ基キ物上擔保ヲ
取得シ且合式ニ保存シタル債權者ヲ害シテ義務不履行ノ爲メノ解
除訴權ヲ行フコトヲ得ス

第三百八十三條 工匠、技師又ハ工事請負人ノ先取特權ハ第七十五
條ニ定メタル第一第二ノ調書ニ依リ登記スルヲ以テ之ヲ保存ス
此第一調書ニ依ル登記ハ工事ヲ始ムル前ニ之ヲ爲スコトヲ要ス
第二調書ニ依ル登記ハ其調製ヨリ一个月内ニ於テ之ヲ爲スコトヲ
要ス

第二調書ニ依ル登記ノ効力ハ第一調書ノ日附ニ遡及シ且工事ノ前
又ハ後ニ債務者ト契約シタル各人ニ對シ其増價ニ付テノ優先權ヲ
先取特權アル債權者ニ保有セシム

利害關係人中ノ一人ノ爲シタル右調書ニ依リテ爲シタル登記ハ委
任ナキトキト雖モ他ノ關係人ヲ利シ且總關係人ニ其債權ノ割合ニ
應シテ辨濟ヲ受クル爲メノ同一ノ順位ヲ保有セシム但總テノ者カ

有益ノ時期ニ於テ必要ナル疏明ヲ爲スコトヲ要ス
第三百八十四條 前條ニ指定シタル期間ニ二箇ノ調書ニ依ル登記ノ一
ヲ爲サカリシトキハ先取特權ハ法律上ノ抵當ニ變性シ其順位ハ左
ノ日附ヲ以テ之ヲ定ム

第一 工事ノ竣成又ハ絶止ノ時ヨリ三个月内ニ第二調書ヲ調製
シ且次月内ニ之ヲ登記シタルトキハ第一調書ノ遅延登記ノ日
附

第二 右ノ三个月内ニ第二調書ヲ調製セズ又ハ三个月内ニ之ヲ
調製シタルモ次月内ニ之ヲ登記セサルトキハ其第二調書ニ依
ル登記ノ日附

第三百八十五條 取得、分割又ハ工事ノ爲メ初ニ金錢ヲ貸付タル者ノ
第三百七十六條第一項ニ從ヒテ有スル先取特權ハ讓渡人、分割者又
ハ工事請負人ニ於ケルト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ保存ス

右貸主カ日後代位ニ因リテ讓渡人、分割者又ハ工事請負人ニ承繼
シタルトキ未タ先取特權ノ公示アラサルニ於テハ其貸主ハ主タル
證書及ヒ代位證書ニ依ル登記ニ因リテ其公示ヲ爲サシム
若シ代位前ニ公示アリタルトキハ貸主ハ登記ニ代位ノ附記ヲ請求

○民法○權擔保編

大可シ

又先取特權アル債權ヲ讓受ケタル者ハ讓渡ノ附記ヲ請求ス可シ
此末ノ二箇ノ場合ニ於テ附記ヲ爲サシムルコトヲ遅延シタル代位
者又ハ讓受人ハ其以前善意ニテ債務者又ハ其承繼人ト原債權者ト
ノ間ニ爲シタル辨濟其他ノ免責ノ行爲ヲ駁撃スルコトヲ得ス

第百八十六條 上ニ記載シタル如クニ保存シタル先取特權又ハ抵當
アル債權ニシテ利息又ハ年金ノ附キタルモノハ利息又ハ年金ノ滿
期ト爲リタル最終ノ二個年分ニ非サレハ元本ト同一ノ順位ニテ配
當ニ加入スルコトヲ得ス但滿期ノ利息又ハ年金ノ中ニテ二個年以
外ノモノノ爲メ漸次ニ特別ノ抵當登記ヲ爲ス可キ債權者ノ權利ヲ
妨ケス

第百八十七條 不動産ニ付キ先取特權アル債權者間ノ相互ノ優先權
ハ左ノ順序ニ從フ

第一 工匠、技師及ヒ工事請負人但其債權カ他ノ債權ヨリ後ニ
生シタルトキモ亦優先權ヲ有ス
此工事ヨリ生スル増價額カ右ノ各人ニ全ク辨濟スルニ足ラサ
ル場合ニ於テハ債權ノ割合ニ應ジ同一ノ順位ニテ其配當加入

ヲ定ム

第二 讓渡人又ハ分割者

逐次ノ讓渡又ハ分割ノ場合ニ於テハ優先權ハ債權者間最モ舊
キ者ニ屬ス

金錢ノ貸主ハ或ハ初ヨリ或ハ合意上ノ代位ニ因リ貸付タル其
金錢ニテ全部又ハ一分ノ辨濟ヲ受ケタル債權者ト同一ノ順位
ヲ有ス

第百八十八條

先取特權ノ登記及ヒ其更新、抹消、減少ニ關スル規則
ハ先取特權及ヒ抵當權ニ共通ニシテ之ヲ次章ニ規定ス

第三款

第三所持有者ニ對スル不動産先取特權ノ効力

第百八十九條

合式ニ公示シタル先取特權ハ其負擔アル不動産ニ付
キ第三所持有者ニマテ追及ス

第三所持有者カ下ニ定ムル方法ノ一ニ依リテ先取特權アル債權者ニ
辨濟セサルトキハ其債權者ハ第三所持有者ニ對シ其不動産ヲ差押へ
之ヲ競賣ニ付スルコトヲ得

第百九十條 一般ノ先取特權ハ第三所持有者ノ取得ノ登記前ニ之ヲ登
記シタルトキニ非サレハ其第三所持有者ニ移轉シタル不動産ニ付キ

○民法○債權總論編

追及權ヲ與ヘス

第百九十一條 轉得者ノ取得ノ登記前ニ登記セラル讓渡又ハ分割ニ因リテ先取特權ヲ有スル債權者ハ其先取特權ノ生シタル權原ヲ登記スルコトニ付キ轉得者ヨリ催告ヲ受ケタルモ一个月内ニ其登記ヲ爲ササリシトキニ非サレハ追及權ヲ失ハス但此一个月ニハ距離ニ應シテ法律上ノ期間ヲ加フ

然レトモ轉得者ハ其讓渡人カ十年以上不動産ニ付キ法定ノ占有ヲ爲シタルトキハ右ノ催告ヲ爲ス責ナク且舊所有者ノ總テノ先取特權ヲ免カル

第百九十二條 工事ニ因リ先取特權ヲ有スル債權者ハ工事ノ竣成又ハ其絶止ノ前ニ讓渡ノ登記アリタルモ第一調書ニ依ル登記ニ因リテ追及權ヲ行フコトヲ得

工事ノ竣成シ又ハ絶止シタルトキ第二調書ノ調製及ヒ之ニ依ル登記ノ二箇ノ期間カ未ダ經過セサルニ於テハ右ノ債權者ハ此期間ノ滿了後又ハ第二調書ヲ調製シ且之ニ依リテ登記ス可キ催告ヲ受ケタルモ一个月内ニ之ニ應セサリシ後ニ非サレハ先取特權ヲ失ハス

第百九十三條 先取特權アル債權者ハ追及權ヲ保存シ及ヒ之ヲ行

フ爲メニ必要ナル公示ヲ爲ササルモ第三所持者ノ負擔シタル讓渡代價ニ付キ辨濟ヲ受クル權ヲ失ハス但代價ノ辨濟前又ハ順序配當手續ノ閉銷前ニ自ラ債權者タルコトヲ知ラシメ且其債權ヲ證シタルトキニ限ル

第百九十四條 先取特權ニ關スル追及權、其條件、効力並ニ第三所持者カ所有權徵收ヲ避クル方法及ヒ先取特權消滅ノ原因ハ次章ノ第三節第五節乃至第七節ノ規定ニ從フ但先取特權ノ固有ノ規則ニ反スルモノハ此限ニ在ラス

第五章 抵當

第一節 抵當ノ性質及ヒ目的

第百九十五條 抵當ハ法律又ハ人意ニ因リテ或ル義務ヲ他ノ義務ニ先ダチテ辨償スル爲メニ充テタル不動産ノ上ノ物權ナリ

第百九十六條 抵當ハ動産質及ヒ不動産質ニ付キ記載シタル如ク働方及ヒ受方ニテ不可分タリ但反對ノ合意アルトキハ此限ニ在ラス

第百九十七條 抵當ハ不動産ノ完全所有權ノ上ノミナラス用益權、賃借權、永借權及ヒ地上權ノ上ニモ此等ノ權利ヲ支分シタル所有權ノ上ニモ之ヲ設定スルコトヲ得

○民法○債權擔保編

然レトモ完全ノ所有權ヲ有スル者ハ虛有權又ハ用益權ノミヲ分離シテ之ヲ抵當ト爲スコトヲ得ス

之ニ反シテ所有者ハ其不動産ノ限界ニ因リテ定マリタル部分又ハ其不分ノ幾部分ヲ抵當ト爲スコトヲ得

地役ハ要役地ヨリ分離シテ之ヲ抵當ト爲スヲ得又用方ニ因ル不動産ハ其附著スル不動産ヨリ分離シテ之ヲ抵當ト爲スヲ得ス

第百九十八條

左ニ掲ケルモノハ之ヲ抵當ト爲スコトヲ得ス

第一 使用權、住居權其他讓渡スコトヲ得ス又ハ差押フルコトヲ得サル財產

第二 財產編第十條第二號及ヒ第三號ニ掲ケタル如キ不動産債權

第三 同條第四號ニ掲ケタル如キ不動産ト爲シタル債權但之ヲ不動産ト爲スコトヲ許可スル法律カ其抵當ヲ許ササルトキニ限ル

船舶ノ抵當ニ付テハ商法ノ規定ニ從フ

第百九十九條

此章ノ規定ハ商法其他特別法ニ於テ異例ヲ設ケサル限リハ此等ノ法律ヲ以テ設定シタル抵當ニ之ヲ適用ス

第二百條

抵當ハ意外及ヒ無償ノ原因ニ由リ或ハ債務者ノ所爲及ヒ費用ニ因リテ不動産ニ生スルコト有ル可キ増加又ハ改良ニ當然及

フモノトス但他ノ債權者ニ對シテ損害ナキコトヲ要シ且前章ニ規定シタル如キ工匠、技術及ヒ工事請負人ノ先取特權ヲ妨ケス

抵當ハ債務者カ縱令無償ニテ取得シタルモノナルモ其隣接地ニ及ハサルモノトス但漸圍障ノ設立又ハ舊圍障ノ廢棄ニ因リテ隣接地

ヲ抵當不動産ニ合體シタルトキモ亦同シ

第二百一條

意外若シハ不可抗ノ原因又ハ第三者ノ所爲ニ出テタル抵當財產ノ滅失、減少又ハ毀損ハ債權者ノ損失タリ但先取特權ニ

關シ第百二十三條ニ記載シタル如ク債權者ノ賠償ヲ受ク可キ場合ニ於テハ其權利ヲ妨ケス

若シ抵當財產カ債務者ノ所爲ニ因リ又ハ保持ヲ爲ササルニ因リテ減少又ハ毀損ヲ受ケ此カ爲メ債權者ノ擔保カ不十分ト爲リタルト

キハ債務者ハ抵當ノ補充ヲ與フル責ニ任ス

此補充ヲ與フルコト能ハサル場合ニ於テハ債務者ハ擔保ノ不十分ト爲リタル限度ニ應シ満期前ト雖モ債務ヲ辨濟スル責ニ任ス

第二百二條

抵當財產ノ差押ナキ間ハ債務者ハ財產編第百十九條及

○民法○債權擔保編

第三百八十九

第三百八十九

二百二十條ニ定メタル期間其不動産ヲ貸貸スルコトヲ得又其果實及ヒ產出物ヲ讓渡シ及ヒ管理ノ總テノ行爲ヲ爲スコトヲ得

第二節 抵當ノ種類

二百三條 抵當ハ法律上、合意上又ハ遺言上ノモノナリ

第一款 法律上ノ抵當

二百四條 左ノ抵當ハ總テノ要約ニ關セズ當然成立ス

第一 婦カ其夫ニ對シテ有スルコト有ル可キ總債權ノ爲メ婚姻

ノ日現ニ夫ニ屬スルト日後之ニ屬ス可キトナ問ハス其夫ノ總不動產ニ付キ婦ノ有スル抵當但夫ノ未成年タルトキモ亦同シ

第二 未成年者及ヒ禁治產者カ其後見人ニ對シテ有スル總債權ノ爲メ現在ニ屬スルト將來ニ得ルトナ問ハス後見人ノ總不動產ニ付キ有スル抵當

第三 國、府縣、市町村及ヒ公設所カ行政法ノ定メタル限度ト條件トニ從ヒ會計吏員ノ管理ノ爲メ其不動産ニ付キ有スル抵當又第百八十一條及ヒ第百八十四條ニ從ヒテ變性シタル先取特權ヨリ生スル抵當ハ之ヲ法律上ノ抵當ト看做ス

第二款 合意上ノ抵當

二百五條

合意上ノ抵當ハ公正證書又ハ私署證書ヲ以テスルニ非レハ之ヲ設クルコトヲ得代理人ヲ以テ抵當ヲ設定スルトキハ委任ノ要旨ヲ抵當ノ設定證書ニ示スコトヲ要ス

二百六條

本邦ニ存在スル財產ニ付キ外國ニ於テ爲シタル抵當ノ合意ハ此種類ノ行爲ノ爲メ外國ニ於テ用ユル方式ニ從ヒ之ヲ爲シタルトキハ其效ヲ生ズ然レトモ特別法ニ規定シタル條件ニ從フニ非サレハ此合意ニ依リ本邦ニ於テ登記ヲ爲スコトヲ得ス

二百七條

抵當ノ設定證書ニハ義務ノ擔保ニ充テタル不動産ヲ其性質及ヒ所在ヲ以テ特ニ指示スルコトヲ要ス

若シ抵當ノ設定カ債務者ノ現在ノ各不動産ヲ特ニ指示セズシテ其全部又ハ一分ヲ包含スルトキハ債務者ノ請求ニ因リ債權ノ擔保ニ必要ナル限度ニ其抵當ヲ減少スルコトヲ得

債務者ノ將來ノ財產ニ付テノ一般又ハ特別ノ抵當ノ設定ハ無効ナリ

二百八條

抵當ノ設定證書ニハ行ノ外義務ノ原因、體様及ヒ其主從ノ目的ヲ明カニ指示スルコトヲ要ス

○民法○債權擔保編

ハ登記ノ時ニ於テモ猶ホ之ヲ爲スコトヲ得

第二百九條 抵當ハ抵當ニ充テント欲スル物ノ所有權又ハ收益權ヲ有シ且尙有償又ハ無償ニテ其物ヲ處分スル能力ヲ有スル者ニ非サレハ之ヲ承諾スルコトヲ得ス但第三者ノ抵當設定ニ關スル第二百一一條ノ規定ヲ妨ケス

若シ有期ノ物權ヲ抵當ト爲シタルトキハ其抵當ハ此權利ノ時期外ニ效力ヲ生スルコトヲ得ス然レトモ抵當ト爲リタル權利カ此時期ノ滿了前或ル出來事ニ因リ物ノ價額ヲ代表スル價金ニ移リタルトキハ債權者此價金ニ付キ其權利ヲ行フ

第二百十條 未成年者、禁治產者及ヒ失踪者ノ財産ハ法律ニ定メタル原因及ヒ方式ニ依ルニ非サレハ其代人ニ於テ之ヲ抵當ト爲スコトヲ得ス

第二百十一條 合意上ノ抵當ハ第九十八條及ヒ第一百十七條ニ於テ動産質及ヒ不動産質ニ付キ記載シタル如ク債務者ノ債務ヲ擔保スル爲メ第三者ヨリ之ヲ設定スルコトヲ得

右ノ抵當ハ之ヲ設定セシムル爲メ債務者カ何等ノ出捐モ爲ササルトキハ債務者ニ對シテハ恩惠ナリトス

又抵當ハ債權カ無償ナルトキ又ハ有償ナルモ諾約ナクシテ主タル合意以後ニ之ヲ設定シタルトキハ債權者ニ對シテモ恩惠ナリトス

第三款 遺言上ノ抵當

第二百十二條 抵當ハ遺贈ノ擔保ノ爲メ又ハ第三者ノ債務ノ擔保ノ爲メニシテ遺言ヲ以テ之ヲ設定スルコトヲ得

第三節 抵當ノ公示

第一款 登記ノ條件及ヒ期間

第二百十三條 凡ソ法律上、合意上又ハ遺言上ノ抵當ハ下ニ定メタル條件ニ從ヒ其不動産所在地ノ登記所ニ於テ登記ヲ爲シタルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

數箇ノ登記所ノ管轄ニ跨カル不動産ノ全部ヲ抵當ト爲シタルトキハ其主タル部分ノ所在地ヲ管轄スル登記所ニ於テ登記ヲ爲シ他ノ登記所ニ於テハ其登記及ヒ日附ノ記載ノミヲ爲ス

第二百十四條 抵當ハ其設定ノ後債務者ノ無資力カ正當ニ宣告セラレ又ハ其財産ノ全部若シハ過半ノ差押ニ因リ顯然ト爲リタルトキハ有效ニ之ヲ登記スルコトヲ得ス但破産ノ場合ニ於ケル登記ノ權利ニ付テノ商法ノ制限ヲ妨ケス

○民法○債權擔保編

抵當財産ノ讓渡アリタルトキ其讓受人ニ對シテ債權者ノ登記スル
權利ノ制限ハ五節ニ於テ之ヲ規定ス

第二百十五條 債權者カ財産ノ管理權ヲ有セサルトキハ抵當ノ登記
ハ法律上又ハ裁判上ノ代理人之ヲ爲ス

抵當ノ登記ハ總理代理人及ヒ法律上又ハ合意上ノ抵當ノ附著シタ
ル行爲ヲ爲ス委任ヲ受ケタル部理代理人ノ權利及ヒ義務ニ屬ス
又登記ハ債權者ノ委任ナシテ事務管理者之ヲ爲スコトヲ得

第二百十六條 婦ノ法律上ノ抵當ハ夫カ婦ニ對シ契約其他ノ方法ニ

テ條件附ナルト否トヲ問ハズ債務者ト爲リタル時ヨリ夫又ハ裁判
所ノ許可ヲ要セズ婦ノ請求ニ因リテ之ヲ登記スルコトヲ得
又其登記ハ婦ノ適當ト思考スル不動産ノ全部又ハ一分ニ付キ之ヲ

爲スコトヲ得但第二百二十六條ニ記載スル如ク夫ノ有スル抵當減
少ノ權利ヲ妨ケス

婦カ登記ヲ爲ササルトキハ夫ハ婦ノ擔保ノ爲メ十分ナル不動産ニ
付キ其登記ヲ爲スコトヲ要ス婦又ハ夫カ登記ヲ爲ササルトキハ縱
令委任ナキモ婦ノ親族又ハ姻族ニテ之ヲ爲スコトヲ得但婦ノ故障
又ハ拋棄ナキコトヲ要ス

第二百十七條 未成年者ノ法律上ノ抵當ハ夫カ婦ノ法律上ノ抵當ヲ
登記スルト同一ノ場合ニ於テ同一ノ條件ニ從ヒ後見人之ヲ登記ス
ルコトヲ要ス

後見人登記ヲ爲ササルトキハ後見監督人又ハ親族會員其登記ヲ爲
スコトヲ要ス若シ之ヲ爲ササルトキハ未成年者ニ對シ連帶シテ損
害賠償ヲ負擔ス

未成年者モ亦自治産者ト爲リタル後ハ其登記ヲ求ムルコトヲ得
第二百十八條 前條第一項及ヒ第二項ノ規定ハ禁治産者ノ法律上ノ
抵當ニ之ヲ適用ス

處刑言渡ニ因レル禁治産ノ場合ニ於テハ禁治産者ノ特別ノ代理人
ニテモ登記ヲ求ムルコトヲ得

第二百十九條 債權者ノ相續人又ハ讓受人ハ原債權者ノミノ名ヲ以
テ或ハ自己ト原債權者トノ連名ヲ以テ登記ヲ求ムルコトヲ得
債權者ノ代理人又ハ事務管理者ヨリ登記ヲ求ムルトキハ其名及ヒ
分限ヲ本人ノ名及ヒ分限ト共ニ記載ス可シ

第二百二十條 債權者カ死亡シタルトキハ登記ハ債權者ノ選擇ニ因
リテ其債務者ニ對シ又ハ其相續人ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得
○民法○債權擔保編

第三者ノ設定シタル抵當ニ關シテハ設定者ニ對シテ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第二百二十一條 法律上、合意上又ハ遺言上ノ抵當ノ登記ハ三十年間其効力ヲ有ス三十年後ハ債權ノ時効カ中斷又ハ停止ニ係リタルトキト雖モ其登記ノ効力ヲ失フ

右抵當ノ時効ハ無能力者ニ對シテ停止セズ但其代人ニ對スル求償ヲ妨ケス

然レモ三十年ノ期間滿了前ニ登記ヲ更新シ舊登記ノ日附ヲ精確ニ記載シタルトキハ抵當ノ順位ハ舊登記ト同一ノ日附ニテ存ス登記ノ効力ヲ失ヒシ後ノ更新ハ新登記ニ同シク其更新ノ日附ニ於テノミ効力ヲ生ス

第二百二十二條 三十年ノ期間ニ於ケル登記ノ更新ハ舊登記後ニ起リタル債務者ノ破産、無資力又ハ死亡ニ拘ハラヌ之ヲ爲スコトヲ得

第二百二十三條 登記ニ關スル爭ハ抵當財産所在地ノ裁判所ニ之ヲ訴フ可シ

第二款 登記ノ抹消、減少及ヒ正誤

第二百二十四條

登記ノ抹消ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ爲ス

第一 債權カ無効ナリ若クハ銷除ス可キモノタルトキ又ハ其全部ノ消滅シタルトキ

第二 抵當カ有效ニ設セラレサルトキ

右ハ第二百三十條ニ記載シタル如ク或ル不動産ニ付テノ登記ヲ抹消スルコトヲ妨ケス

第二百二十五條 登記ノ抹消ハ債務者又ハ其承繼人ノ請求ニ因リテ之ヲ宣告スルコトヲ要ス但下ニ規定シタル方式ニ於テ債權者ヨリ抹消ヲ許シタルトキハ此限ニ在ラス

第二百二十六條 婦ノ法律上ノ抵當チ或ル不動産ニ制限セサル場合ニ於テ其債權ノ擔保ニ必要ナルヨリ多キ不動産ニ付キ登記アリタルトキ又ハ婚姻契約若クハ配偶者間ノ特別合意ニ因リテ婦ノ債權額ヲ評價セサル場合ニ於テ其債權ノ正當ナル評價ヨリ更ニ多キ金額ノ爲メニ登記アリタルトキハ夫又ハ其承繼人ハ不動産又ハ金額ニ關シ裁判上ニテ此登記ノ減少ヲ請求スルコトヲ得

第二百二十七條 右ニ同シク後見人又ハ其承繼人ハ未成年者又ハ禁治產者ノ擔保ニ必要ナルモノノ外ニ爲シタル登記ノ減少ヲ請求ス

○民法○債權擔保編

ルコトヲ得但親族會議ノ決議ニ因リテ抵當ヲ或ル不動産ニ制限セ
ス又ハ債權額ヲ評價セサルトキニ限ル

第二百二十八條 合意上ノ抵當ハ債務者ノ現在ノ總財産ニ關シ過度
ナルトキニ非サレハ第二百七條ニ記載シタル如ク債務者其減少ヲ
請求スルコトヲ得ス

債務者ハ債權者ノ登記シタル債權ノ評價ノ減少ヲ請求スルコトヲ
得但設定證書又ハ別證書ヲ以テ評價ヲ爲サ、ルトキニ限ル

第二百二十九條 遺言上ノ抵當ハ相續ノ不動産ニ付キ遺言者其制限
ヲ爲サス又ハ債權ヲ評價セスシテ之ヲ設定シタルトキハ相續人其
減少ヲ請求スルコトヲ得

第二百三十條 債務カ半額以上消滅シタルトキハ債權者ハ債務者ノ
要求ニ因リ三種ノ抵當ニ付キ金額ノミノ登記ヲ減少ス可シ
債務者ハ一分ノ辨濟ヲ爲シタルトキハ常ニ自費ニテ登記ニ之ヲ附
記スルコトヲ得

第二百三十一條 債務者ノ請求ヲ正當トスル判決ニハ抵當ヲ免カレ
タル不動産又ハ評價ヲ改メタル金額ヲ指示ス
右第一ノ場合ニ於テハ抵當ノ登記ヲ抹消シ第二ノ場合ニ於テハ之

ヲ減少ス

第二百三十二條 前數條ニ從ヒ或ル不動産ニ抵當ノ登記ヲ減少シタ
ル場合ニ於テ其不動産カ債權者ノ擔保ニ不十分ト爲リタルトキハ
意外ノ事又ハ不可抗力ニ因ルト雖モ債權者ハ抵當ノ補充ヲ請求ス
ルコトヲ得

第二百三十三條 登記ノ抹消又ハ減少ハ確定判決ニ依ルニ非サレハ
之ヲ爲スコトヲ得ス又證書ヲ以テスルニ非サレハ債權者之ヲ承諾
スルコトヲ得ス

第二百三十四條 任意ノ抹消又ハ減少カ債務ノ消滅ニ基クトキハ其
抹消又ハ減少ヲ承諾スルニハ債權者其債務ノ辨濟ヲ受ケ又ハ之ヲ
追認スル能力ヲ有スルヲ以テ足レリトス

抹消カ右ノ外第二百二十四條ニ記載シタル原因ノ一ニ基クトキハ
債權者和解スルノ能力ヲ有スルコトヲ要ス

又抹消又ハ減少カ抵當ヲ無償ニテ拋棄スル性質ヲ有スルトキハ債
權者無償ニテ債權ヲ處分スル能力ヲ有スルコトヲ要ス

第二百三十五條 登記ノ抹消又ハ減少ヲ承諾スル爲メノ委任ハ證書
ヲ以テ之ヲ與フルコトヲ要ス

○民法○債權擔保編

然レモ抹消又ハ減少カ債務ノ消滅ニ基クモハ債務者ノ免責ヲ承諾スル權限ヲ有シタル代理人ニ於テ其抹消又ハ減少ヲ承諾スルコトヲ得和解又ハ無償ノ拋棄ニ付テハ委任ハ明示タルコトヲ要ス

第二百三十六條 抹消又ハ減少ヲ爲スニハ其合意又ハ判決ヲ登記ニ附記スルコトヲ要ス

第二百三十七條 抹消若クハ減少ヲ後日ノ判決又ハ債務者トノ合意ニテ銷除若クハ解除シタルトキハ其判決又ハ合意ヲ更ニ登記シ又ハ前登記ニ附記ス此場合ニ於テハ前登記ハ前債權者ノ爲メ其効力ヲ回復ス然レトモ抹消若クハ減少ノ後ニ於テ不動産ニ付キ權利ヲ取得シ抵當ノ復舊ノ公示前ニ其權利ヲ登記シタル第三者ニハ此登記ヲ以テ對抗スルコトヲ得ス

第二百三十八條 登記、更新、抹消又ハ減少ニ訛誤又ハ脱漏アルモ此カ爲メ銷除ヲ爲スニ足ラサルトキハ當事者ノ協議又ハ判決ヲ以テ正誤ヲ爲ス

第四節 債權者間ノ抵當ノ效力及ヒ順位

第二百三十九條 凡ソ不動産ニ付キ登記シタル抵當債權者ハ無特權債權者ニ先クテ其不動産ノ代價ノ配當ニ加入スルコトヲ得

法律上、合意上又ハ遺言上ノ抵當ヲ有スル數人ノ債權者間ニ於テハ其配當加入ノ順位ハ數箇ノ登記ヲ同日ニ爲シタルトキト雖モ其登記ノ前後ニ因リテ之ヲ定ム

第二百四十條 登記ハ掲載シタル利息及ヒ定期ノ附從物ニ其經過シタル最後ノ二個年分ニ限り主タル債權ト同一ノ順位ヲ得セシム但二個年以外ノ利息及ヒ附從物ノ爲メ債權者ノ日後登記ヲ爲スノ權利ヲ妨ケス然レトモ此登記ハ其日附後ニ非サレハ効力ヲ生セス

第二百四十一條 抵當ノ順位ハ債權カ條件附ナルトキ又ハ信用ヲ關キテ爲メ貸付ノ如ク漸次ノ支拂ヨリ生スルトキト雖モ亦登記ニ因リテ之ヲ定ム

第二百四十二條 債權者カ數箇ノ不動産ニ付キ抵當ヲ有シ其各箇ノ代價カ同時ニ清算アリシトキハ其債權ハ總不動産ノ價額ノ割合ニ應シテ之ヲ分配ス可シ

漸次ノ清算ノ場合ニ於テ右ノ債權者カ不動産中ノ一箇ノ代價ニ因リテ全ク辨濟ヲ受ケ此一箇ノ不動産ニ付キ其債權者ノ次ニ抵當ヲ有スル一人又ハ數人ノ債權者カ爲メニ辨濟ヲ受クルコトヲ得サルトキハ其一人又ハ數人ノ債權者ハ他ノ不動産ニ付テハ其相互ノ順

位ヲ以テ右辨濟ヲ受ケタル債權者ノ抵當ニ當然代位ス

第二百四十三條 前條ノ代位ハ原債權者ニ次テ右各不動産ニ付キ登

記ヲ爲シタル債權者ニ對シテ其效ヲ生ス

右ノ代位者カ登記ニ其代位ヲ附記シタルトキハ其代位者ヲ順序配
當手續中ニ加ハラシムルコトヲ要シ且其承諾アルニ非サレハ何等
ノ抹消又ハ減少ヲモ爲スコトヲ得ス

第二百四十四條 凡ソ債權ヲ處分スル能力アル抵當債權者ハ同一債

務者ノ他ノ債權者ノ利益ニ於テ自己ノ抵當又ハ其順位ノミヲ拋棄

スルコトヲ得但財産編第五百條及ヒ第五百三條ニ於テ更改ニ關シ

規定シタルモノヲ妨ケス

若シ抵當債權ヲ數次ニ數人ニ對シ讓渡、拋棄又ハ代位ノ目的ト爲

セシトキハ優先權ハ承繼人中登記ニ自己ノ權利ノ設定權原ヲ附記

シ又ハ登記ノ有ラザリシトキハ之ヲ爲シテ其取得ヲ第一ニ公示シ

タル者ニ屬ス

第二百四十五條 右ノ外第百八十五條ノ規定ハ前二條ノ場合ニ之ヲ

適用ス

第二百四十六條 抵當債權者又ハ無特權債權者ハ他ノ抵當ノ登記ナ

キヲ知リタルコトヲ自認スト雖モ登記ノ欠缺ヲ申立ツル權利ヲ失
ハス

第二百四十七條 不動産ノ賣却代價ヲ以テ全部ノ辨濟ヲ受ケサル抵

當債權者ハ其殘額ニ付テハ無特權債權者タリ

若シ不動産ノ賣却ニ先ダテテ動産有價物ノ抵當ヲ爲スルハ抵當債

權者ハ其債權全額ノ爲メ無特權債權者トシテ假ニ其配當ニ加入ス

其後ニ至リ抵當不動産ノ代價ノ配當アルトキハ抵當債權者ハ動産

有價物ニ付キ何等ノ辨濟ヲモ受ケザリシカ如ク其配當ニ加入ス然

レトモ此配當ニ於テ全ク辨濟ヲ受ク可キ者ハ動産ノ配當ニテ受取

リタル金額ヲ控除スルニ非サレハ其抵當ノ配當額ヲ受取ルコトヲ

得ス其控除シタル金額ハ動産財團中ニ之ヲ返還ス

不動産ノ代價ノ配當ニ於テ一分ノミノ辨濟ヲ受クルコトヲ得ヘキ

者ニ付テハ其殘額ニ從ヒ其動産財團ニ對スル權利ヲ定ム但此割合

外ニ受取リタルモノハ之ヲ動産財團中ニ返還ス

右ノ返還金額ハ純粹ノ無特權債權者ト有益ニ配當ニ加入スルヲ得

サル抵當債權者及ヒ債權ノ一分ノミニ付キ之ニ加入シタル抵當債

權者トノ間ニ於テ更ニ之ヲ配當ス

○民法○債權擔保編

第五節 第三所持者ニ對スル抵當ノ效力

總則

第二百四十八條 抵當不動産カ讓渡サレ又ハ用益權其他ノ物權ヲ負擔シタルトキハ其權原ノ登記前ニ登記ヲ爲シタル抵當債權者ハ第三取得者ニ對シ債務ノ辨濟ヲ請求スル權利ヲ保有シ又此不動産ノ賣却代價ヲ以テ辨濟ヲ受ル爲メ其不動産ノ徵收ヲ訴追スル權利ヲ附隨ニテ保有ス

然レトモ財産編第百十九條及ヒ第百二十條ニ規定シタル期間ヲ以テ爲シ又ハ更新シタル貸借ハ抵當債權者之ヲ遵守スルコトヲ要ス

第二百四十九條 所有權ノ支分權ヲ抵當ト爲シタル場合ニ於テ債務者其權利ヲ拋棄シタルトキハ其拋棄ノ登記前ニ抵當登記ヲ爲シタル債權者ハ其拋棄ニ拘ハラヌ追及權ヲ保有ス

第二百五十條 公正證書ヲ以テ設定シタル抵當ハ其不動産ヲ差押ヘ之ヲ賣却セシメタル無特權債權者ニハ競落ノ登記前ニ其抵當登記ヲ爲シタルトキハ之ヲ以テ對抗スルコトヲ得但第百十四條ニ掲ケタル場合ニ於テ爲セル登記ノ無効タルコトヲ妨ケス

第二百五十一條 第三所持者ノ破産又ハ無資力ハ其取得ノ登記アルマテハ抵當登記ノ妨碍ト爲ラヌ

第二百五十二條 第三所持者ハ場合ニ從ヒテ左ノ方法ニ依ルコトヲ得

第一 抵當債務ヲ辨濟スルコト

第二 滌除スルコト

第三 財産檢索ノ抗辯ヲ以テ對抗スルコト

第四 不動産ヲ委棄スルコト

第五 所有權徵收ヲ受クルコト

第一款 抵當債務ノ辨濟

第二百五十三條 第三所持者ハ抵當債務ノ滿期ト爲ルニ從ヒ之ヲ辨濟スルニ於テハ所有權徵收又ハ妨碍ヲ受クルコト無シ

第二百五十四條 第三所持者ハ債務ノ全部又ハ一分ヲ辨濟シタルト

キハ財産編第四百八十二條第一號、第四百八十三條第四號及ヒ第五號ニ從ヒ其辨濟ヲ得タル債權者ニ屬スル他ノ抵當、擔保及ヒ利益ニ代位ス

又第三所持者ハ其辨濟ヲ得サリシ債權者ヨリ所有權徵收ノ訴追ヲ

○民法の債權擔保編

受クルコト有ル可キ場合ノ爲メ其所持セル不動産ノ負擔スル抵當ニ付キ辨濟ヲ得タル債權者ニ未定ニテ代位ス

四百六

第二款 滌除

第二百五十五條 第三所持者ハ登記シタル總テノ抵當債務ヲ辨濟セサルモ債權者ニ其登記ノ順序ニ從ヒ不動産ノ取得代價、其評價若クハ之ニ超ユル金額ヲ拂渡シ又ハ債權者ノ爲メニ之ヲ供託シテ不動産ノ負擔ヲ免カレシムルコトヲ得但下ニ規定セル如キ提供及ヒ滌除ノ手續ヲ爲シタル後債權者ノ明示又ハ黙示ノ承諾アリタルコトヲ要ス

第二百五十六條 停止條件附ニテ不動産ヲ取得シタル者ハ條件ノ成就ニ因リテ其權利ノ定マラサル間ハ滌除スルコトヲ得ス
解除條件附ニテ取得シタル者ハ條件ノ到來セサルニ因リテ其權利ノ定マル前ト雖モ滌除スルコトヲ得
此場合ニ於テ第三所持者ノ提供カ承諾セラレタルモ其金額ハ抵當債務ヲ全ク辨濟スルニ足ラスシテ其抵當ヲ抹消シタル後第三所持者ノ取得カ條件ノ到來ニ因リテ解除スルニ於テハ抹消ヲ受ケタル抵當債權者ノ登記ハ第二百三十七條ニ從ヒテ之ヲ回復ス

又右ノ場合ニ於テ提供カ承諾セラレヌシテ下ニ規定セル如ク不動産ヲ競賣ニ付シタルトキハ競落ハ第三所持者ノ爲メ宣告アリタルト其他ノ者ノ爲メ宣告アリタルトキ問ハス以後解除條件ヲ免カレシム

第二百五十七條 抵當ヲ滌除スル權利ハ主タル債務者ト爲リ又ハ保證人ト爲リテ自身ニテ抵當債務ノ責ニ任スル第三所持者ニ屬セヌ又右ノ權利ハ他人ノ債務ノ爲メ自己ノ財産ヲ抵當ト爲シタル者ニ屬セヌ

第二百五十八條 抵當債權者ヲ參加セシメタル總テノ競賣ニ付テハ滌除ヲ爲スノ限ニ在ラス
公用徴收ニ付テモ亦同シ
右ハ抵當債權者ノ其順位ヲ以テ競落代價又ハ徴收償金ノ配當ニ加入スル權利ヲ妨ケヌ

第二百五十九條 賃借權、使用權、住居權及ヒ地役權ハ滌除ヲ爲スノ限ニ在ラス
此等ノ權利ヲ抵當前ニ設定シタルトキハ其附着ノ儘ニ非サレハ不動産ヲ賣却スルコトヲ得ヌ

○民法○債權辨濟編

抵當後ニ此等ノ權利ヲ設定シタルトキハ之ヲ斟酌セテ不動産ノ賣却ヲ訴追スルコトヲ得

然レトモ此末ノ場合ニ於テ第三所持者ハ第二百四十八條第二項ニ記載シタル制限ニ從ヒ賃借權ヲ遵守スルコトヲ要ス

第二百六十條 第三所持者ハ債權者ヨリ訴追ヲ受ケサル間ハ何時モテモ滌除スルコトヲ得又辨濟ヲ爲スカ又ハ不動産ヲ委棄スルカノ催告ヲ受ケタル後一ヶ月内ニ滌除スルコトヲ得但此ニ違フトキハ其權ヲ失フ

然レトモ右ノ失權ハ當然生ゼス之ヲ請求スルコトヲ要ス但裁判所ハ第三所持者カ正當ノ障碍アリシコトヲ證シ且債權者カ其遲延ノ爲メニ現實ノ損害ヲ受ケサル可キニ於テハ失權ヲ宣告セサルコトヲ得

又債權者ヨリ第二百六十五條第二號ニ規定シタル一ヶ月ノ期間ニ失權ヲ請求セサルニ於テハ失權ヲ宣告スルコトヲ得ス

第二百六十一條 第三所持者ハ滌除ノ準備トシテ第三者ニ對スル自己ノ權利ヲ固定スル爲メ其取得ヲ登記スルコトヲ要ス
右ノ後第三所持者ハ其不動産ノ負擔セル先取特權又ハ抵當ノ目錄

ヲ登記官吏ニ要求ス

第二百六十二條 上ニ記載シタル一ヶ月ノ期間ニ第三所持者ハ登記シタル各債權者ト第百十九條第百七十八條及ヒ第百七十九條ニ從ヒ登記カ抵當ノ登記ニ同シキ效力ヲ有スル債權者トニ左ノ諸件ヲ告知スルコトヲ要ス

第一 取得證書ノ旨趣、其日附及ヒ登記ノ日附、讓渡人及ヒ取得者ノ氏名、職業、住所、讓受ケタル不動産ノ性質、其所在地、讓渡ノ代價及ヒ其負擔ヲ指示スル要領書但交換、贈與若シハ遺贈ニ因リテ權利ヲ取得シタルトキハ其評價ヲ指示ス可シ

第二 各抵當登記ノ日附、其帳簿ノ葉數、其債權者ノ氏名、住所及ヒ主タル債權トシテ登記シタル金額ヲ明示スル登記表

第三 第三所持者ハ右ノ債權者カ法律ニ從ヒ且一ヶ月ノ期間ニ増價競賣ヲ求メサルニ於テハ滿期、未滿期又ハ條件附ノ債權ヲ區別セテ各債權者ノ抵當登記ノ順序ニ從ヒ之ニ不動産ノ代價、其評價若シハ之ニ超ユル金額ノ辨濟又ハ其債權者ノ爲メニ金額ノ供託ヲ爲サントスルノ陳述

第二百六十三條 抵當ヲ登記シタル債權者ノ中ニ先取特權ヲ有スル

○民法○債權擔保編

讓渡人又ハ分割者アルトキハ前條第三號ニ定メタル陳述ニハ此債權者ヲシテ右一个月ノ期間ニ其解除訴權ヲ行ハント欲スル旨ヲ述ヘシムル爲メノ催告ヲ添フルコトヲ要ス但第百八十一條及ヒ第百八十二條ノ明文ニ因リ法律上ノ抵當ニ變性シタル先取特權ヲ有スル者ニ付テモ亦同シ

第二百六十四條 讓渡證書中ニ抵當ト爲シ及ヒ爲ササル財產アルトキハ取得者ハ抵當財產ノ爲メニ提供ヲ爲スコトヲ得又增價競買ハ此提供ニ基キ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二百六十五條 凡ソ抵當ヲ登記シタル債權者ニシテ上ニ定メタル提供ヲ受諾セサル者ハ左ノ方式、期間及ヒ條件ヲ以テ抵當財產ノ競買ヲ要求スルコトヲ要ス

第一 其要求ニハ提供金額ノ上少ナクモ十分一ノ增價ニテ買受ルルコトト其増額シタル代價ノ全部及ヒ費用ノ爲メ十分ナル保證人又ハ擔保ヲ供スル旨ノ陳述トヲ添フルコトヲ要ス
若シ此ニ違フトキハ其要求ハ無効ナリ但此場合ニ於テハ總テノ正本ニ要求者又ハ其特別代理人ノ署名アルコトヲ要ス
第二 右ノ要求ハ提供告知ヨリ一个月内ニ第三所持者ニ之ヲ送

達スルコトヲ要ス若シ此ニ違フトキハ其要求ハ亦無効ナリ

第三 右ノ期間ニ於テ債務者タルト否トヲ問ハズ前所有者ニ右ニ同シキ送達ヲ爲スコトヲ要ス

第四 主タル債務者ニ非サル者カ抵當ヲ設定シタルトキモ亦同一ノ期間ニ於テ其債務者ニ送達ヲ爲スコトヲ要ス

第二百六十六條 讓渡人又ハ分割者ニシテ其解除訴權ノ行使ヲ留保セシテ前條ニ規定シタル如ク增價競買ヲ要求シタル者ハ其訴權ヲ拋棄シタルモノト看做ス

若シ讓渡人又ハ分割者カ右ノ訴權ヲ保存セント欲スルトキハ增價競買ノ爲メ許與セラレタル期間ト同一ノ期間ニ第三所持者ニ其旨ヲ告知スルコトヲ要ス若シ此ニ違フトキハ無効ナリ但主タル債務者ナル前所有者ニ對シテ此ニ同シキ告知ヲ爲スコトヲ妨ケス

第二百六十七條 定マリタル方式及ヒ期間ヲ以テ增價競買ノ告知ヲ爲シタルトキハ其競買ノ要求者ハ抵當ノ登記ヲ爲シタル他ノ債權者ノ承諾ナクシテ競買ヲ言消スコトヲ得ス其債權者ハ此增價競買ノ實行ヲ要求スルコトヲ得

若シ競買ノ實行アリタルトキハ第二百七十八條以下ヲ適用ス

○民法○債權保編

第二百六十八條 孰レノ債權者ヨリモ有効ニ競賣ヲ求メサリシトキハ不動産ノ滌除ハ債權者間ノ熟議上若クハ裁判上ノ順序配當ニ依ル辨濟ヲ以テ又ハ債權者ノ名ニ於テスル供託ヲ以テ不動産ヲ滌除ス但此供託ニ付テハ豫メ實物提供ヲ爲スコトヲ要セス
此場合ニ於テ總テノ抵當ハ之ヲ抹消ス其元資ノ不足シタルモノト雖モ亦同シ

第二百六十九條 右ノ如ク滌除ヲ實行シタル後第三所持者ハ左ノ區別ニ從ヒ其讓渡人ニ對シテ擔保ノ求償權ヲ有ス

第一 賣買ノ場合ニ於テハ其賣買代價外ニ提供シ及ヒ辨濟シタルモノノ爲メ

第二 交換其他ノ有償契約ノ場合ニ於テハ讓渡人ニ對スル自己ノ義務外ニ辨濟シタルモノノ爲メ但自己ノ供給シタル對價物ノ返還ヲ受ケサルトキニ限ル

第三 贈與又ハ遺贈ノ場合ニ於テハ贈與者又ハ遺言者ノ免責ニ付キ辨濟シタルモノノ爲メ

第四 總テノ場合ニ於テ自己ノ負擔シタル滌除手續ノ費用ノ爲メ

第三款 財産檢索ノ抗辯

第二百七十條 主トシテ抵當債務ノ責ニ任セサル第三所持者ハ訴追債權者ニ對シ同一債務ノ爲メニ抵當ト爲リタル他ノ不動産ヲ豫メ檢索シテ之ヲ賣却セシメント求ムルコトヲ得但此カ爲メニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一 其不動産カ義務ヲ履行ス可キ場所ノ控訴院ノ管轄内ニ在ルコト

第二 其不動産カ猶ホ主タル債務者ニ屬スルコト

第三 其不動産カ争ニ係ラサルコト

第四 其不動産カ債權者ノ登記ノ順位ト其價額トヲ斟酌シテ之ニ全部ノ辨濟ヲ得セシムルニ不十分ナルコトノ明白ナラサルコト

右ノ抗辯ハ訴追ノ起初ニ之ヲ提出スルコトヲ要ス

第二百七十一條 第三所持者ハ第二十條乃至第二十三條ニ從ヒ保證人ノ分限ヲ以テ已レニ屬スル檢索ノ利益ヲ拋棄シタルトキト雖モ抵當財産檢索ノ抗辯ノ利益ヲ失ハス

第二百七十二條 他人ノ債務ノ爲メ自己ノ不動産ヲ抵當ト爲シタル

○民法○債權擔保編

者ハ檢索ノ抗辯ヲ以テ對抗スルコトヲ得
連合債務者ノ中ニテ訴追前ニ債務ニ於ケル自己ノ部分ヲ辨濟シタ
ル者ニ付テモ亦同シ

第四款 委棄

第二百七十三條 第三所持者ハ所有權徵收ノ手續中何時ニテモ訴追
ノ目的タル不動産ヲ委棄スルコトヲ得其委棄ニ因リ第三所持者ハ
訴追債權者ニ所持ノミヲ委付シ不動産ノ所有權ト其法定ノ占有ト
ヲ保存シテ其危險ヲ擔任ス

第二百七十四條 主タル債務者又ハ保證人トシテ自身ニ債務ヲ負擔
シタルモノニ非サル第三所持者ノミ委棄ヲ爲スコトヲ得
連合債務者ノ中ニテ債務ニ於ケル自己ノ部分ヲ辨濟シタル者及ヒ

供物保證人ハ訴追中ト雖モ委棄ヲ爲スコトヲ得
第二百七十五條 有効ニ委棄ヲ爲スニハ自身ナルト代人ノ資格ナル
トヲ問ハス所有權徵收ノ訴追ニ被告トシテ出頭スル能力ヲ有スル
ヲ以テ足レリトス

第二百七十六條 委棄ハ委棄者又ハ其部理代理人抵當財産所在地ノ
裁判所ノ書記課ニ於テ之ヲ陳述シ其陳述書ニ署名シテ訴追債權者

ニ告知スルコトヲ要ス

裁判所ハ訴追債權者又ハ第三所持者其他ノ利害關係人ノ請求ニ因
リテ委棄ニ付テノ管財人ヲ選任ス但所有權徵收ノ訴追ハ此管財人
ニ對シテ繼續ス

第二百七十七條 第三所持者又ハ其代人ハ競落アルマテハ何時ニテ
モ委棄ヲ爲シタルト同一ノ方式ヲ以テ其委棄ヲ言消スコトヲ得此
場合ニ於テハ訴追債權者ニ對スル總債務ト其時マテノ費用トヲ一
个月内ニ辨濟シ又ハ供託スルコトヲ要ス但他ノ債權者ノ訴追ノ權
利ヲ妨ゲヌ又滌除ノ期間カ經過セサルニ於テハ其債權者ニ對スル
滌除ノ權利ヲモ妨ケヌ

第五款 競買及ヒ所有權徵收

第二百七十八條 第三所持者カ辨濟ヲ爲サス委棄ヲ爲サス又滌除ヲ
提出セサルトキハ抵當債權者ハ民事訴訟法ニ規定シタル方式ト公
示トヲ以テ不動産ヲ競買ニ付ス
滌除ノ目的ニテ爲シタル提供ノ受諾ヲ得サル場合ニ於テ增價競買
ノ請求アリタルトキモ亦同シ

第二百七十九條 讓渡人又ハ分割者カ第二百六十六條ノ明文ニ從ヒ

○民法○債權擔保編

其先取特權又ハ法律上ノ抵當權ヲ闕キテ其解除訴權ヲ行ハント欲
スル旨ヲ陳述シタルトキハ競賣前ニ其訴ヲ爲スコトヲ要ス
但第三所持者ノ請求ニ因リテ裁判所カ此事ニ付キ定メタル期間ヲ
超ユルコトヲ得ス

第二百八十條 總テノ場合ニ於テ解除ノ請求ナク又ハ其認許ナキト
キハ第三所持者ハ競賣ノ際競買人ト爲ルコトヲ得

第三所持者ノ利益ニ於テ競落ヲ宣告シタルトキハ其判決ハ原證書
確認ノ證據トシテ其原證書ニ依ル登記ニ之ヲ附記スルノミ

第二百八十一條 第三所持者ニ非サル者ノ利益ニ於テ競落ヲ宣告シ
タルトキハ其判決ハ所有權移轉ノ證據トシテ特ニ之ヲ登記シ且前
登記ニ之ヲ附記ス

第二百八十二條 前條ノ場合ニ於テハ競落ノ不動產ト第三所持者ニ
屬スル他ノ不動產トノ間ニ存在セシ地役權ハ一旦混同シタルモ動
方及ヒ受方ニテ再生シ其混同ハ解除セラル

第三所持者ニ其取得前ヨリ屬セシ用益權、賃借權、其他ノ所有權ノ
支分ニ付テモ亦同シ

第二百八十三條 競落ノ孰レノ場合ニ於テモ第三所持者カ競落ノ不

動產ニ付キ登記シタル抵當ヲ有セシトキハ其順位ニテ配當ニ加入
ス

第二百八十四條 各債權者ニ其登記ノ順序ニ從ヒテ競落代價ヲ辨濟
シ尙ホ剩餘アルトキハ其剩餘ハ競落人タルト否トヲ問ハス第三所
持者ニ屬ス

若シ競落前ニ第三所持者ノ債權者カ右ノ不動產ニ付キ抵當ノ登記
ヲ爲シタルトキハ其債權者ハ前所有者ニ對シテ登記シタル債權者
ニ次キ配當ニ加入ス

第二百八十五條 第三所持者カ抵當不動產ノ占有中其所爲ニ因リテ
之ヲ毀損シ又ハ之ニ必要若シハ有益ノ出費ヲ爲シタルトキハ第三
所持者ト抵當債權者トノ間ニ於テ其計算ヲ爲ス

第二百八十六條 第三所持者ハ委棄スルカ又ハ辨濟スルカノ催告ヲ
受ケタル後ニ非サレハ債權者ニ對シテ果實ノ計算ヲ爲スコトヲ要
セス

第二百八十七條 如何ナル場合ニ於テモ競落代價ノ辨濟又ハ其供託
ノ後ハ登記シタル總抵當ハ之ヲ抹消シ不動產ハ滌除セラル其元資
ノ不足シタル抵當モ亦同シ

○民法の債權擔保編

第二百八十八條 競落ノ後第三所持者ハ左ノ如ク讓渡人ニ對シテ擔保ノ求償權ヲ有ス

第三所持者カ競落人ト爲リタルトキハ第二百六十九條ニ記載シタル如ク賠償ヲ受シ

外人ノ利益ニ於テ競落ノ宣告アリタルトキハ第三所持者ハ普通法ニ依リテ追奪擔保ニ付テノ權利ヲ有ス但左ノ區別ニ從フ

第一 賣買其他ノ有償取得ノ場合ニ於テ競落代價カ取得ノ原代價又ハ對價ヲ超過シタルトキハ此差額ハ第三所持者カ權利ヲ有スル損害賠償中ニ増價トシテ之ヲ加フ

第二 贈與又ハ遺贈ノ場合ニ於テハ第三所持者ハ競落カ贈與者若クハ遺言者ノ相續人ナシテ抵當債務ヲ免カレシメタル限度ニ非サレハ贈與者又ハ遺言者ノ相續人ヨリ賠償ヲ受ケス手續ノ費用ハ競落人ヨリ之ヲ第三所持者ニ辨償ス

第六節 登記官吏ノ責任

第二百八十九條 登記官吏ノ民事上ノ責任ニ關スル財産編第三百五十五條ハ抵當登記ノ脱漏又ハ訛誤ニ之ヲ適用ス

第二百九十條 登記官吏カ第三所持者ノ爲メ登記ヲ爲シタル後之ニ

交付シタル認證書中一箇又ハ數箇ノ抵當登記ヲ脱漏シ此脱漏ノ爲メ登記債權者カ脱除ノ提供又ハ競落ノ手續ニ加ハラサリシトキト雖モ猶ホ不動産ノ抵當ハ脱除セラル

第二百九十一條 脱除ノ提供ニ對スル増價競賣ノ爲メ第二百六十五條ニ定メタル期間ノ満了セサル間ハ脱漏セラレタル債權者ハ其脱漏ヲ第三所持者ニ告知シ之ニ提供ノ通示ヲ求メ増價競賣ヲ要求シ又所有權徵收ノ手續カ終了セサルトキハ之ニ加ハルコトヲ得然レトモ此カ爲メ其手續ヲ遅延スルコトヲ得ス

如何ナル場合ニ於テモ右ノ債權者ハ協議上又ハ裁判上ニテ發開シタル順序配當手續ノ閉鎖セサル間ハ之ニ加ハルコトヲ得右ハ前記ノ債權者カ脱漏ニ因リテ損害ヲ受ケタルコトヲ疎明スルニ於テハ登記官吏ニ對スル求償權ヲ妨ケス
登記官吏ハ主タル債務者又ハ其保證人ノ免責ノ爲メ右ノ求償ニ因リテ辨濟シタルモノニ付キ之ニ對シテ求償權ヲ有ス

第七節 抵當ノ消滅

第二百九十二條 抵當ハ左ノ諸件ニ因リテ消滅ス

第一 主タル義務全部ノ確定ノ消滅但更改ノ場合ニ付キ財産編

○民法○債權擔保編

第五百三條ニ記載シタルモノヲ妨ケス

第二 債權者ノ抵當ノ拋棄

第三 時効

第四 滌除但債權者提供ヲ受諾シ且第二百六十八條ニ從ヒテ提供金額ノ辨濟又ハ供託アリタルトキ

第五 競落但第二百五十八條及ヒ第二百八十七條ニ從ヒテ競落代價ノ辨濟又ハ供託アリタルトキ

第六 抵當不動産ノ全部ノ滅失但第二百一一條ニ從ヒテ債權者ノ權利カ其滅失ヨリ生ス可キ賠償ニ移轉スルコトヲ妨ケス

第七 公用徵收但抵當債權者ニ其價金ヲ辨濟スルコトヲ妨ケス

第二百九十三條 義務ノ消滅カ裁判上ニテ認メラレタル原因ニ由リテ取消サレタルトキハ登記ヲ抹消シタリト雖モ抵當ハ其原順位ニ復ス

然レトモ其抵當ハ抹消ノ後新登記ヲ爲ス前又ハ登記ヲ復シタル判決ヲ原登記ニ附記スル前ニ登記ヲ爲シタル債權者ヲ害スルコトヲ得ス

第二百九十四條 抵當ノ拋棄ハ場合ニ從ヒ有償又ハ無償ニテ債權者

處分スル能力ヲ有スル債權者ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

債權者其抵當順位ノミノ拋棄ヲ爲ストキモ亦同シ

抵當又ハ順位ノ拋棄ハ默示タルコトヲ得

債權者カ讓渡人ト共ニ抵當不動産ノ讓渡ニ參加シタルトキハ追及

權ノミニ關シテ其抵當ヲ拋棄シタリト看做ス但法律上特別ニ其參加

加ヲ要スル場合ハ此限ニ在ラス

第二百九十五條 抵當ノ時効ハ不動産カ債務者ノ資産中ニ存スル場

合ニ於テハ債權ノ時効ト同時ニ非サレハ成就セス

右ノ場合ニ於テ債權ニ關シ時効ノ進行ヲ中斷スル行爲及ヒ之ヲ停止

スル原因ハ抵當ニ關シテ同一ノ效力ヲ生ス

第二百九十六條 抵當不動産ノ所有者タル債務者カ其不動産ヲ讓渡

シテ取得者又ハ其承繼人カ之ヲ占有スルトキハ登記シタル抵當ハ

抵當上ノ訴訟ヨリ生スル妨礙ナキニ於テハ取得者カ其取得ヲ登記

シタル日ヨリ起算シ三十年ノ時効ニ因リテノミ消滅ス但債權カ

免責時効ニ因リテ其前ニ消滅ス可キ場合ヲ妨ケス

第二百九十七條 眞ノ所有者ニ非サル者カ不動産ヲ讓渡シタルトキ

ハ占有者ハ其善意ナルト惡意ナルトニ從ヒ所有者ニ對シテ時効ヲ

○民法○債權擔保編

得ル爲メニ必要ナル時間ノ經過ニ因リ抵當債權者ニ對シテ時効ヲ取得ス

無權原ニテ不動産ヲ占有スル者ニ付テモ亦同シ

第二百九十八條 第三所持者ノ爲メノ抵當消滅ノ時効ハ登記ノ更新ニ因リテ中斷セラレス然レトモ其時効ハ占有者ノ任意ニテ爲シタル抵當ノ追認及ヒ第二百六十條ニ規定シタル如ク其占有者ニ爲シタル催告ニ因リ其他證據編第九條以下ニ規定シタル如ク總テ抵當權ニ効力ヲ與フル行爲ニ因リテノ中斷セラル

右ノ時効ハ債權ニ附著スル期限又ハ條件ニ因リテ停止セラレス但債權者ハ證據編第二百二十八條ニ規定シタル如ク其權利ヲ保存スルコトヲ得

此他證據編第三百三十一條乃至第三百三十六條ニ規定シタル停止ノ原因ハ抵當ニ之ヲ適用ス

民法

證據編

第一部 證據

總則

第一條 有的又ハ無的ノ事實ヨリ利益ヲ得ンカ爲メ裁判上ニテ之ヲ主張スル者ハ其事實ヲ證スル責アリ

相手方ハ亦自己ニ對シテ證セラレタル事實ノ反對ヲ證シ或ハ其實ノ効力ヲ滅却セシムル事實トシテ主張スルモノヲ證スル責アリ

第二條 自己ノ主張ノ全部又ハ一分ヲ法律ニ從ヒテ證セス又ハ判事カ證據ヲ査定スル權ノ自由ナル場合ニ於テ判事ニ此主張ノ心證ヲ洩サシメカリシ原告若クハ被告ハ其證セサリシ点ニ付キ請求又ハ抗辯ニ於テ敗訴ス

第三條 當事者ノ一方ハ或ル事實ノ證據カ將來己レノ爲メニ利益アルトキハ其利益ト證據喪失ノ危險トヲ疏明シテ訴訟ノ起ラサル前ト雖モ其事實ノ證據ヲ舉クルコトヲ裁判上主トシテ請求スルコトヲ得

第四條 下ニ定メタル規則ハ物權、人權及ヒ人ノ身分ニ關スル證據

○民法○證據編

ニ共通ノモノトス但特別ノ規定ヲ妨ケズ
第五條 證據ハ左ノ諸件ヨリ成ル

第一 判事ノ考駁

第二 直接證據

第三 間接證據

第一章 判事ノ考駁

第六條 判事ハ左ノ諸件ニ依リ主張セラレタル事實ノ確實ヲ得タル
トキハ自己ノ考駁ニ依リテ爭ヲ決スルコトヲ得

第一 當事者又ハ其代人ノ申述ノ聽取、係爭物並ニ證書外ノ書類
ノ調査及ヒ法律ノ解釋

第二 臨檢

第三 鑑定

第一節 當事者申述ノ聽取、係爭物並ニ證書外ノ書類ノ調
査及ヒ法律ノ解釋

第七條 當事者ノ自白アル場合ノ外當事者又ハ其代人ノ申述及ヒ説
明ヨリ請求若クハ抗辯ノ證セラレサルコト又ハ尙ホ早キコトノ顯
ハル、ニ於テハ判事ハ其請求若クハ抗辯ヲ棄却シ又ハ他日本案ノ

判決ヲ爲ス可キ旨ヲ言渡ス

右判事ノ心證カ係爭物及ヒ證書外ノ書類ノ調査ヨリ生スルトキモ
亦同シ

第八條 受ケタル損害若クハ失ヒタル利益其他原因ニ爭ナク供給ス
ルキ價額ニ付キ爲ス可キ評價ノミヨリ存スル場合ニ於テ判事ハ
當事者又ハ其代人ノ陳述ヲ聽キ此評價ニ必要ナル元素ヲ得タル
キハ自ラ其評價ヲ爲スコトヲ得

第九條 事實ニ爭ナク法律ノ点ノミヨリ存スルトキハ判事ハ當事者
又ハ其代人ノ陳述ヲ聽キ法律ノ規定ヲ其精神ト明文トニ依リテ解
釋シ且條理ト公道トノ普通原則ニ依リテ之ヲ補完シ自己ノ心證ヲ
取ル

第二節 臨檢

第十條 境界、地役、占有、財産ノ損害及ヒ不動産工事ノ執行ニ關ス
ル爭其他此ニ類似ノ爭ニ付テハ勿論裁判所ニ移送スルコトヲ得サ
ル動産ノ形狀ヲ證スルニ關スルトキト雖モ判事ハ主張セラレタル
事實ヲ直接ニ知ルコトヲ以テ訴訟事件ヲ明カナラシムルニ有益ナ
リト思考スルトキハ或ハ職權ヲ以テ或ハ當事者ノ申立ニ因リテ係

○民法○附編

争物又ハ争ヲ決定ス可キ元素ノ存在スル場所ニ臨檢スルコトヲ得

第三節 鑑定

第十一條 法律ニ於テ鑑定ニ依ル可キ旨ヲ定メタル場合ノ外判事ハ争ノ判決ニ付キ特別ノ知識ヲ要スルトキハ何時ニテモ或ハ職權ヲ以テ或ハ當事者ノ申立ニ因リテ自己ノ考査ヲ助ケシムル爲メ鑑定人ノ報告ヲ爲ス可キ旨ヲ命スルコトヲ得

判事ハ鑑定人總員一致ノ説ト雖モ之ニ從フ義務ナシ

第二章 直接證據

第十二條 左ノ諸件ニ於テハ人ノ證言ヨリ生スル直接ノ証據アリトス

第一 私書

第二 口頭自白

第三 公正證書

第四 證人ノ陳述

第一節 私書

第十三條 私書ノ證據力ハ其私書ノ對抗ヲ受クル當事者ノ之ニ署名シ又ハ捺印シタルト否トニ從ヒテ輕重アリ

第一款 私署證書

第十四條 私署證書ハ之ヲ以テ對抗セラルル者ニ不利ナル事實ノ陳述又ハ追認ヲ記載シ且其署名及ヒ印章又ハ其一アルトキハ署名者捺印者ノ裁判外ノ自白即チ證言ヲ成スモノトス

右同一ノ條件ヲ有スル書狀ハ私署證書ト同一ノ證據力ヲ有ス

第十五條 自己ノ利益ニ於テ私署證書ヲ有スル者カ或ル者ヲ其署名者ナリト主張シ又ハ思考スル場合ニ於テハ争ノ生スル前ト雖モ其署名者ナリト主張セラルル者ハ其手跡、署名及ヒ印章ノ真正ナルコト又ハ其真正ナルコトヲ明確ニ追認シ又ハ否認スルコトヲ得ルノミ

裁判所ヨリ本條ノ規定ノ口諭ヲ受ケタル者否認ヲ爲ササルトキハ裁判所ハ其否認セサルモノニ付テハ之ヲ追認シタリト認定スルコトヲ得

第十六條 印章ニ關シテハ其印章ヲ提示セラレタル者ハ其印章ノ自己ノ印章ニ相違ナキコトヲ追認スルモ押捺ハ自身又ハ自己ノ許諾ニテ之ヲ爲シタルヲ否認スルコトヲ得但總テノ方法ヲ以テ其證據

○民法○證據編

ヲ供ナルコトヲ要ス

此追認證書ヲ與フル前ニ右ノ異議ヲ留メサリシトキハ其後ニ至リ
右ノ抗辯ヲ爲スコトヲ得ス

又其署名又ハ印章ヲ追認シタルトキハ其署名又ハ印章ノ獲ラレシ
手段タル強暴、錯誤又ハ詐欺ヲ最早主張スルコトヲ得ス但強暴カ
既ニ止ミ又ハ錯誤若クハ詐欺既ニ發見シ且此事ニ付キ何等ノ異議
ヲモ留メヌシテ追認ヲ爲シタルトキニ限ル

第十七條 署名者ナリト主張セラレタル者ノ相續人、承繼人又ハ代
人ニ對シテ追認ノ請求アリタルトキハ被告ハ或ハ自己ノ代表スル
者ノ署名若クハ印章ヲ知ラサル旨或ハ其使用ノ不確實ナル旨ヲ陳
述スルニ止マルコトヲ得

右ノ相續人、承繼人又ハ代人ハ印章ノ不正當ナル押捺又ハ承諾ノ
瑕疵ヨリ生スル無効ノ方法ヲ申立ツル權利ヲ失ハス但此事ニ關シ
異議ヲ留ムルコトヲ怠リタルトキト雖モ亦同シ

第十八條 被告ハ異議ヲ留メヌシテ署名又ハ印章ヲ追認シタリト雖
モ後ニ捺印白紙ノ濫用又ハ署名若クハ印章ノ偽造アリタルコトヲ

證スル權利ヲ失ハス

然レトモ右ノ追認アリタルコトヲ知リ其證書ニ依リ善意ニテ約定
シタル第三者ニ證書無効ノ方法トシテ捺印白紙ノ濫用ヲ以テ對抗
スルコトヲ得ス

第十九條 一人又ハ數人ノ證人カ私署證書ニ加署シ又ハ加印シタル
トキハ其證人ヲ手跡驗眞ニ召喚ス

第二十條 手跡、印章又ハ署名ノ驗眞ノ請求ニ關スル方式並ニ期間
及ヒ被告又ハ其代人ノ出席セサルニ因リ此等ノ者ニ於テ印章又ハ
署名ヲ追認シタリト爲スコトヲ得ヘキ場合ハ民事訴訟法ニ於テ之
ヲ定ム

署名者ナリト主張セラレタル者ノ明確ニ否認シ又ハ其相續人若ク
ハ承繼人ノ追認ヲ爲ササル場合ニ於ケル手跡驗眞手續ノ規則ニ付
テモ亦同シ

第二十一條 雙務契約ヲ證スル私署證書ハ反對ノ利益ヲ有スル當事
者間ニ正本二通ヲ作り且之ニ署名又ハ捺印スルコトヲ要ス
又各正本ニハ二通ヲ作りタル旨ヲ附記スルコトヲ要ス
然レトモ當事者ハ一通ノ證書ヲ作ルコトヲ得但其證書中指定シタ

D民法○證據編

ル第三者ニ之ヲ寄託スルコトヲ合意シタルトキニ限ル

右ノ場合ニ於テ第三者ハ各當事者ノ求ニ應シテ其證書ヲ示サ、ル可カラズ但當事者雙方ノ承諾ナクシテ之ヲ交附スルコトヲ得ス

第二十二條 證書ノ調製及ヒ其數ノ附記又ハ證書ノ寄託ハ當事者カ合意ノ組成ヲ繫テシメタル條件ト看做ス

然レトモ前條ニ從ヒテ證書ノ調製アラサリシ契約ノ全額又ハ一分ヲ履行シタル當事者ハ最早條件ノ不履行ヲ申立ツルコトヲ得ス

第二十三條 片務契約ヲ證スル私署證書ニ金錢其他ノ定量物ヲ供與シ辨濟シ又ハ返還スル諾約ヲ包有スル場合ニ於テ債務者カ證書ノ本文ヲ自書セサルトキハ債務者ハ其署名若クハ捺印ノ外尙ホ金額若クハ數量ノ文字ニ捺印スルコトヲ要ス但數人ノ債務者アルトキハ其中ノ一人此捺印ヲ爲スヲ以テ足レリトス

第二十四條 二通ノ正本及ヒ前條ノ方式ハ商事ニ付テハ之ヲ要セス

第二十五條 前數條ノ方式ニ從ヒ調製シタル私署證書ニシテ其對抗ヲ受クル者カ追認シ又ハ裁判上ニテ其者カ追認シタリト爲シタルモノハ其正文及ヒ之ト直接ノ關係ヲ有シ且之ヲ補完スル文言ニ付テハ其者ニ對シテ完全ナル證據トス

此他ノ文言ハ書面ニ因ル證據端緒ノミニ之ヲ用ユルコトヲ得

第三十八條ニ記載シタル自白不可分ナル原則ハ證書ノ各部分ニ之ヲ適用ス

第二十六條 證書カ第十八條ニ規定シタル如ク捺印白紙ノ濫用又ハ偽造ノ攻撃ヲ受ケタルトキハ其證據力ハ刑事裁判所ニ被告ノ送致アルニ因リテ停止セラレ其裁判所ノ判決ノ確定ト爲ルマテ民事ノ判決ヲ中止ス

嫌疑アル人ノ死亡其他ノ原因ニ由リテ刑事審問ノ開カレサリシトキハ民事裁判所ハ刑事不受理ノ理由ニ付キ裁判アルマテ本案ノ判決ヲ中止ス

又刑事審問中ナルトキハ民事裁判所ハ當事者ノ要求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其判決ヲ中止スルコトヲ得

第二款 署名、捺印セサル證書

第二十七條 商人ノ帳簿ハ總テノ人ノ爲メ其商人ニ對シテ證據ヲ爲ス然レトモ其帳簿ヲ撥用スル者ハ此ヨリ生スル自白ヲ分ツコトヲ得ス

此他右帳簿ノ證據力ハ商法ニ於テ之ヲ規定ス

○民部○證據編

四百三十一

第二十八條 非商人ノ帳簿及ヒ覺書ハ其者ノ爲メ證據ヲ爲サス
右ノ帳簿及ヒ覺書ハ其者ニ對シ下ノ區別ニ從ヒテ證據ヲ爲ス
第二十九條 債權者ノ書面ハ左ノ場合ニ於テハ債務者ノ爲メ其債權者ニ對シテ證據ヲ爲ス

第一 債務者ノ辨濟其他ノ免責ヲ明カニ掲クルトキ但債權者ニ於テ債務者ニ交付スル爲メ準備セル受取證書タルコトヲ證スルトキハ此限ニ在ラズ

第二 債務者ノ證書又ハ從來ノ受取證書ニ免責ヲ書込ミ且其書類カ債務者ノ手ニ存スルトキ

第三十條 債務者ノ書面ニ其義務ヲ掲ケ且之ヲ以テ債權者ノ證書ノ用ニ供スルモノタルコトヲ記載スルトキハ其書面ハ債務者ニ對シテ證據ヲ爲ス

第三十一條 前二條ノ場合ニ於テ抹殺シタル書面ハ之ヲ斟酌セス但其抹殺カ詐害又ハ錯誤ニ出テタルコトノ證アルトキハ此限ニ在ラズ

第三十二條 非商人ハ裁判上ニテ帳簿及ヒ覺書ヲ差出タズ義務ナシ然レトモ任意ニテ之ヲ差出タシタルトキハ等ニ關スルモノヲ抄

録シタル後ニ非サレハ之ヲ取戻スコトヲ得ス但抄録ヲ爲スニハ其者ノ出席ノ上又ハ之ヲ合式ニ召喚シタルトキニ限ル

第二節 口頭自白

第三十三條 口頭自白ハ一方ノ當事者カ己レニ不利ナル權利上ノ結果ヲ生スルコト有ル可キ事實ニ付キ爲スモノナリ其自白ハ裁判上ノモノ有リ裁判外ノモノ有リ

第一款 裁判上ノ自白

第三十四條 裁判上ノ自白ハ自發ノモノ有リ又ハ民事訴訟法ニ規定シタル本人訊問ニ因リテ爲スモノ有リ

第三十五條 自白ハ其自白ニ繋ル權利ヲ處分スル能力ヲ有スル者ニ非サレハ有效ニ之ヲ爲スコトヲ得ス但法律上自白ノ證據ヲ禁シタル事實ニ非サルトキニ限ル

代理人ノ爲シタル自白ハ其管理行爲ニ關スル外特別ノ委任ニ依リタルトキニ非サレハ有效ナラス但裁判上ノ代人ノ自白ト其陳述取消ノ方式及ヒ條件トニ關スル民事訴訟法ノ規定ヲ妨ケズ

第三十六條 前條ニ從ヒテ爲シタル自白ヲ相手方ノ受諾シ又ハ之ヲ裁判所ニ於テ認メタルトキハ其自白ハ之ヲ爲シタル者ニ對シテ完

○民法○證據編

全ノ證據ヲ爲ス

然レトモ其自白ハ事實ノ錯誤ノ爲メニ之ヲ言消スコトヲ得

第三十七條 自白ハ法律ノ錯誤ノ爲メ之ヲ言消スコトヲ得ス

然レトモ相手方ノ權利ヲ直接又ハ間接ニ追認シタル者ハ其權利ノ

原因及ヒ存續ヲ爭フ權能ヲ失ハス

第三十八條 複雜ナル自白ヲ援用セント欲スル者ハ陳述セラレタル

數箇ノ事實ニ關シ其自白ヲ分ツコトヲ得ス但此等ノ事實カ相牽連

シタルトキニ限ル

然レトモ主タル事實ヲ變更スル事實ノ主張ハ通常ノ證據方法ヲ以

テ之ヲ駁撃スルコトヲ得

第三十九條 裁判上ノ自白ノ效力ハ裁判所ノ管轄違カ公ノ秩序ニ關

セサルモノタルトキハ其管轄違ニ因リテ無効ト爲ラス

反對ノ場合ニ於テハ自白ハ裁判外ノモノトシテノミ有效ナリ

第四十條 一方ノ當事者カ訴訟事件ノ或ル事實ノ存在ニ付キ陳述ス

可キノ求テ受ケテ其事實ヲ爭ハサルニ因リ之ヲ追認シタリト看做

ス場合ハ民事訴訟法ニ於テ之ヲ規定ス

第四十一條 一方ノ當事者カ癡疾其他ノ原因ニ由リテ語ルコトヲ得

ト雖モ書面又ハ容態ヲ以テ裁判所ニ答フルコトヲ得ルニ於テハ
裁判上ノ自白ノ規則ヲ之ニ適用ス

第二款 裁判外ノ自白

第四十二條 裁判外ノ自白ハ相手方又ハ其代人ノ面前ニ於テ口頭ニ

テ又ハ此等ノ者ニ送付シタル信書若シハ書類ニテ之ヲ爲シタルニ

非サレハ其效ヲ有セス

此末ノ場合ノ外口頭ノ自白ヲ受ケ及ヒ證スル資格ヲ有スル官廳ニ

於テ更ニ其自白ヲ爲ササリシトキハ人證ヲ許ス場合ニ非サレハ證

人ヲ以テ之ヲ證スルコトヲ得ス

第四十三條 裁判上ノ自白ノ有效ナル爲メ要スル能力、其證據力、其

言消及其不可分ニ關スル前數條ノ規定ハ裁判外ノ自白ニ之ヲ適用

ス

然レトモ判事ハ確實ニシテ明白ナル自白ニ非サレハ之レヲ採用ス

ルコトヲ得ス

第四十四條 上ノ規定ハ義務ノ全部又ハ一分ノ履行ヲ法律上ニテ默

示ノ自白ト看做ス可キ場合ヲ妨ケス

第四十五條 裁判外ノ自白ハ有效ニ之ヲ言消シタリト雖モ相手方ノ

○民法○證據編

利益ニ於テ時効ノ中斷ヲ生ス然レトモ自白ノ日以後ニ經過ス可キ時効ハ言消ノ日ヨリ再ヒ行進ス

第三節 公正證書

第四十六條 公正證書ハ公吏カ當事者ヨリ證スルコトヲ託セラレタル事實ニ付テノ證言ナリ

又官廳ノ代人トシテ事ヲ行フ官吏ノ調製シタル證書ハ公正ナリ

證書ハ公吏カ場所、證書ノ性質及ヒ其證書ニ關係スル人ニ付キ管轄ヲ有シ且法律ニ定メタル方式ニ從ヒテ之ヲ作りタルニ非サレハ公正ナラズ

公證人其他當事者ノ囑託ニ應ス可キ公吏ノ管轄及ヒ其證書ノ方式ハ特別法ヲ以テ之ヲ定ム

第四十七條 前條ニ從ヒテ作りタル證書ハ偽造ノ申立アルマテハ公吏自身ニテ文ハ其面前ニシテ爲シタル行爲及ヒ申述ニ付キ其吏員ノ陳述ノ證據ヲ爲ス

此證書ハ之ニ記載シタル日附ニ付キ右同一ノ證據ヲ爲ス

公吏ノ名ニテ作り且其署名及ヒ印章ヲ具ヘタル證書ハ偽造ノ申立アルマテハ其吏員ヨリ出テタルモノト推定ス

偽造申立手續ハ民事訴訟法ニ於テ之ヲ規定ス

第四十八條 公正證書ノ證據力ハ偽造ノ申立ニ因リテ之ヲ停止ス其執行力ニ付テモ亦同シ

主文ト直接又ハ間接ノ關係アル文言ニ關シテハ第二十五條ノ規定ヲ適用ス

第四十九條 證書ニ公正證書トシテ有效ナル爲メ上ニ定メタル條件ノ一ヲ欠クコト有ルモ出捐ヲ爲ス總テノ當事者カ現實ニ之ニ署名シ又ハ捺印シタルトキハ其證書ハ第二十一條及ヒ第二十三條ニ定メタル條件ヲ履行セスト雖モ私署證書トシテ有效ナリ

第四節 反對證書

第五十條 當事者ハ秘密ニ存シ置ク可キ反對證書ヲ以テ公正證書又ハ私署證書ノ效力ノ全部又ハ一分ヲ變更シ又ハ滅却スルコトヲ得然レトモ其反對證書ハ公正證書タルトキト雖モ署名者及ヒ其相續人ニ對スルニ非サレハ效力ヲ有セス

然レトモ當事者ノ債權者及ヒ特定承繼人カ當事者ト約定スルニ當リ反對證書アルヲ知リタルコトヲ證スルニ於テハ之ヲ以テ其債權者及ヒ承繼人ニ對抗スルコトヲ得

○民法○證據編

第五十一條 不動産權利ニ關スル反對證書カ或ハ登記ニ因リ或ハ其附記ニ因リテ公ニ爲サレタルトキハ其反對證書ハ通常證書ノ効力ヲ取得ス但總テ遡及ノ効力ヲ有セス

第五十二條 孰レノ場合ニ於テモ一方ノ當事者ノ總テノ承繼人ハ他ノ當事者及ヒ其相續人ニ反對證書ヲ以テ對抗スルコトヲ得

第五節 追認證書

第五十三條 追認證書ハ當事者ノ一方カ已レニ不利ナル公正又ハ私署ノ原證書ノ成立ヲ追認スル證書ナリ

右ノ證書ハ下ノ二箇ノ場合ヲ除キ原告ヲシテ原證書ヲ差出タス義務ヲ免カレシメス又其證書中ニ原證書ヨリ更ニ多ク又ハ更ニ少キ事項ヲ記シ又ハ之ト異ナリタル事項ヲ記スルモノハ其効ナシ但追認證書中ニ之ヲ原證書ニ代用ス可キ旨ヲ記載シタルトキハ此限ニ在ラス

第五十四條 左ノ二箇ノ場合ニ於テハ追認證書ハ原證書滅失ノ證アルトキ之ニ代ハルモノトス

第一 追認證書ニ原證書ノ事項ヲ再掲シタル旨ヲ記載スルトキ

第二 追認證書ノ日附ヨリ二十年ヲ經過シ且之ヲ援用スル者

カ其證書ノミチ既ニ權利ノ行使ニ用サレトキ

第五十五條 前條ノ場合ノ外原告カ原證書ヲ差出タスコトヲ得サル

トキハ追認證書ハ其利益ニ於テハ書面ニ因ル證據端緒トシテ有效ナリ

總テノ場合ニ於テ追認證書ハ時効ヲ中斷ス

第六節 證書ノ謄本

第五十六條 裁判所又ハ當事者ヨリ正本ノ差出ヲ求ムルニ於テハ證書ノ謄本ハ之ヲ援用スル者ヲシテ其正本ヲ差出タス義務ヲ免カレ

シソス但其者カ正本ノ滅失ヲ證シタルハ此限ニ在ラス

然レトモ公正ノ正本又ハ裁判上追認アリタル私署ノ正本カ原本トシテ公吏ノ許ニ職メラレタル場合ニ於テ裁判所ニ其正本ヲ差出タスコトハ裁判所ノ命令ニ依リ民事訴訟法及ヒ公吏ノ規則ニ從ヒテ之ヲ爲ス

第五十七條 正本ノ滅失シタルトキ其謄本ハ左ノ四箇ノ場合ニ於テ

ハ正本ト同一ノ證據力ヲ有ス

第一 公吏ノ作りシ公正證書ノ正式謄本タルトキ

第二 公正證書ノ謄本又ハ裁判上追認アリ且原本トシテ公吏ノ

民法ニ關スル證據編

證ニ職メタル私署證書ノ謄本ヲ當事者ノ要求ニ因リ其相手方ノ面前ニテ其公吏ノ作りタルトキ

第三 當事者出席ノ上又ハ合式ニ之ヲ召喚シタル上ニテ公吏カ裁判所ノ命ニ依リテ其謄本ヲ作りタルトキ

第四 右三箇ノ場合ノ外適法ニ正本ヲ預リタル公吏ノ作りシ謄本カ異議ヲ受ケヌシテ其日附ヨリ二十个年ヲ經過シ且當事者間ニ於テ主張セラレタル權利ニ關シ裁判上又裁判外ニテ既ニ援用セラレタルトキ

謄本ニハ左ノ諸件ヲ附記スルコトヲ要ス

右第一ノ場合ニ於テハ其謄本ハ正式謄本タルコト

第二ノ場合ニ於テハ當事者ノ面前ニテ作りタルコト

第三ノ場合ニ於テハ裁判所ノ命ニ依リテ作りタルコト

總テノ場合ニ於テ其謄本ヲ正本ト校合シタル旨又ハ其謄本ノ正本ニ符合スル旨ヲ之ニ附記スルコトヲ要ス

第五十八條 前條ニ記載シタル四箇ノ場合ノ外ハ公吏ノ作りタル證書ノ謄本ハ書面ニ因ル證據端緒ノ用ヲ爲スノミ

第五十九條 公吏ノ作りタル謄本ノ復寫ハ人證ヲ許ス可キ場合ニ限

リ單純ナル參考書ノ用ヲ爲スノミ

然レトモ公正證書ノ謄本ヲ登記ノ公簿ニ謄寫シタルトキハ其謄寫ハ書面ニ因ル證據端緒ナリ

裁判上追認アリタル私署證書ノ正本ノ右ニ同シキ謄寫ハ亦書面ニ因ル證據端緒ノ効力ヲ有ス

謄寫カ其日附ヨリ二十个年ヲ經過シ且異議ヲ受ケルコト無ク既ニ行使セラレタルトキハ其謄寫ハ第五十七條第四號ニ從ヒテ完全ノ證據トス

第七節 證人ノ陳述

第六十條 物權又ハ人權ヲ創設シ、移轉シ、變更シ又ハ消滅セシムル性質アル總テノ所爲ニ付テハ其所爲ヨリ各當事者又ハ其一方ノ爲メニ生スル利益カ當時五十圓ノ價額ヲ超過スルトキハ公正證書又ハ私署證書ヲ作ルコトヲ要ス

人證ハ右ノ價額ヲ超過スルニ於テハ法律上明示若クハ默示ニテ例外ト爲シタルトキニ非サレハ裁判所之ヲ受理セズ

第六十一條 雙務契約ニ於ケル證書ノ必要ハ權利ノ最高ナル價額ニ依ル

第六十二條 請求又ハ抗辯ノ目的カ金錢ニ非サル場合ニ於テ相手方カ争ノ價額五十圓ヲ超過スル旨ヲ陳述シテ人證ニ異議ヲ申立ツルトキハ裁判所ハ訴訟ノ元素ニ從ヒ又ハ鑑定ニ從ヒテ豫メ價ノ評價ヲ爲ス

第六十三條 書面ヲ作リタル場合ニ於テハ書面ニ反スル事項若クハ書面外ノ事項ヲ證スル爲メ又ハ書面ノ意義ヲ變更ス可キ様其調製ノ際若クハ其前後ニ申述シタルモノヲ證スル爲メニハ縦令五十圓ヨリ少ナキ利益ニ關スルモ人證ヲ許サス

此禁止ハ辨濟、免除、更改其他ノ義務消滅ノ原因ヲ證スル爲メ又ハ書面ヲ以テ證シタル物權ノ消滅又ハ變更ヲ證スル爲メ上ニ定メタル制限内ニ於ケル人證ヲ妨ケス

總テノ場合ニ於テ主張セラレタル事實ノ日附行ヒ場所又ハ履行ノ爲メ口頭ニテ定メタル時期及ヒ場所ノ脱漏ハ人證ヲ以テ之ヲ補足スルコトヲ得但此事ヨリ生スル利益ヲ主タル利益ニ加ヘテ價額五十圓ヲ超過セサルトキニ限ル

第六十四條 争ノ利益カ五十圓ヲ超過スル場合ニ於テハ原告又ハ被告ハ縦令其以下ノ數額ニ請求又ハ抗辯ヲ減スルモ人證ヲ許サス

五十圓ヲ超過セサル請求又ハ抗辯カ此數額ヲ超過シタル價額ノ殘餘ナルトキ亦同シ

第六十五條 前條ニ規定シタル二箇ノ場合ニ於テ證人訊問ニ因リ五十圓ヲ超過シタル利益ナルコトヲ發見シタルトキハ人證ヲ許シタル裁判所ハ之ヲ取消スコトヲ要ス

此他證人訊問ニ因リ法律上之ヲ許サ、ル事情ヲ發見シタル場合ニ於テモ亦同シ

第六十六條 上ノ規定ハ填補利息、過怠約款又ハ契約ニ從ヒテ返還ヲ受ク可キ果實ノ計算ヲ加フルカ爲メニ五十圓ノ額ヲ超過スル場合ニ於テ原告又ハ被告カ證人ヲ以テ其主タル債權ヲ證スル爲メ此從タル債權ヲ拋棄シ得ル妨ト爲ラズ

右ノ超過カ遅延利息又ハ要約セサル損害賠償又ハ請求後ニ返還ヲ受ク可キ果實ノミヨリ生スルトキハ全部ニ付キ人證ヲ許ス

第六十七條 書面ニ依リ全ク證セラレヌシテ各別ニ人證ノ許サル可キ數箇ノ請求ヲ爲スコトヲ得ヘキ者ハ其原因ノ如何ニ拘ハラヌ一箇ノ訴狀ニ其數箇ノ請求ヲ併合スルコトヲ要ス但其請求カ總テ滿期ノモノニシテ同一裁判所ノ管轄ニ屬スルモノタルトキニ限ル

右ノ手續ヲ爲サ、ルニ於テハ最早其脱漏シタル請求ニ付キ人證ヲ許サス

右ノ規定ハ同一ノ請求ニ對シ數箇ノ抗辯ヲ以テ對抗セント主張スル者ニ之ヲ適用ス

第六十八條 前條ニ記載シタル如ク併合シタル數箇ノ請求又ハ抗辯カ五十圓ノ價額ヲ超過スルトキハ人證ヲ許サス但此請求又ハ抗辯カ相異ナル原因ヨリ生スルトキハ此限ニ在ラズ

第六十九條 左ノ場合ニ於テハ爭ノ價額ノ如何ニ拘ハラズ人證ヲ許ス

第一 書面ニ因ル證據端緒ノ存スルトキ

證據端緒トハ之ヲ以テ對抗セラル、人又ハ其人ヲ代表シタル者ヨリ出テタル總テノ書面ニシテ主張シタル事柄ニ付キ事實タルノ感ヲ起サシムルモノヲ謂フ

主張シタル事柄ノ書面ニ因ル證據端緒アルトキハ書面外ノ事項又ハ書面ニ反スル事項ニ付キ人證ヲ許ス

第二 原告又ハ被告カ不可抗力ニ因リ又ハ自己ノ過失若クハ懈怠ニ歸ス可カラサル意外ノ事ニ因リテ其證書ヲ失ヒタルコト

ヲ證スルトキ

第三 主張シタル事柄ノ有リタル當時利害關係人カ證書ヲ得ル能ハカリシトキ

第七十條 前條第三號ハ殊ニ左ノ場合ニ之ヲ適用ス

第一 財産取得編第二百二十條及ヒ第二百二十一條第一項ニ規定シタル急迫寄託

第二 事變、不期ノ危険又ハ急迫ナル必要ノ場合ニ於テ負擔シタル義務

第三 合意外ノ原因ヲ有スル義務但此場合ニ於テ不當ノ利得、不正ノ損害又ハ法律ノ規定ヨリ生シタリト主張スル義務カ書面ヲ以テ證スヘキ性質ノモノタル權利行爲ヲ推量セシムルトキハ豫メ其證據ヲ供スルコトヲ要ス

第七十一條 法律カ人證ヲ許ス場合ノ外人證ヲ拒ムニ利益ヲ有スル當事者カ人證ニ依リテ證據ヲ舉クルコトヲ承諾スルトキハ裁判所ハ人證ヲ拒絶シ又ハ之ヲ許可スルコトヲ得

七十二條 判事ハ證人ノ證據ニ因リテ拘束セラレズ其心證ニ從ヒテ判決ス

○民法○證據編

第八節 世評

第七十三條 法律上特ニ世評ニ因ル證據ヲ許ス場合ノ外或ル事實カ顯著ナルトキ法律カ其規定ヲ此事實ニ適用ス可キコトヲ定メタル各箇ノ場合ニ於テハ此證據ヲ用ユルコトヲ得
世評ニ因ル證據ニ於テハ證人ハ事實ニ付キ直接ニ自ラ知ラサルモ傳聞ニ因リ又ハ公然顯著ナルニ因リテ知リタル所ノモノヲ陳述スルコトヲ得

第三章 間接證據

第七十四條 間接證據ナル推定ハ法律カ直接證據ナキ場合ニ於テ知レタル事實ヨリ知レサル事實ニ自ラ推及シ又ハ裁判官ノ明識ト思慮トニ委ヌル結果ナリ
右第一ノ推定ヲ法律上ノ推定ト謂ヒ第二ノ推定ヲ事實ノ推定ト謂フ

第一節 法律上ノ推定

第七十五條 法律上ノ推定ニハ其證據力ト其原因トニ從ヒテ左ノ區別アリ

第一 完全ニシテ公益ニ關スルモノ

第二 完全ニシテ私益ニ關スルモノ

第三 輕易ナルモノ

第一款 公益ニ關スル完全ナル法律上ノ推定

第七十六條 公益ニ關スル完全ナル法律上ノ推定ハ法律ノ明示シテ定メタル場合及ヒ方法ニ從フニ非サレハ反對ノ證據ヲ許サズ此推定ハ之ヲ左ニ掲ク

第一 既判力

第二 取得又ハ免責ノ時効

第七十七條

既判力ハ判決主文ニ包含スルモノニ存ス

第七十八條

既判力ハ真正ト推定セラル

然レトモ確定ト爲ラサル判決ハ民事訴訟法ニ定メタル方式及ヒ期間ニ於テ之ヲ攻撃スルコトヲ得

第七十九條

判決ノ確定ト爲リタルトキ同一ノ争ヲ再ヒ訴フルニ於テハ其争ハ下ノ區別ニ從ヒ既判力ニ依リテ之ヲ斥ク

第八十條

判決カ全部又ハ一分ニ付キ公ノ秩序ニ關スルトキハ既判力ニ因ル不受理ノ理由ハ裁判所ノ職權ヲ以テ之ヲ補足スルコトヲ要ス

其他ノ場合ニ於テハ利害關係人ヨリ其不受理ノ理由ヲ以テ對抗スルコトヲ要ス

第八十一條 既判力ニ因ル不受理ノ理由ヲ以テ新請求又ハ新答辯ニ對抗スルコトヲ得ルニハ其請求又ハ答辯カ舊請求又ハ舊答辯ニ比較シテ左ノ諸件アルコトヲ要ス

- 第一 權利又ハ事實ニ關シ争ノ目的ノ同一ナルコト
- 第二 主張ノ原因ノ同一ナルコト
- 第三 原告、被告ノ權利上ノ資格ノ同一ナルコト

第八十二條 新請求又ハ新答辯ノ目的カ數量ニ付テノ舊請求又ハ舊答辯ノ目的ト異ナリタルトキハ新請求又ハ新答辯ノ目的ハ舊請求又ハ舊答辯ニ包含シタルモノト看做ス但舊請求又ハ舊答辯ヲ裁判セシ裁判所カ新請求又ハ新答辯ノ數量ヲ正當トスルニ於テハ之ヲ許與スル權力ヲ有セシトキニ限ル

第八十三條 舊争カ合意又ハ遺言ノ銷除、廢罷又ハ解除ヲ目的トシタルトキハ其争ノ際存在シタルモ當事者ノ知リテ申立テサリシ他ノ同性質ノ原因ハ當事者之ヲ拋棄シタト推定セラレ更ニ之ヲ新争ノ原因トシテ用ユルコトヲ得ス

方式ノ瑕疵アル證書ヲ其瑕疵ノ爲メ無効トスル舊争中ニ申立テサリシ他ノ方式ノ瑕疵ニ付テモ亦同シ

本條ノ適用ニ於テ銷除ノ訴ノ爲メニハ承諾ノ各種ノ瑕疵及ヒ各種ノ無能力ヲ同性質ノ原因ト看做シ又解除ノ訴ノ爲メニハ合意不履行ノ各種ノ場合ヲ同性質ノ原因ト看做ス

第八十四條 當事者カ或ハ自身ニテ同一ノ資格ヲ以テ既ニ舊訴訟ニ出テタルトキ或ハ舊訴訟ニ於テ其前主若クハ代理人ニ因リテ代表セラレタルトキ或ハ利害關係人ノ結合カ暗ニ相互代理タルトキハ當事者ノ權利上ノ資格ハ同一ナリトス

第八十五條 刑事裁判所カ犯罪ノ所爲ノ爲メニ要求セシ民事上ノ賠償ニ付キ判決シタル場合ノ外尙ホ重罪、輕罪又ハ違警罪ノ判決ハ犯罪ニ附著スル民事上ノ利益ニ付キ既判力ヲ有ス但犯罪所爲ノ眞實、其犯罪ノ性質及ヒ被告人ノ罪責ニ付テノ裁判ニ關スルモノニ限ル

第二款 私益ニ關スル完全ナル法律上ノ推定
第八十六條 法律上ノ推定ハ左ノ場合ニ於テ私益ニ關スル完全ノモノナリ

第一 法律カ人ノ身分ニ關スル或ル資格ヲ付與シ又ハ拒絕スルトキ

第二 法律カ或ル所爲ヲ其規定ニ背キタルモノト推定シテ取消ストキ

第三 法律カ制規ノ公示ナキニ因リ第三者ニ知レサルモノト推定シテ或ル權利ノ行使ヲ拒絕スルトキ

此法律上ノ推定ハ法律ノ明示シテ定メタル場合及ヒ方法ニ從フニ非サレハ反對ノ證據ヲ許サス然レトモ和解ヲ許ス場合ニ於テハ此推定ハ口頭自白ヲ以テ何時ニテモ之ヲ覆ヘヌコトヲ得

第三款 輕易ナル法律上ノ推定

第八十七條 上ノ法律ノ推定ニ非サルモノハ輕易ナル法律上ノ推定ナリ此推定ニ付テハ法律カ反對ノ證據ヲ明許セサルトキト雖モ總テ之ヲ許ス

右反對ノ證據ハ前二章ニ規定シタル條件ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ舉グルコトヲ得ス

又輕易ナル法律上ノ推定ハ次條ノ場合ニ於テハ事實ノ推定ヲ以テ之ヲ駁撃スルコトヲ得

第二節 事實ノ推定

第八十八條 法律カ裁判所ニ其裁判ノ元素ヲ訴訟ノ事情ニ付キ採取スルコトヲ許ス特別ナル場合ノ外尙ホ裁判所ハ人證ヲ許ス可キ場合ニ於テハ何等ノ直接ノ證據ヲモ舉ケサルトキト雖モ事情ヨリ生スル心證ニ從ヒテ爭ヲ決スルコトヲ得

第一部 時効

第一章 時効ノ性質及ヒ適用

第八十九條 時効ハ時ノ効力ト法律ニ定メタル其他ノ條件トヲ以テ

スル取得又ハ免責ノ法律上ノ推定ナリ但動産ノ瞬間時効ニ關スル

第四百四十四條以下ノ規定ヲ効ケス

第九十條 正當ナル取得又ハ免責ノ推定ハ完全ニシテ公ノ秩序ニ關スルモノトス此推定ハ第九十六條及ヒ第六十一條ニ規定シタル如ク法律ノ定メタル場合及ヒ方法ニ從フニ非サレハ反對ノ證據ヲ許サス

第九十一條 取得時効ノ効力ハ占有ノ有益ニ始マリタル日ニ遡ル免責時効ノ効力ハ債權者カ其權利ヲ第二百五條以下ニ記載シタル區別ニ從ヒテ行フコトヲ得ヘカリシ日ニ遡ル

○民法○證據編

第九十二條 或ル訴權ノ行使ノ爲メ法律ニ定メタル期間ハ其訴權ノ性質ニ因リテ取得時効又ハ免責時効ノ一般ノ規則ニ從フ但法律カ明示又ハ默示ニテ例外ヲ設ケタル場合ハ此限ニ在ラス

第九十三條 時効ハ總テノ人ヨリ之ヲ援用スルコトヲ得又時効ハ總テノ人ニ對シテ進行ス但法律ニ依リ時効停止ノ利益ヲ受クル人ニ對シテハ此限ニ在ラス

第九十四條 總テ融通物ハ時効ニ罹ルコトヲ得但法律上之ニ異ナル規定ヲ設ケタルモノハ此限ニ在ラス
不融通物及ヒ讓渡スコトヲ得サル物ハ時効ニ罹ルコトヲ得ス
公有ノ財産ハ動産ト雖モ亦同シ

第九十五條 自己ノ財産ニ付キ又ハ他人ニ對シテ行フコトヲ得ル法律上ノ權能ハ幾許ノ期間間之ヲ行ハサルモ爲メニ喪失セズ但法律合意又ハ遺言ニ於テ之ニ異ナル定ヲ設ケタル場合ハ此限ニ在ラス

第九十六條 判事ハ職權ヲ以テ時効ヨリ生スル請求又ハ抗辯ノ方法ヲ補足スルコトヲ得ス時効ハ其條件ノ成就シタルカ爲メ利益ヲ受クル者ヨリ之ヲ援用スルコトヲ要ス

時効ヲ援用スル當時併セテ正當ノ取得又ハ免責ナキコトヲ追認ス

ル者ハ時効ヲ拋棄シタリト看做ス

第九十七條 時効ヲ援用スルニ利益ヲ有スル當事者ノ總テノ承繼人ハ或ハ原告ト爲リ或ハ被告ト爲リ其當事者ノ權ニ基キテ時効ヲ援用スルコトヲ得

債權者ハ財産編第三百三十九條ニ從ヒテ右ト同一ノ權利ヲ有ス
第九十八條 時効ハ訴訟中何時ニテモ之ヲ援用スルコトヲ得又控訴ニ於テモ始メテ之ヲ援用スルコトヲ得然レトモ上告ニ於テハ之ヲ援用スルコトヲ得ス

第九十九條 年又ハ月ニ依リテ成就ス可キ時効ハ曆ニ從ヒテ之ヲ算ス
日ニ依リテ成就ス可キ時効ハ午前零時ヨリ午後十二時マテチ一日ト爲シテ之ヲ算ス

時効ノ進行ノ始マリタル日又ハ其中斷若クハ停止ノ後再ヒ進行ノ始マリタル日ハ之ヲ算セス最後ノ日ハ全ク經過スルコトヲ要ス

第二章 時効ノ拋棄
第一百條 時効ハ豫メ之ヲ拋棄スルコトヲ得ス但第二百二十條第二項ニ記スル如ク占有者カ將來ニ向ヒテ其占有ノ容假ヲ認ムル權利ニ妨

○民法○證據編
四百五十三

ナシ

成就シタル時効ハ之ヲ拋棄スルコトヲ得又其進行中ト雖モ既ニ經過シタル時期ノ利益ハ之ヲ拋棄スルコトヲ得

此場合ニ於テハ第百十八條以下ニ記載セル相手方ノ權利ヲ追認シタル場合ニ於ケルト同シク時効ハ中斷ス

第百一條 拋棄ハ默示タルコトヲ得ルト雖モ明カニ事情ヨリ顯ハルコトヲ要ス

第百二條 成就シタル時効ヲ有効ニ拋棄スルニハ取得シタリト推定セラル、權利ヲ無償ニテ讓渡シ又ハ消滅シタリト推定セラル、義務ヲ無償ニテ負擔スル能力アルコトヲ要ス

第百三條 債權者ハ其權利ヲ詐害シテ債務者ノ爲シタル時効ノ拋棄ニ對シテハ財産編第三百四十條以下ニ定メタル條件及ヒ方法ニ從ヒ自己ノ名ヲ以テ之ヲ攻撃スルコトヲ得

第三章 時効ノ中斷

第百四條 經過シタル時期ノ利益カ下ニ記シタル原因ノ一ニ由リテ消滅スルトキハ時効ハ中斷ス
中斷シタル時効ハ中斷ノ原因ノ止ミシ時ヨリ更ニ進行ス

第百五條 時効ノ中斷ハ自然ノモノ有リ法定ノモノ有リ

自然ノ中斷ハ取得時効ニ關シテノミ生ス
法定ノ中斷ハ取得及ヒ免責ノ時効ニ共通ナリ

第百六條 動産不動産又ハ包括動産ノ占有者カ眞ノ所有者又ハ第三者ノ所爲ニ因リテ一个年以上其占有ヲ奪ハレタルトキハ自然ノ中斷アリ

占有ヲ取戻シタルトキハ時効ハ更ニ進行ス
若シ不可抗力ニ因リテ占有ヲ奪ハレタルトキハ自然ノ中斷ナシ

第百七條 自然ノ中斷ハ各利害關係人ノ爲メニ其効ヲ生ス
第百八條 占有者カ或ル時間任意ニテ其占有ヲ止メシトキハ其占有不繼續ノ効力ハ第百三十九條ニ於テ之ヲ規定ス

第百九條 法定ノ中斷ハ左ノ諸件ヨリ生ス
第一 裁判上ノ請求

第二 勸解上ノ召喚又ハ任意出席

第三 執行文提示又ハ催告

第四 差押

第五 任意ノ追認

○民法〇附編

右ノ手續又ハ追認ノ行爲カ時効ノ爲メ害ヲ受クル者ノ權利ニ明カニ關係スルコトヲ要ス

第百十條 法定ノ中斷ハ中斷ノ所爲ヲ行ヒタル者及ヒ其承繼人ノ爲メニ非サレハ其効ヲ生セズ

第百十一條 本訴ト附帶訴ト反訴トヲ問ハズ裁判上ノ請求ハ時効ヲ中斷ス但其請求カ方式ニ於テ無効タルトキ又ハ管轄違ノ裁判所ニ之ヲ爲シタルトキモ亦同シ
然レトモ右但書ノ場合ニ於テ中斷ハ初メ請求ヲ棄却セシ判決アリタル時ヨリ二个月内ニ更ニ合式ノ訴ヲ提起セサルニ於テハ之ヲ不成立ト看做ス

第百十二條

中斷ハ左ノ場合ニ於テモ亦之ヲ不成立ト看做ス

- 第一 請求カ其基本ニ於テ棄却セラレタルトキ
- 第二 原告カ取下ヲ爲シタルトキ
- 第三 訴訟手續カ民事訴訟法ニ定メタル時間休止シテ無効ト爲リタルトキ

第百十三條 裁判上ノ請求ヨリ生スル中斷ハ訴訟ノ提起ヨリ其判決ノ確定ト爲ルマテ繼續ス

第百十四條

勸解上ノ召喚又ハ任意出席ニ因ル時効ノ中斷ハ主タル請求ハ勿論其反對ノ請求ヨリモ生ズ

召喚ノ無効ハ方式ノ瑕疵ニ因ルモ管轄違ニ因ルモ中斷ヲ妨ケズ但初ノ召喚ノ無効ト爲リタルヨリ一个月内ニ更ニ合式ノ召喚ヲ爲スコトヲ要ス

合式ノ召喚ノ上勸解不調ノ場合及ヒ被告ノ闕席ノ場合ニ於テ中斷ハ一个月内ニ裁判上ノ請求ヲ爲サ、ルトキハ之ヲ不成立ト看做ス

第百十五條 執行文提示ヨリ生スル中斷ハ一年内ニ差押ヲ爲サ、ルトキハ之ヲ不成立ト看做ス右ノ中斷ハ方式ノ瑕疵ニ因リテ其提示ノ無効ナルトキト雖モ尙ホ成立ス但催告ヨリ生スル中斷ノ爲メ下ニ定メタル條件ヲ履行スルコトヲ要ス

第百十六條 義務履行ノ催告ハ義務ノ目的、原因及ヒ債務者ヲ明カニ指示シ且六个月内ニ裁判上又ハ勸解上ノ請求ヲ爲シタルトキニ非サレハ時効ヲ中斷セズ

第百十七條 差押ヨリ生スル中斷ハ其差押ノ手數ヲ合式ニ終結マテ繼續シタルニ非サレハ其效力ヲ存續セズ
假差押ハ裁判所ノ定メタル期間ニ裁判上ノ請求ヲ爲シタルニ非サ

○民法○證據編

レハ時効ヲ中斷セズ

時効ノ利益ヲ受クル者ニ對シテ差押チ爲サ、ルトキハ其差押ハ此者ニ告知シタル後ニ非サレハ之ニ對シテ中斷ノ効力ヲ有セズ

第百十八條 任意ノ追認ヨリ生スル時効ノ中斷ハ裁判上ヨリ又ハ口

頭タルト書面タルトヲ問ハズ裁判外ノ行爲ヨリ生スルコトヲ得

裁判上ノ追認ハ自發ナルコト有リ又ハ判事ノ訊問ヨリ生スルコト有リ

第百十九條 追認ハ明示又ハ黙示ナルコトヲ得

占有者カ占有物ニ關スル果實又ハ賠償ノ要求ニ承服スルトキ又ハ之ニ反シテ占有者カ物ニ付キ爲シタル必要若クハ有益ノ費用ノ爲メ賠償ヲ要求スルトキハ殊ニ取得時効ニ對スル黙示ノ追認アリトス

債務者カ利息又ハ債務ノ辨濟ノ請求ニ承服スルトキ又ハ之ニ反シテ債務者カ提供ヲ爲シ若クハ恩惠期限ノ請求ヲ爲ストキハ殊ニ免責時効ニ對スル黙示ノ追認アリトス

第百二十條 眞ノ所有者ノ權利ヲ追認シタル占有者ハ其所有者及ヒ其承繼人ニ對シ新時効ヲ再ヒ始ムル權利ヲ失ハス然レトモ占有者

ハ最早其以前ノ善意ノ利益ヲ援用スルコトヲ得ス

若シ其占有者カ容假ノ占有者ト爲リタルトキハ將來ニ向ヒ何人ニ對シテモ時効ノ利益ヲ失フ但財産編第百八十五條第二項及ヒ第三項ノ場合ノ適用ヲ妨ケズ

第百二十一條 追認ニ因リテ中斷シタル免責時効ハ即時更ニ進行ス然レトモ其時効ハ最初短期ノモノタリシトキト雖モ將來ニ向ヒテハ長期時効ノ期間ニ從フ

第百二十二條 時効ヲ中斷スル追認ハ自己ノ財産ヲ管理スル能力又ハ時効ニ罹ルコト有ル可キ財産ヲ他人ノ爲メニ管理スル權力ヲ有スル者ニ於テ之ヲ爲シタルトキハ有効ナリ

然レトモ婦女無能力者又ハ委任者ノ利益ニ於ケル不動産ノ取得時効ヲ中斷スル爲メ夫、後見人又ハ代理人ノ爲シタル追認ハ不動産ノ請求ニ承服スル一般又ハ特別ノ權力アルニ非サレハ有効ナラス

第百二十三條 時効ヲ中斷スル追認ノ所爲ニ付キ争アルトキハ通常ノ證據方法ヲ以テ之ヲ證スルコトヲ得

第百二十四條 保證、連帶及ヒ不可分ノ場合ニ於テ各利害關係人ニ對スル追認其他ノ方法ニ因ル時効中斷ノ効力ハ債權擔保編第二十

七條、第六十一條、第八十一條及ヒ第八十九條ニ於テ之ヲ規定ス

四百六十

第四章 時効ノ停止

第二百二十五條

權利ノ行使カ權利上又ハ恩惠上ノ確定若クハ不確定ノ期間ニ服シ又ハ其發生カ停止條件ニ繫ルトキハ其期間ノ滿了又ハ條件ノ成就ノ時ニ非サレハ時効ハ進行ヲ始メス

第二百二十六條

時効ハ物權又ハ人權ニシテ其成立、廣狹又ハ行使カ相續ニ繫ルモノニ對シテハ其相續後ニ非サレハ進行ヲ始メス

第二百二十七條

遺言又ハ前主ノ合意ニ對シ相續人ニ屬スル銷除訴權又ハ抗辯ノ時効ハ其遺言又ハ合意ヲ相續人ニ對シテ援用シ又ハ其相續人ヲ害スル權利行使ノ基礎トシテ用ヰタル後ニ非サレハ進行ヲ始メス

第二百二十八條

上ノ場合ニ於テ時効ハ第三所持者ニ對シテ停止セス但所有權ノ取得時効又ハ抵當ノ消滅時効ヲ中斷セント欲スル利害關係人ニ於テ自己ノ未定ノ權利ノ追認證書ヲ得ント請求スルコト又ハ裁判上其權利ヲ單ニ追認セシムルコトヲ妨ケス

第二百二十九條

時効カ其進行中ニ停止セラルルトキハ既ニ經過シタル時間ハ其時効ノ更ニ進行ヲ始ムル時ニ之ヲ通算ス

第二百三十條

時効ハ法律ニ定メタル人ノ利益ニ於ケルニ非サレハ停止セス

第二百三十一條

期間五個年以下ノ時効ハ成年者ニ對スル如ク未成年者及ヒ禁治產者ニ對シテ進行ス但後見人カ此等ノ者ノ權利ヲ行フコトヲ怠リ又ハ正當ノ原因ナクシテ此權利ヲ覺知セサル場合ニ於テハ此等ノ者ヨリ其後見人ニ對スル求償權ヲ妨ケス

五個年ヲ超ユル時効ニ關シテハ其期間ハ成年ニ達シタル未成年者又

ハ精神ノ回復シタル禁治產者ヲシテ常ニ其權利ヲ行フ猶豫ヲ得セシムル爲メ最後ノ一個年停止ス

第二百三十二條

時効ハ婦ニ對シ第三者ノ利益ニ於テ進行ス但夫カ婦ノ爲メニ管理スル財産ニ關シ其夫ノ方ニ懈怠アル場合ニ於テハ婦ヨリ夫ニ對スル求償權ヲ妨ケス

然レトモ法律ニ規定シタル場合ニ於テハ時効ハ婦ノ爲メ最後ノ一個年停止ス

第二百三十三條

前二條ノ規定ハ無能力者自身ニテ爲シタル行爲ノ銷除訴權ノ時効停止ニ關シ財産編第五百四十五條及ヒ第五百四十六條ニ定メタルモノヲ妨ケス

○民法○附編

第三百二十四條 配偶者ノ一人ヨリ他ノ一人ニ對シテ行フ可キ權利ニ關シテハ婚姻中ト雖モ時効ハ進行ス

然レトモ其時効ハ最後ノ一个年停止ス又一个年以下ノ時効ニ關シテハ其最後ノ半期間停止ス第四百四十四條ノ場合ニ於テハ動産回復ノ期間ハ三個月トス

第三百三十五條 時効ハ財産ノ管理人ト其管理ヲ受クル者トノ間ニ於テ其保存スルコトヲ任セラルタル權利ニ付テハ管理人ノ爲メニ停止ス

時効ハ管理カ止ミシ以後ニ非サレハ更ニ進行セズ又第四百四十四條ノ場合ニ於ケル動産ノ時効ニ關シテハ三個月ヲ以テスルニ非サレハ成就セズ

第三百三十六條 上ニ定メサル場合ニ於テ時効ノ期間ノ滿了スル時ニ當リ有權者カ交通ノ塞カリタルニ因リ又ハ地方ノ裁判事務ノ停止セラレタルニ因リテ其權利ノ效用ヲ致サシメ又ハ時効ヲ中斷スル爲メ手續ヲ爲スコト能ハサリシ時ハ有權者其妨碍ノ止ム後直チニ請求ヲ爲スニ於テハ其失權ヲ免カルルコトヲ得
右ノ規定ハ陸海軍人カ戰亂ノ時ニ於テ服役ノ爲メ其權利ヲ行フコトヲ妨ケラレタル場合ニ於テハ其利益ノ爲メ之ヲ適用ス

第三百三十七條 物權又ハ人權ノ不可分ヨリ生スル時効ノ停止ハ財産編第二百九十一條、第四百四十六條及ヒ債權擔保編第八十九條第二項ニ於テ之ヲ規定ス

第五章 不動産ノ取得時効

第三百三十八條 不動産ノ取得時効ニ付テハ所有者ノ名義ニテ占有シ其占有ハ繼續シテ中斷ナシ且平穩、公然ニシテ下ニ定メタル繼續期間アルコトヲ要ス

第三百三十九條 占有者カ時効ヲ生セズ又ハ容假ノ占有ハ時効ヲ生セズ

長キ時間所有者ノ行爲ヲ爲スコトヲ任意ニテ止メシトキハ其占有ハ不繼續ニシテ時効ヲ生セズ

占有者カ再ヒ所有者ノ行爲ヲ爲ストキハ其以前ノ占有ノ時間ハ占有者ノ爲メニ之ヲ算セズ

第四百十條 占有カ上ニ定メタル條件ノ外財産編第八十一條ニ記載シタル如キ正權原ニ基因シ且財産編第八十二條ニ從ヒテ善意

○民法○附編

ナルキハ占有者ハ不動産ノ所在地ト時効ノ爲メ害ヲ受クル者ノ住所又ハ居所トノ間ノ距離ヲ區別セテ十五年ヲ以テ時効ヲ取得ス。占有者カ正權原ヲ證スルコトヲ得ズ又ハ之ヲ證スルモ財産編第八十七條ニ規定シタル如ク其惡意カ證セラル、トキハ取得時効ノ期間ハ三十年トス。

第四百一十一條 性質上登記ヲ爲ス可キ正權原ニ基因シタル時効ハ其證書ニ依リ登記ヲ爲シタル後ニ非サレハ之ヲ算セズ。

第四百一十二條 方式上無効アリ又ハ裁判上取消サレタル權原ハ時効ノ爲メニ有益ナラス。

第四百一十三條 前主ノ占有ヲ其相續人及ヒ包括若クハ特定ノ承繼人ノ占有ニ併合シ又ハ繼續スルコトハ財産編第九十二條ニ於テ之ヲ規定ス。

第六章 動産ノ取得時効

第四百一十四條 正權原且善意ニテ有體動産物ノ占有ヲ取得スル者ハ即時ニ時効ノ利益ヲ得但第四百二十四條及ヒ第四百三十五條ニ記載シタルモノヲ妨ケズ。

此場合ニ於テ反對カ證セラレサルトキハ占有者ハ正權原且善意ニ

テ占有スルモノトノ推定ヲ受ク

第四百一十五條 動産物ノ占有者カ正權原ヲ有シ且善意ナル場合ニ於テモ其物カ所有者ノ盜取セラレタルモノ又ハ遺失シタルモノナルトキハ其所有者ハ盜難又ハ遺失ノ時ヨリ二個年間に占有者ニ對シテ其物ノ回復ヲ請求スルコトヲ得但占有者カ其物ヲ有償ニテ受ケタルトキハ其讓渡人ニ對スル求償ヲ妨ケズ。

背信ニ因リテ隱匿シ又ハ詐欺ヲ以テ得タル物ニハ本條ヲ適用セズシテ前條ノ規定ニ從フ。

第四百一十六條 盜取セラレ又ハ遺失シタル物ヲ競賣又ハ公ノ市場ニ於テ又ハ此類ノ物ノ商人若クハ古物商人ヨリ善意ニテ買受ケタル者アルトキハ所有者ハ其買受代價ヲ辨償スルニ非サレハ回復ヲ爲スコトヲ得ズ。

此場合ニ於テハ右ノ代價ニ付キ所有者ハ賣主ニ對シ又賣主ハ讓渡人ニ對シテ求償權ヲ有シ終ニ盜取者又ハ拾得者ニ遡ル。

第四百一十七條 無記名債權證書ヲ盜取セラレ又ハ遺失シタル場合ニ於テ其證書回復ノ期間及ヒ條件ハ特別ノ規則ヲ以テ之ヲ定ム。

第四百一十八條 上ノ場合ニ於テ回復者カ占有ノ無權原アリ又ハ惡意

タルコトヲ附スルトキハ時効ハ三十年ヲ経過スルニ非サレハ成就セズ

第四百十九條 上ノ規定ハ用方ニ因リテ不動産ト爲リタル動産カ其附著シタル不動産ヨリ分離セラレタル場合ニ於テハ其動産ニ之ヲ適用ス

上ノ規定ハ財産編第十二條ニ從ヒ用方ニ因ル動産ニ之ヲ適用セズ但其物カ土地ヨリ分離シタルトキハ此限ニ在ラス
又上ノ規定ハ記名債權ニモ包括動産ニモ之ヲ適用セズ但此等ノ物ニ關スル時効ノ期間ハ第三百三十八條以下ニ記載シタル區別ニ從ヒ不動産ニ關スルモノト同一ナリ

第七章 免責時効

第五百十條 義務ノ免責時効ハ債權者カ其權利ヲ行フコトヲ得ヘキ時ヨリ三十年間之ヲ行ハサルニ因リテ成就ス但法律上別段短キ期間ヲ定メ又ハ債權ヲ時効ニ罹ラサルモノト定メタルトキハ此限ニ在ラス

第五百十一條 債務ノ元本カ年賦ニテ辨濟ス可キモノタルトキハ利息モ包含スルト否トテ問ハス時効ハ各年賦ノ要求期ニ達シタル時

ヨリ各別ニ之ヲ算ス

第五百十二條 債權カ無期又ハ終身ノ年金權ナルトキト雖モ其時効ハ證書ノ日附ヨリ三十年ヲ以テ成就ス

然レトモ右ノ日附ヨリ二十八年ノ後ニ至リ債權者ハ債務者ニ對シ時効ヲ中斷スル爲メ雙方ノ費用ヲ以テ其權利ノ追認證書ヲ得ント要求スルコトヲ得

若シ債務者右ノ要求ヲ拒絕シ債權者裁判上自己ノ權利ヲ追認セシムル必要アルトキハ其費用ハ全ク債務者ノ負擔タリ

第五百十三條 動産質又ハ不動産質ノ返還ヲ得ル爲メノ對人訴權ハ適法ナル方法ニ因リテ債務ノ消滅シタル後ニ非サレハ時効ニ罹ラス

第八章 特別ノ時効

第五百十四條 人ノ身分ニ關スル訴權ハ法律カ其行使ヲ特別ノ期間ニ繋テシムル場合ニ非サレハ時効ニ罹ラス

第五百十五條 相續人又ハ包括權原ノ受遺者若クハ受贈者ノ分限ヲシテ効用ヲ致サシムル爲メノ遺産請求ノ訴權ハ相續人又ハ包括權原ノ受贈者若クハ受遺者ノ權原ニテ占有スル者ニ對シテハ相續ノ時ヨリ三十年ヲ経過スルニ非サレハ時効ニ罹ラス

○民法○附編

第五百五十六條 免責時効ハ左ニ掲クル諸件ノ辨濟ノ訴權ニ對シテハ五ヶ年トス

- 第一 明確ナル金額ノ填補又ハ遅延ノ利息
 - 第二 無期又ハ終身ノ年金權ノ年金
 - 第三 養料又ハ恩給ノ一期ノ支拂金
 - 第四 借家賃又ハ借地賃
 - 第五 果實又ハ日用品ノ每期ノ給與額
 - 第六 教師、番頭、手代、使用人、乳母其他ノ雇人ノ謝金又ハ給料ニシテ一ヶ年毎ニ定メラレタルモノ
- 此他一般ニ一ヶ年毎ニ又ハ更ニ短キ時期ヲ以テ定メタル金額又ハ有價物ニ係ル債務ニ付テモ亦同シ但其辨濟ノ方法如何ニ拘ハラズ且下ニ規定シタル場合ハ此限ニ在ラズ
- 第五百五十七條 時効ハ左ノ訴權ニ對シテハ三ヶ年トス
- 第一 醫師、産婆、藥劑者ノ治術、世話及ヒ調劑ニ關スル其訴權
 - 第二 前條第六號ニ指定シタル教師、使用人其他ノ者ノ謝金又ハ給料カ一ヶ年ヨリ短ク一ヶ月ヨリ長キ時期ヲ以テ定メラレタル場合ニ於テハ其訴權

第三 技師、工匠、測量師、製圖師ノ經畫、意見及ヒ工事ニ關スル訴權

第四 不動産ニ關スル築造、地均其他ノ工作ニ付テノ請負人ノ訴權

第五百五十八條 公證人、辯護士、執達吏其他ノ公吏カ職務ニ關シテ受ク可キモノニ付テノ其訴權ニ對スル時効ハ二ヶ年トス
此場合ニ於テ時効ハ右各人ノ債權ヲ生セシメタル行爲又ハ訴訟ノ終了後ニ非サレハ進行ヲ始メス
然レトモ終了セサル事件ニ關シテハ右各人ハ五ヶ年餘ニ遡ル行爲ノ爲メニ謝金ヲ要求スルコトヲ得ス
此規定ハ右各人カ其職務ノ爲メニ爲シタル立替金及ヒ支出金ニ之ヲ適用ス

第五百五十九條 時効ハ左ノ訴權ニ對シテハ一ヶ年トス

- 第一 非商人ニ爲シタル供給ニ關スル日用品、衣服其他動産物ノ卸賣商人又ハ小賣商人ノ訴權但商人又ハ工業人ニ爲シタル供給ト雖モ其者ノ商業又ハ工業ニ關セサル場合ニ於テハ亦同シ

第二 右ノ區別ヲ以テ注文者ノ材料又ハ動物ニ付キ仕事ヲ爲ス
居職ノ職工又ハ製造人ノ訴權

第三 生徒又ハ習業者ノ教育、衣食及ヒ止宿ノ代料ニ關スル校
長、塾主、師匠又ハ親方ノ訴權

第六十條

時効ハ左ノ訴權ニ對シテハ六個月トス

第一 第五百十六條第六號及ヒ第五百五十七條第二號ニ指定シタ
ル教師、使用人其他ノ者ノ謝金又ハ給料カ一個月又ハ更ニ短
キ時期ヲ以テ定メラレタル場合ニ於テハ其訴權

第二 旅店又ハ料理店ノ主人ヨリ供給シタル宿泊料、飲食料及
ヒ消費物ニ關スル其訴權

第三 日雇、月雇ノ職工又ハ勞力者ノ給料及ヒ其仕事ニ際シ此
等ノ者ノ爲シタル些少ノ供給ニ關スル其訴權

第六十一條

前五條ニ規定シタル時効ハ現實ニ辨濟セサリシコト
ヲ自白シタル債務者之ヲ援用スルコトヲ得ス

第六十二條

裁判所書記、辯護士ハ裁判ノ時ヨリ公證人ハ證書調
製ノ時ヨリ執達吏ハ其職務執行ノ時ヨリ三年ノ後ハ其職務ノ事
件ニ關シテ交付セラレタル書類ニ付キ責任ヲ免カレ其書類返還ノ

證ヲ提示スル義務ヲ免除セラル

第六十三條 本章ニ規定シタル時効ハ當事者ノ間ニ明確ナル計算
書、數額ヲ記載シタル債務ノ追認書又ハ債務者ニ對スル判決書ア
ルトキハ之ヲ適用スルコトヲ得ス此場合ニ於テハ時効ハ三十年
トス

附則

第六十四條 本法實施ノ當時ニ於テ進行中ナル時効ハ上ニ定メタ
ル條件、禁止、中斷及ヒ停止ニ從フ

其期間ニ關シテハ舊時効カ新時効ヨリ一層長キ期間ヲ要スル場合
ニ於テハ占有者又ハ債務者ハ本法實施ノ時ヨリ算シテ舊時効ノ經
過ス可キ殘期カ新時効ノ期間ヨリ短キトキハ舊時効ヲ利スルコト
ヲ得

新時効ヨリ一層短キ期間ノ舊時効ニ關シテハ其期間ハ本法ニ定メ
タルモノニ等シキ期間ニ達スル様之ヲ延長ス可シ

證據編畢

○民法○證據編

本日
齋法

第二節	合資會社	三
第三節	株式會社	三
第一款	總則	三
第二款	會社ノ發起及ヒ設立	全
第三款	會社ノ商號及ヒ株主名簿	全
第四款	株式	全
第五款	取締役及ヒ監査役	全
第六款	株主總會	四
第七款	定款ノ變更	四
第八款	株金ノ拂込	四
第九款	會社ノ義務	四
第十款	會社ノ検査	四
第十一款	取締役及ヒ監査役ニ對スル訴訟	五
第十二款	會社ノ解散	五
第十三款	會社ノ清算	五
第四節	罰則	五
第五節	共算商業組合	六

第七章	商事契約	六
第一節	契約ノ種類	全
第二節	契約ノ取結	六
第三節	契約ノ履行	六
第四節	價額賠償、損害賠償及ヒ割引	七
第五節	違約金	七
第六節	代理	七
第七節	時効	七
第八節	交互計算	七
第九節	質權	七
第十節	留置權	八
第十一節	指圖證券及ヒ無記名證券	八
第八章	代辦人、仲立人、仲買人、運送取扱人及ヒ運送人	八
第一節	總則	八
第二節	代辦人	全
第三節	仲立人	八
○商法目錄		九

第四節	取引所仲立人	九十七丁
第五節	仲買人	九十九丁
第六節	運送取扱人	百四丁
第七節	運送人	百七丁
第八節	旅客運送	百十三丁
第九章	賣買	百十四丁
第一節	賣買契約	全丁
第二節	供給契約	百二十一丁
第三節	競賣	百二十二丁
第四節	取戻權	百二十四丁
第十章	信用	百二十七丁
第一節	消費貸借	全丁
第二節	信用約束	百三十丁
第三節	寄託	百三十二丁
第十一章	保險	百三十五丁
第一節	總則	百三十六丁
第二節	火災及地震ノ保險	百四十五丁

四

第三節	土地ノ產物ノ保險	百四十七丁
第四節	運送保險	百四十八丁
第五節	生命保險、病傷保險及年金保險	百五十三丁
第六節	保險營業ノ公行	百五十六丁
第十二章	手形及小切手	全丁
總則		全丁
第一節	爲替手形	百六十丁
第一款	振出	全丁
第二款	裏書	百六十一丁
第三款	引受	百六十三丁
第四款	榮譽引受	百六十六丁
第五款	保證	百六十八丁
第六款	支拂	全丁
第七款	榮譽支拂	百七十一丁
第八款	償還請求	百七十三丁
第九款	拒證書作成	百七十六丁
第十款	戻爲替手形	百七十八丁

五

○商法目錄

第十一款	資金	百七十九丁
第二節	約束手形	百八十丁
第三節	小切手	百八十一丁
第二編	海商	百八十三丁
第一章	船舶	百八十七丁
第二章	船舶所有者	全
第一節	船舶所有權ノ取得及ヒ移轉	全
第二節	船舶所有者ノ權利及ヒ義務	百八十八丁
第三章	船舶債權者	百九十丁
第四章	船長及ヒ海員	百九十五丁
第一節	船長	全
第二節	海員	百九十九丁
第五章	運送契約	二百丁
第一節	船舶貸借契約	全
第二節	船荷證書	二百丁
第三節	運送貨	二百五丁
第四節	旅客運送	二百七丁

六

第六章	海損	二百十四丁
第七章	冒險貸借	二百十九丁
第八章	保險	二百二十一丁
第一節	保險契約ノ取結	全
第二節	保險者及ヒ被保險者ノ權利義務	二百二十二丁
第三節	委棄	二百二十四丁
第九章	時効	二百二十八丁
第三編	破産	全
第一章	破産宣告	全
第二章	破産ノ効力	二百三十一丁
第三章	別除權	二百三十四丁
第四章	保全處分	二百三十五丁
第五章	財團ノ管理及ヒ換價	二百三十七丁
第六章	債權者	二百四十二丁
第一節	債權ノ届出及ヒ確定	全
第二節	特種ノ債權者	二百四十五丁
第三節	債權者集會	二百四十六丁

七

○商法目錄